

2026 年 6 月

食料安全保障月報 (第 60 号)



令和 8 年 6 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2026年6月食料安全保障月報(第60号)

目次

概要編

I 2026年6月の主な動き	1
II 2026年6月の穀物等の国際価格の動向	4
III 2026/27年度の穀物需給(予測)のポイント	4
IV 2026/27年度の油糧種子需給(予測)のポイント	4
V 今月の注目情報「近年の異常気象と世界の穀物生産への影響」	5

(資料)

1-1~3 穀物等の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較)	1 1
1-4 穀物等の国際価格の動向	1 4
1-5 サプライチェーン等に関する状況	1 5
2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 6
3 穀物等の期末在庫率の推移(穀物全体、品目別)	1 7
4 加工食品の主な輸入原材料(穀物等を除く)の状況	1 9
5 食品小売価格の動向	2 3
6 海外の畜産物の需給動向(alic提供)	2 4
7 FAO食料価格指数	2 5

今月のコラム

「南米・チリの食事情①:アサードという食文化」	2 6
-------------------------	-----

品目別需給編

I 穀物	
1 小麦	1
<米国> 2026/27年度の生産量は前年度から22.2%減少する見込み	
<カナダ> 2026/27年度 of 生産量は前年度から13.4%減少する見込み(AAFC)	
<豪州> 2026/27年度 of 生産量は前年度から25.7%減少する見込み(ABARES)	
<EU27> 2026/27年度 of 生産量は前年度から5.8%減少する見込み(EC)	
<ロシア> 2026/27年度 of 生産量は前年度から2.5%減少する見込み	
<ウクライナ> 2026/27年度 of 生産量は前年度から2.5%減少する見込み	
<中国> 2026/27年度 of 輸入量は前年度同の見込み	
2 とうもろこし	9
<米国> 2026/27年度 of 生産量は、前年度から6.0%減少する見込み	
<ブラジル> 2026/27年度 of 生産量は、前年度から0.7%増加する見込み	
<アルゼンチン> 2026/27年度 of 生産量は、前年度から9.8%減少する見込み	
<ウクライナ> 2026/27年度 of 生産量は、前年度から2.9%減少する見込み	
<中国> 2026/27年度 of 生産量は、前年度から1.9%増加する見込み	

3 コメ	1 5
<タイ>	2026/27年度の生産量は、前年度から1.9%減少する見込み
<米国>	2026/27年度の生産量は、前年度から15.2%減少する見込み
<中国>	2026/27年度の生産量は、前年度から0.5%増加する見込み
<インド>	2026/27年度の生産量は、前年度から2.6%減少する見込み
<ベトナム>	2026/27年度の生産量は、前年度から0.4%減少する見込み
II 油糧種子	
大豆	2 1
<米国>	2026/27年度の生産量は前年度から4.1%増加する見込み
<ブラジル>	2026/27年度の生産量は前年度から3.3%増加する見込み
<カナダ>	2026/27年度の輸出量は前年度から1.8%減少する見込み(AAFC)
<中国>	2026/27年度の生産量は前年度から0.5%増加する見込み
<アルゼンチン>	2026/27年度の生産量は前年度同の見込み
(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について(2026/27年度)	2 7
(参考2)単位換算表	2 8
(参考3)クロープカレンダー	2 9

表紙写真:フランス北東部ヴォージュ県エピナルの冬小麦。穂ばらみ期から登熟初期を迎えており、作柄は良好である。

(撮影日:2026年6月6日)

(概要編)

I 2026年6月の主な動き

主要穀物等の生産量等について

6月の米国農務省(USDA)の需給報告によれば、2026/27年度の各品目の生産量等の状況は以下のとおり。

小麦の生産量は、豪州、パキスタン等で下方修正されたものの、ロシア、トルコ等で上方修正され、前月から1.0百万トン上方修正された。前年度からは、トルコ、モロッコ、インド、シリア、イラン等で増加するものの、米国、EU、豪州、アルゼンチン、カナダ、カザフスタン、ロシア等で減少し、世界全体の生産量は前年度から24.3百万トン減の820.1百万トンとなる見通し。

とうもろこしの生産量は、インドで上方修正され、前月から5.0百万トン上方修正された。前年度からは、中国、セルビア等で増加するものの、米国、アルゼンチン、インド等で減少し、世界全体の生産量は前年度から26.3百万トン減の1,300.4百万トンとなる見通し。

大豆の生産量は、ロシアで下方修正され、前月から0.2百万トン下方修正された。前年度からは、ブラジル、米国等で増加し、世界全体の生産量は前年度から12.1百万トン増の441.3百万トンと史上最高となる見通し。

期末在庫量は、小麦、とうもろこし及び大豆とも前年度から減少となっている。消費需要は引き続き旺盛であり、注視が必要。

FAO(国連食糧農業機関)が公表した5月の食料価格指数(最新値)については、植物油及び乳製品の価格指数が下落したことにより、4月の131.0から130.8と下落(参考:2025年5月127.1)。

海上運賃については、バルチック海運指数(穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数)が、5月末時点3,224(4月末時点2,686、2025年平均値1,682)。



写真:ロシア・スタヴロポリ地方のとうもろこし。

6葉期を迎えており、生育は低温により
平年より10~12日遅れている。

撮影日:2026年6月7日



写真:豪州・ウエスタンオーストラリア州の初
期生育期の小麦。

撮影日:2026年6月5日

ウクライナの生産・輸出動向

6月のUSDAの需給報告によれば、2026/27年度のウクライナの小麦の生産量は、前月予測から50万トン上方修正されたものの、収穫面積が減少することを受け、前年度から2%減少し2,350万トンとなる見込み。また、輸出量は、前月予測から100万トン上方修正され、前年度同の1,400万トンとなる見込み。

2026/27年度のとうもろこしの生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が増加するものの、収穫面積が減少することを受け、前年度から3%減少し3,000万トンとなる見込み。また、輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から5%増加し2,300万トンとなる見込み。

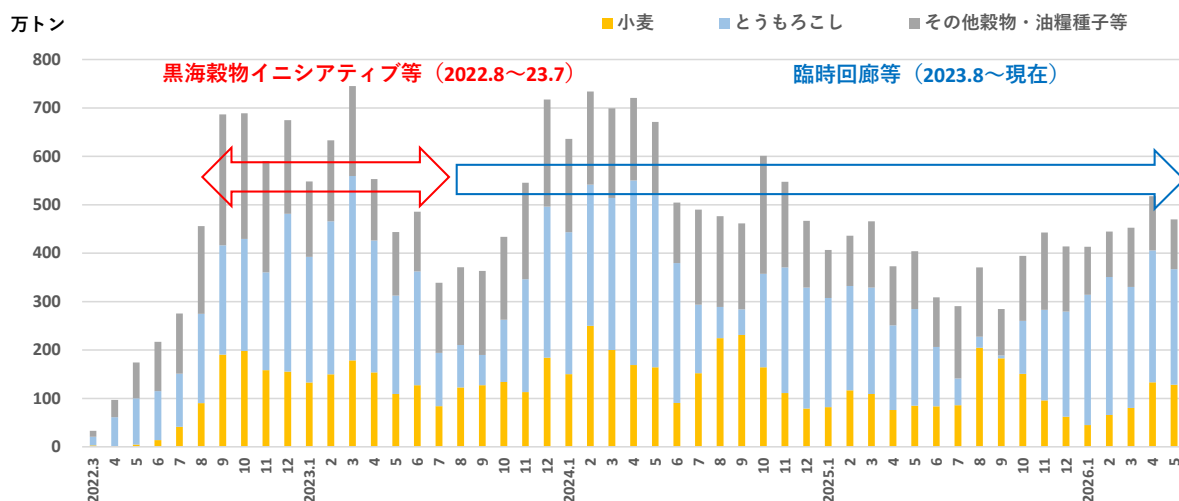
現地情報会社によれば、5月末現在、2026/27年度の冬小麦の作柄は概ね良好。また、6月15日現在、2026/27年度の春小麦の作付面積は18.9万ヘクタールと、当初の作付予定面積(18.6万ヘクタール)を上回った。とうもろこしの作付面積は437.5万ヘクタールで作付進捗率は99%。ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.12)によれば、2026/27年度の小麦の収穫見通しは2,200~2,300万トンと、前年度からわずかに減少。とうもろこしは3,200万トン超の見通し。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意(黒海穀物イニシアティブ)により、同年8月以降、オデーサ港等3港からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。

黒海穀物イニシアティブの停止後、ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関(IMO)に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊のほか、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出等が行われているものの、ロシアによるウクライナの港湾インフラ等に対する攻撃が続いており、引き続き輸出動向について注視が必要。

(参考) ウクライナの輸出量の推移(月毎)(2022年3月~2026年5月)



出典:ウクライナ経済・環境・農業省、ウクライナ穀物協会のデータをもとに農林水産省で作成
注:データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計

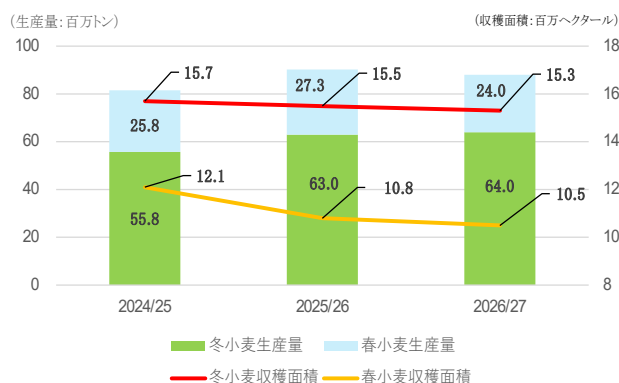
1 ロシア:春の降雨で2026/27年度の冬小麦の作柄は改善も、春小麦の作付けには支障

USDAによれば、2026/27年度のロシアの小麦生産量は、前月予測から2.3%増となるものの、前年度から2.5%減の88.0百万トンとなる見込み。これは、単収が前月予測から4.3%増となるものの、前年度から0.6%減の3.41トン/ヘクタールとなるとともに、収穫面積が前月予測及び前年度から1.9%減の25.8百万ヘクタールとなることによる。

種類別の生産量は、冬小麦が64.0百万トン、春小麦が24.0百万トンとなる見込み(図1)。冬小麦は、休眠明けからの降雨量が概ね平年を上回り、十分な水分が供給され、平年を大きく上回る生育となっている。

一方、春小麦は、湿潤な春の気象条件により作付けが遅延しており、6月頭時点で11.1百万ヘクタールの作付計画に対して8.0百万ヘクタールにとどまっている。現在、春小麦の作付けシーズン終盤を迎えており、最適な成育期間が確保できなくなりつつある。このため、農家は、作付時期が遅い油糧種子などの夏作物への転換を検討し始めている。

図1:ロシアの小麦生産量及び収穫面積の推移



出典:USDA「World Agricultural Production」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

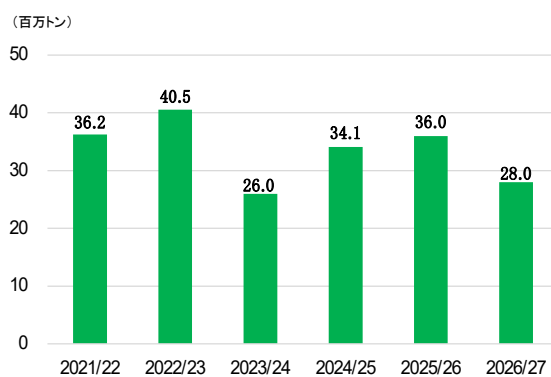
2 豪州:乾燥により2026/27年度の小麦生産量を下方修正

USDAによれば、2026/27年度の豪州の小麦生産量は、前月予測から6.7%減、前年度から22.2%減、過去5年平均から19.0%減の28.0百万トンとなる見込み(図2)。これは、収穫面積が、前月予測から6.8%減、前年度から11.4%減、過去5年平均から13.5%減の11.0百万ヘクタールとなるとともに、単収も、前月予測から0.4%増となるものの、前年度から12.1%減、過去5年平均から6.0%減の2.55トン/ヘクタールとなることによる。

ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州南部では、5月中旬から下旬にかけて降雨があったものの、降雨量は土壤水分を改善するには不十分であり、広範囲の乾燥により作付けが遅れ、作付面積が減少した。両州では、作付けされた小麦の定着を促すため、さらなる降雨が必要となっている。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2026.6.2)によれば、2026/27年度は、肥料コストの高騰と土壤水分の不足により、小麦の作付面積が大幅に減少すると見込まれている。これにより、生産量も減少が見込まれる。

図2:豪州の小麦の生産量の推移



出典:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

II 2026年6月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、5月末、220ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、冬小麦の収穫開始等を受け210ドル/トン台前半まで下落したものの、米国産冬小麦の作柄や欧州の高温に対する懸念等を受け上昇し、6月中旬現在、220ドル/トン台前半で推移。

とうもろこしは、5月末、170ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、米国の良好な天候等を受け160ドル/トン台前半まで下落したものの、中国の米国産とうもろこしの購入観測等を受け上昇し、6月中旬現在、160ドル/トン台半ばで推移。

コメは、5月末、480ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、中東での紛争による燃料費の高騰、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受け上昇し、6月中旬現在、500ドル/トン台前半で推移。

大豆は、5月末、430ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、米国の生育に適した天候等を受け410ドル/トン割れまで下落したものの、中国の米国産大豆の購入観測等を受け上昇し、6月中旬現在、410ドル/トン台前半で推移。

(注)小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場(期近物)、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2026/27年度の穀物需給(予測)のポイント

6月のUSDAの需給報告によれば、2026/27年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは減少し、穀物全体でも減少となり、前年度から2.0%減の29.52億トン。

消費量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは増加し、穀物全体でも増加となり、前年度から0.2%増の29.83億トンと、消費量が生産量を上回る見込み。

貿易量は、前年度から、コメは増加、小麦、とうもろこしは減少し、穀物全体では減少となり、前年度から5.0%減の5.25億トン。

期末在庫量は、7.81億トンと前年度から減少し、期末在庫率も前年度を下回り26.2%となる見込み(P16資料2参照)。

(注:数値は6月のUSDA「PS&D」による)

IV 2026/27年度の油糧種子需給(予測)のポイント

6月のUSDAの需給報告によれば、2026/27年度の油糧種子全体の生産量は、前年度を上回り7.18億トン。

消費量も前年度を上回り7.16億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度を上回り1.47億トンとなるものの、期末在庫率は前年度を下回り20.5%となる見込み。

(注:数値は6月のUSDA「PS&D」による)

V 今月の注目情報: 近年の異常気象と世界の穀物生産への影響

世界気象機関(WMO)は、6月2日、熱帯太平洋の海面水温が異常に高いことを背景に、「エルニーニョ現象」が進行しており、今後数か月間にわたり、世界の気温や降水パターンに影響を与え、異常気象のリスクを高める見込みを示した。また気象庁は、6月10日、「エルニーニョ現象」が発生しているとみられると発表した。報道等においては、スーパーエルニーニョの発生を懸念するものもある。そのため、近年の異常気象による穀物生産への影響と今後の見通しをまとめた。

1 エルニーニョ現象・ラニーニャ現象

(1)エルニーニョ現象・ラニーニャ現象

気象庁によれば、「エルニーニョ現象」とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象である。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象が「ラニーニャ現象」と呼ばれ、それぞれ数年おきに発生する。「エルニーニョ現象」や「ラニーニャ現象」は、日本を含め世界中の異常な天候の要因となり得ると考えられている。

(2)WMO のエルニーニョ／ラニーニャ・アップデート

世界気象機関(WMO)が、6月2日に公表したプレスリリースによれば、熱帯太平洋(フィリピン、インドネシア及びマレーシアに囲まれた熱帯太平洋の海域)の海面水温が異常に高いことを背景に、「エルニーニョ現象」が進行しており、今後数か月間にわたり、世界の気温や降水パターンに影響を与え、異常気象のリスクを高める見込みと発表した。

WMO の最新のエルニーニョ／ラニーニャ情勢報告によれば、5月中旬時点で、熱帯太平洋の海面水温の異常値は上昇し続けており、モデル予測や専門家の評価によれば、2026年6～8月にかけて、「エルニーニョ現象」が発生する確率は80%と極めて高く、この現象が少なくとも11月まで続く確率が90%前後、あるいはそれを上回るとされている。一方、中立状態となる可能性は約20%(図1)。

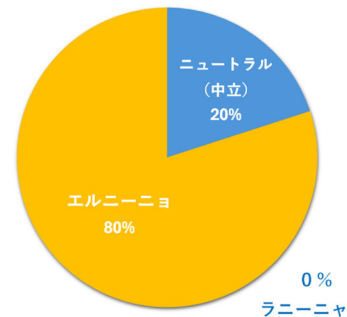
※気象庁によれば、南太平洋東部で海面気圧が平年より高い時は、インドネシア付近で平年より低く、南太平洋東部で平年より低い時は、インドネシア付近で平年より高くなるというシーソーのような変動のことを、南方振動と呼んでいる。南方振動は、貿易風の強弱に関わることから、エルニーニョ・ラニーニャ現象を大気と海洋の一連の変動として見るとき、エルニーニョ・南方振動(ENSO:エンソ)という言葉がよく使われている。

FEWS NET(Famine Early Warning Systems Network)によれば、エルニーニョ・南方振動(ENSO)は、熱帯太平洋全域における海面水温と大気風向・風速の変動を特徴とする自然現象で、「ニュートラル」、「ラニーニャ」、「エルニーニョ」の3つの段階がある。

「エルニーニョ現象」のピーク時や強度、時期については依然として不確実性があるものの、多くの予測モデルでは、少なくとも「中程度」、場合によっては「強い」レベルに達すると示唆している。

WMO が利用する様々な観測プラットフォームのデータによると、4月下旬から5月中旬にかけて、監視基準として用いられている赤道太平洋中東部における海面水温は、エルニーニョの閾値に近づいた。こうした海面水温の上昇は、熱帯太平洋全域で観測される異例の暖水状態により引き起こされており、水温は平年を6℃以上上回り、観測されている海面水温の上昇に寄与する膨大な熱の貯蔵庫となっている。大気変動である南方振動指数も、「エルニーニョ現象」が進行している状況と一致している。

図1 エルニーニョ・南方振動(ENSO)*発生確率予測(2026年6～8月)



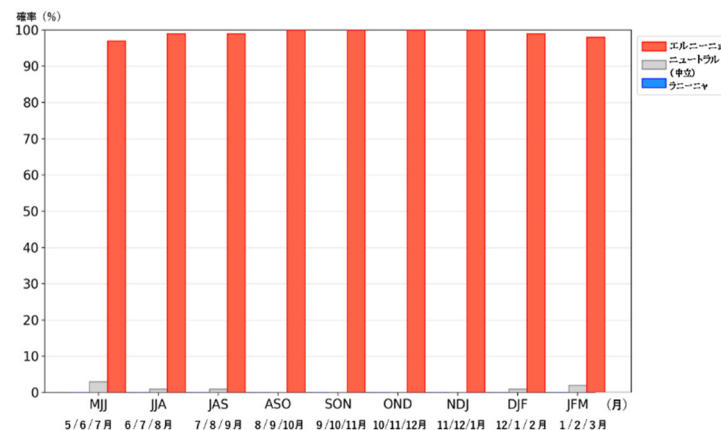
出典:WMO「El Niño/La Niña Update」(2026.6)を元に農林水産省にて作成

WMO のサウロ事務局長は本プレスリリースで、「我々は、干ばつや豪雨を悪化させ、陸上及び海洋における熱波のリスクを高める可能性のある、強力なエルニーニョ現象に備える必要がある。2023 年から 2024 年にかけて発生した直近のエルニーニョ現象は、観測史上5番目に強いものの1つであり、2024 年に観測された全世界的な記録的高温の一因となった。」と述べた。

(3) 米国国立海洋大気庁 (NOAA) 予測

米国国立海洋大気庁 (NOAA) 気候予測センター (CPC) 「CPC Probabilistic ENSO Outlook」(2026.5.14 及び 6.11) によれば、エルニーニョ・南方振動 (ENSO) は5月時点では中立状態にあり、赤道域の海面水温は、太平洋中部及び東部で概ね平年を上回っていた。6月上旬時点で「エルニーニョ現象」は間もなく発生する見込み(2026年5~7月の発生確率 97%)であり、2026~2027年の北半球の冬にかけて継続する見込み(2026年8月~2027年1月の継続確率 100%) (図2)。

図2 CPC による確率論的エルニーニョ・南方振動 (ENSO) 予測 (2026年6月公表分)



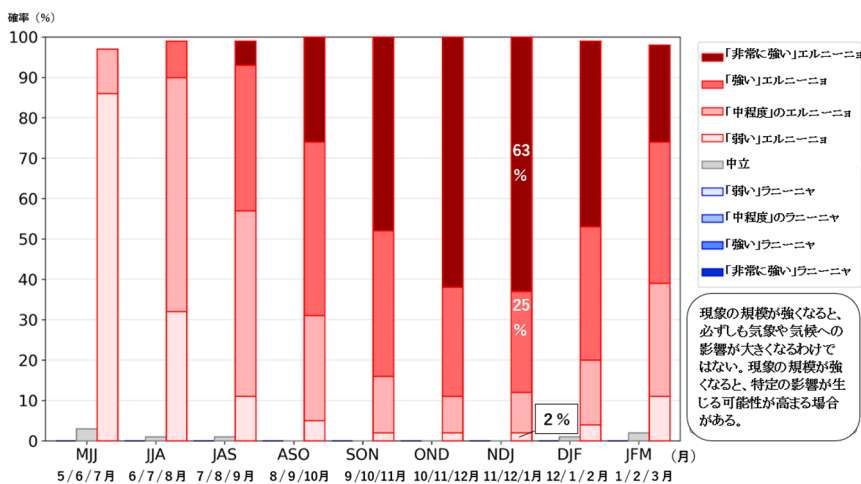
出典: NOAA CPC 「ENSO Probabilities」(2026.6.11) による

2 エルニーニョ現象の特徴

WMO によれば、「エルニーニョ現象」は、赤道太平洋の中央部及び東部における海面水温の上昇を特徴とし、通常2~7年ごとに発生する。一般的に3~6月の間に発生し始め、11~2月にかけて最も強まり、世界的な気温への影響は通常、発生から2年目に最も顕著になる。エルニーニョ、ラニーニャ現象の影響は、その強度、持続期間、発生時期、更には他の気候変動モード(インド洋ダイポールモード現象等)との相互作用によって異なる。世界中のすべての地域が影響を受けるわけではなく、同じ地域内でもその影響は異なる場合がある。また、エルニーニョ・南方振動 (ENSO) が中立状態(ニュートラル)であっても、異常気象が発生する可能性もある。ENSO 現象の強度は、それが「弱」「中」「強」「非常に強い」のいずれかに分類されるかに関わらず重要である。というのも、「中」程度のエルニーニョであっても、一部の気象や気候の異常現象が発生する可能性を高めるためである。WMO は、「スーパーエルニーニョ」という用語を使用しておらず、これは上記の運用上の分類に含まれていないためである。

NOAA の CPC 「CPC Probabilistic ENSO Strength Outlook」(2026.6.11) によれば、2026年11月~2027年1月にかけて、「強い」又は「非常に強い」エルニーニョが発生する確率は合わせて 88%。また RONI (Relative Oceanic Niño Index: 相対的 海洋エルニーニョ指数) が「強い」エルニーニョよりも「弱い」状態に留まる確率は 2% (図3)。

図3 CPC の確率論的エルニーニョ・南方振動 (ENSO) 予測 (2026年6月公表分)



出典: NOAA CPC 「ENSO Strength Probabilities」(2026.6.11) による

3 典型的な影響

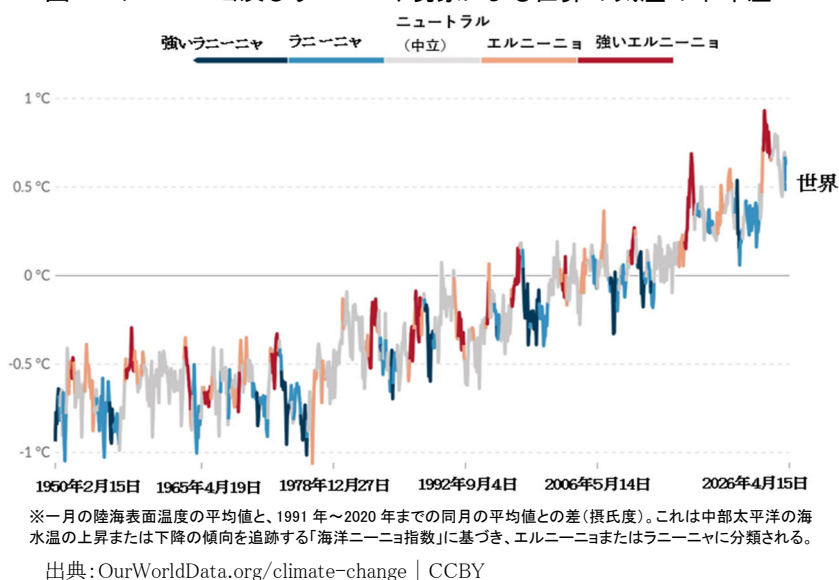
WMO によれば、「エルニーニョ現象」が発生した場合、一般的に、南米南部の一部、米国南部、アフリカの角の一部及び中央アジアでは降水量が増加する一方、中米、南米北部、カリブ海地域、豪州、インドネシア及び南アジアの一部では乾燥した状態が見られる。北半球の夏の間、「エルニーニョ現象」による海面水温の上昇は、中・東部太平洋におけるハリケーンの発生を活性化させる一方で、大西洋盆地でのハリケーン発生を抑制する。そのため NOAA は、今年の大西洋盆地におけるハリケーンの発生は平年を下回ると予測している。

4 関連する気候リスク

(1) 地表気温の上昇

Our World Data によれば、「エルニーニョ現象」は、世界の平均地表気温を一時的に急上昇させる傾向がある。通常、「エルニーニョ現象」のピークと、それが地球規模の気温に及ぼす影響のピークとの間には時間差が生じる。「エルニーニョ現象」は、世界的に観測史上最も暑い年と一致している(図4)。

図4 エルニーニョ及びラニーニャ現象による世界の気温の年差*

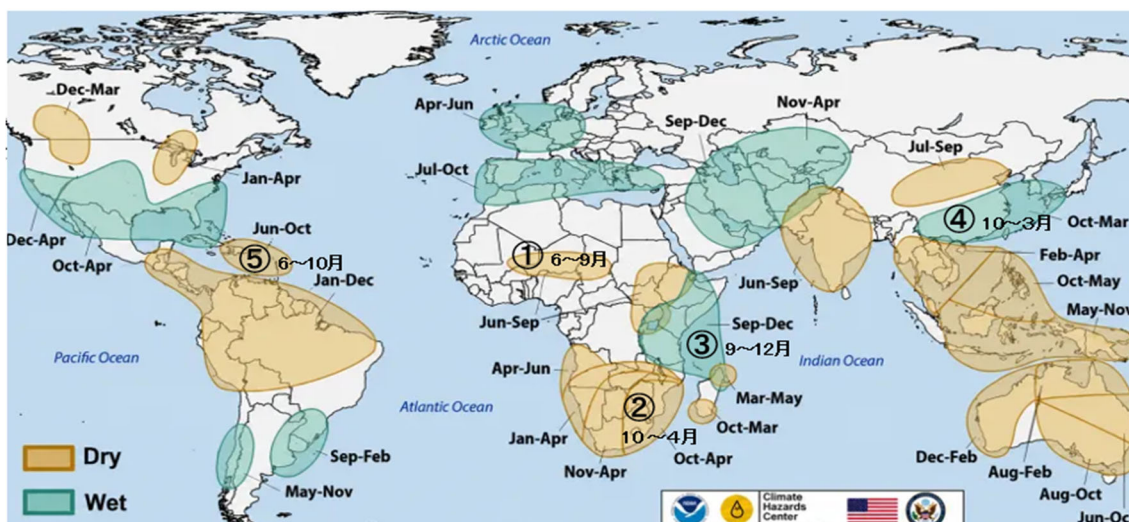


(2) 地域ごとの降水量

FEWS NET(Famine Early Warning Systems Network)によれば、「エルニーニョ現象」は地球上の多くの地域で、平均を上回る降水量(Wet) (図5 青色)や平均を下回る降水量(Dry) (図5 茶色)が観測される確率の上昇と関連付けられる。こうした降水確率の変化は、一年の内の特定時期に生じる。

サハラ以南のアフリカでは、乾燥状態となる主な降水期は、①サヘル中央部及び東部(6～9月)と②南部アフリカ(10～4月)である。9～12月には、③グレート・ホーン地域からマダガスカル北部にかけて、雨の多い状態となる可能性が最も高い。④中央アジアでは、冬の降水期に雨の多い状態となる可能性が最も高い。⑤中米及びカリブ海地域では、6～10月に平年より乾燥状態となる可能性が高まる。

図5 エルニーニョに関連する平均降水量を超える(Wet)と平均降水量を下回る(Dry)の時期(2026-2027)



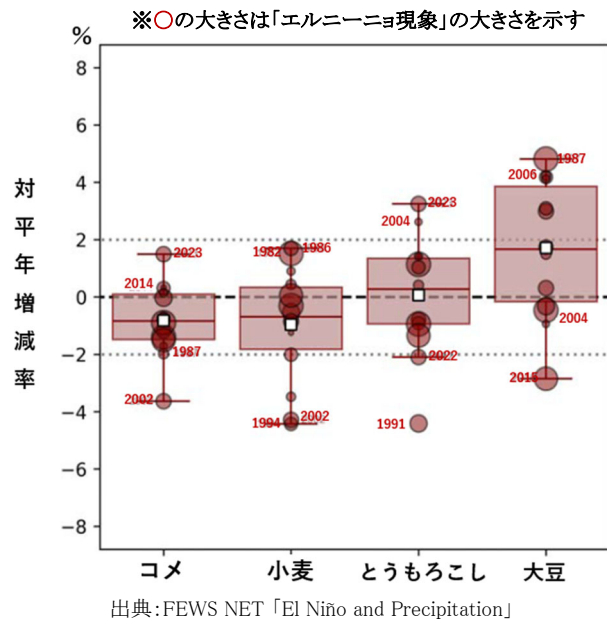
出典: FEWS NET 「El Niño and Precipitation」

5 「エルニーニョ現象」による収穫量への潜在的な影響

FEWS NET(Famine Early Warning Systems Network)によれば、「エルニーニョ現象」が強まると、作物の収穫量に対する影響は予測しやすくなるが、一般的にその深刻度が強まるものではなく、作物毎の影響は以下のとおりである(図6)。

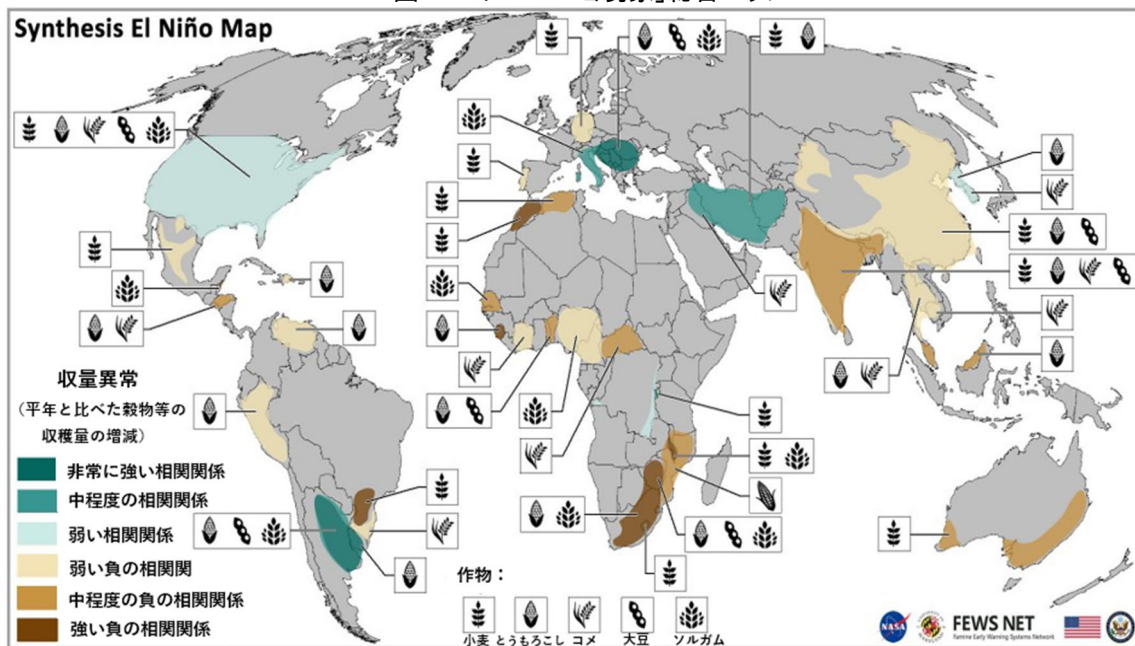
- ・ 世界の小麦の収穫量は、平年並みから平年をやや下回る傾向にある。
- ・ 世界のとうもろこしの収穫量は、平年並みの傾向にある。
- ・ 世界のコメの収穫量は、平年を約1～1.5%下回る傾向にある。
- ・ 世界の大豆の収穫量は、平年を約1.5～2%上回る傾向にある。

図6 1964年から2024年までの「エルニーニョ現象」発生時の作物毎の影響



6 穀物等への影響予測

図7 「エルニーニョ現象」総合マップ



(1) 「エルニーニョ現象」による小麦への影響

FEWS NETによれば、小麦に関し、

- ・ 中央アジア及び米国南部グレートプレーンズでは収穫量が増加。
- ・ モロッコ、インド、中国北部では収穫量が減少。
- ・ 「エルニーニョ現象」が発生している期間、豪州の小麦の収穫量は平均的に平年を下回るが、その実態には大きなばらつきがある。過去2回の「非常に強いエルニーニョ現象」の際は、小麦の収穫量はほぼ平年並みであった。
- ・ 研究結果等では、「エルニーニョ現象」と収穫量には有意な相関関係がなく、大きな影響を与えていないことも示されている。

(2)「エルニーニョ現象」によるとうもろこしへの影響

FEWS NETによれば、とうもろこしに関し、

- ・ エチオピア北部では収穫量が大幅に減少すると見込まれている。
- ・ 南部アフリカのとうもろこしの収穫量は平年を下回る見込み。
- ・ 過去の「エルニーニョ現象」の際、南アフリカのとうもろこし収穫量は平年比で最大 40%減少した。過去2回の「非常に強いエルニーニョ現象(2015年、1997年)」により、とうもろこしの収穫量は約 20%減少した。「エルニーニョ現象」がさらに強まった場合、南アフリカではより深刻な影響が生じる可能性がある。
- ・ インドの収穫量は平年を下回る見込み。
- ・ 中国北部、ラテンアメリカ及びカリブ海地域、パキスタンでは収穫量の減少幅は小さい見込み。
- ・ 米国、南米南東部及び中央アジアでは、収穫量が増加する見込み。
- ・ 小麦と同様、研究結果等では、「エルニーニョ現象」と収穫量には有意な相関関係がなく、大きな影響を与えていないことも示されている。

(3)「エルニーニョ現象」によるコメへの影響

FEWS NETによれば、コメに関し、

- ・ イラン及びイラクでは収穫量が増加。
- ・ パキスタン、カンボジア、タイでは収穫量が減少。
- ・ インド(カリフ米)は収穫量が平年を下回る見込み。
- ・ 「エルニーニョ現象」が発生している期間、南アジア及び東南アジアの収穫量は一貫して平年を下回っている。
- ・ 「エルニーニョ現象」が発生すると、カンボジアとインドでは確実に平年を下回る収穫量となる。
- ・ バングラデシュ、日本、ベトナム、タイでも同様の傾向がみられるが、その影響はそれほど一貫していない。
- ・ 他の作物と異なり、「エルニーニョ現象」がコメの収穫面積に与える影響は甚大である。これは、多作型稲作では、不作の年になると二期作の作付面積が減少する可能性があるため。
- ・ 「エルニーニョ現象」は、スリランカ、インドネシア、インド、そして程度は低いもののタイにおいて、収穫面積を減少させる傾向がある。
- ・ 小麦、とうもろこし同様、研究結果等においては、「エルニーニョ現象」と収穫量には有意な相関関係がなく、大きな影響を与えていないことも示されている。
- ・ 過去2回の「非常に強いエルニーニョ現象(2015年、1997年)」では、降水量の不足は中程度にとどまった。

7 まとめ

FEWS NETによれば、

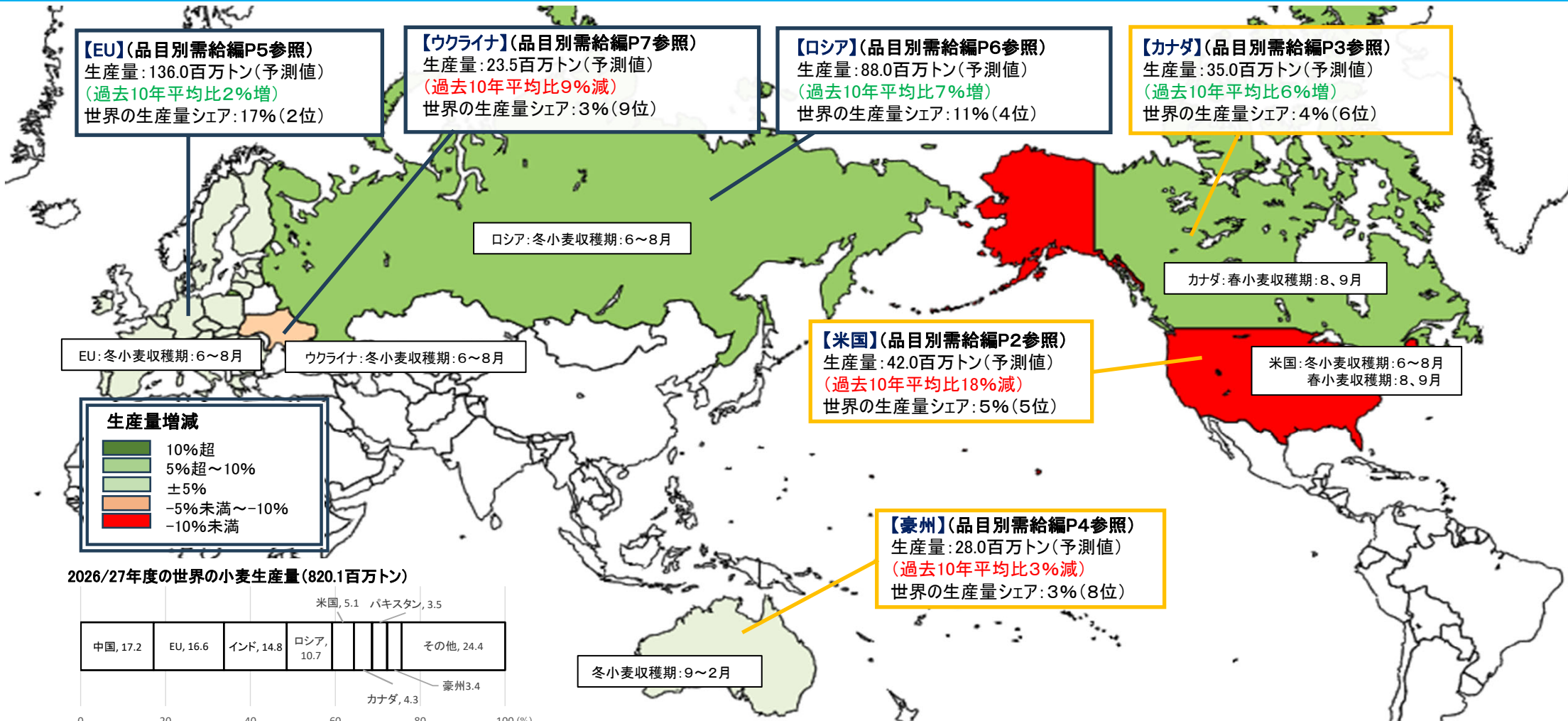
- ・ 「エルニーニョ現象」が発生し、2027年初頭まで続く可能性が極めて高い。ただし、そのピーク時の強さについては依然として不透明である。7月頃には、より明確な見通しとなる見込み。
- ・ 歴史的に見て、「エルニーニョ現象」は、全ての大陸において小麦、とうもろこし、コメ、大豆の収穫量に大きな影響を与えてきたが、その影響は必ずしもマイナスとは限らない。世界の小麦及びとうもろこしの収穫量は概ね平年に近い水準にある一方、世界のコメの収穫量は平年より約1~1.5%低く、世界の大豆の収穫量は平年より約1.5~2%高い傾向にある。

- ・ 「エルニーニョ現象」が強まると、降水量や作物の収穫量のパターンは予測しやすくなるが、通常、その深刻度は増さない。
- ・ 今後3か月間、降水量の予報では「エルニーニョ現象」の影響が見込まれる一方、気温は世界の多くの地域で平年より高くなると予測されている。

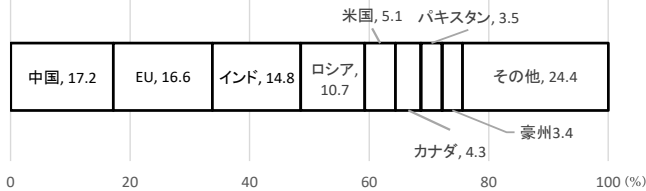
中東情勢が不透明な中、肥料価格の高騰等による、今後の作付抑制や穀物価格の高騰が懸念されている。そのため、発生が公表された「エルニーニョ現象」が、今後の穀物生産に与える影響に関し様々な予測がなされている。

「エルニーニョ現象」と穀物生産に与える影響に関し、確たる因果関係があるとの見解はまだ示されていないものの、上記予測やWMOを始めとした様々な予測モデル等を参考に、異常気象の穀物生産への影響について引き続き注視していきたい。

資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(6月版)



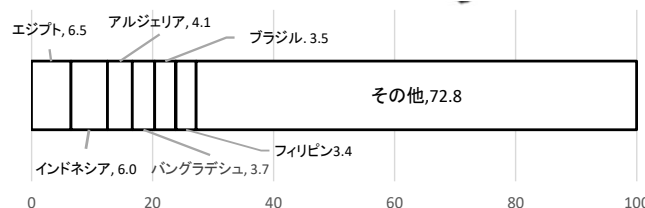
2026/27年度の世界の小麦生産量(820.1百万トン)



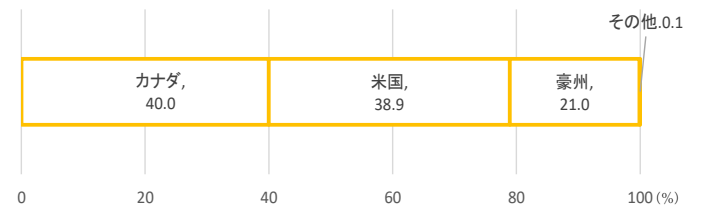
2026/27年度の世界の小麦輸出货量(212.0百万トン)



2026/27年度の世界の小麦輸入量(207.3百万トン)



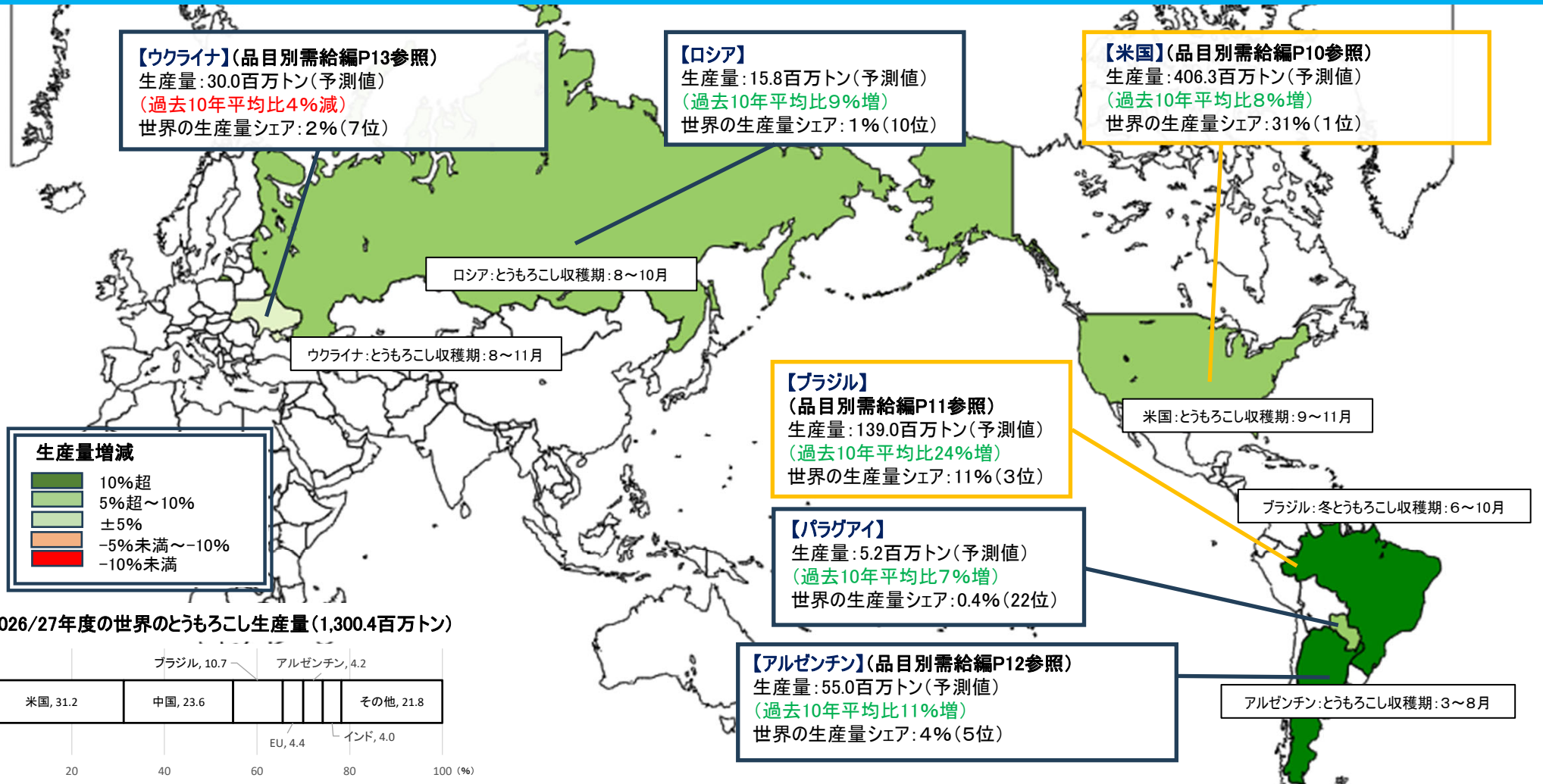
2025年の日本の小麦輸入量(5.3百万トン)



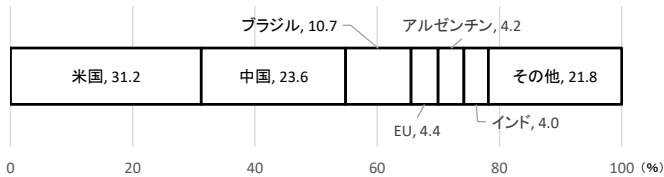
○ 2024年度の日本の小麦輸入量は533万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(650万トン、うち食用は512万トン)の82.0%を占める。
○ 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は256kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の11.4%を占める(2024年度)。

出典:USDA「PS&D」(2026.6)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

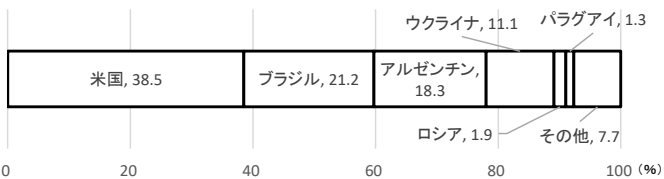
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(6月版)



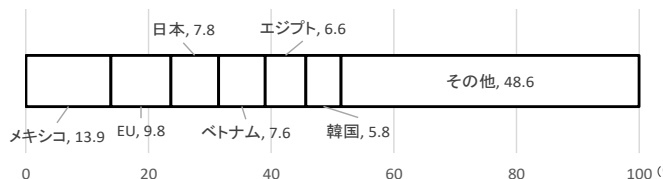
2026/27年度の世界のとうもろこし生産量(1,300.4百万トン)



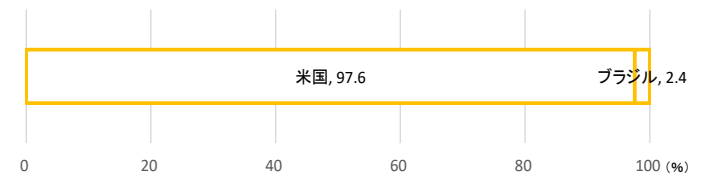
2026/27年度の世界のとうもろこし輸出货量(207.6百万トン)



2026/27年度の世界のとうもろこし輸入量(199.6百万トン)



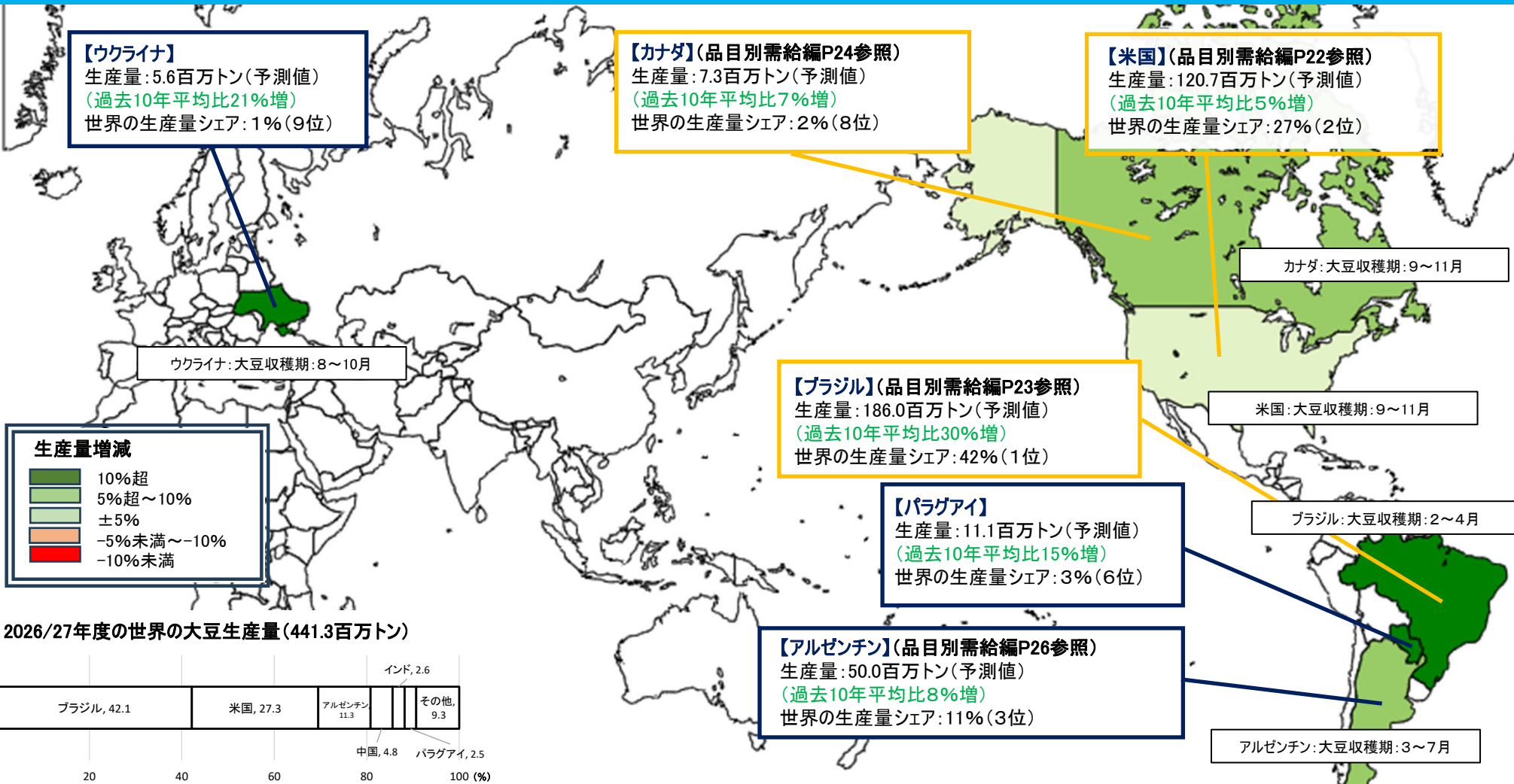
2025年の日本のとうもろこし輸入量(15.6百万トン)



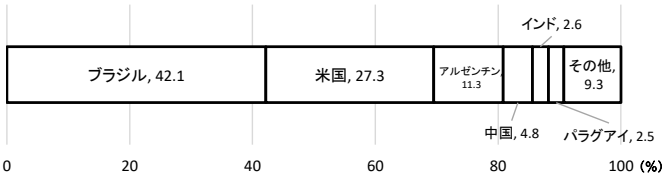
○ 2024年度の日本のとうもろこし輸入量は1,522万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,518万トン、うち飼料用は1,194万トン)のほぼ全量を占める。

出典: USDA「PS&D」(2026.6)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

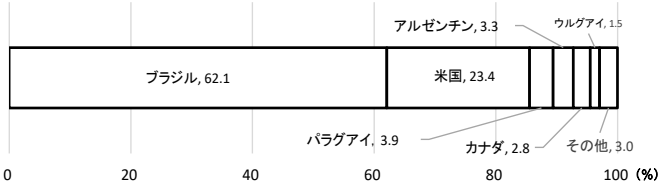
資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(6月版)



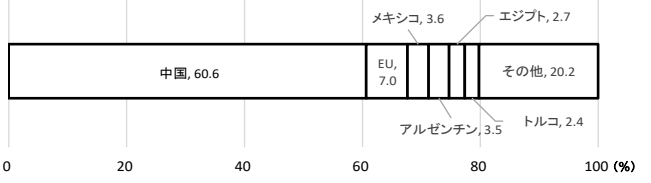
2026/27年度の世界の大豆生産量(441.3百万トン)



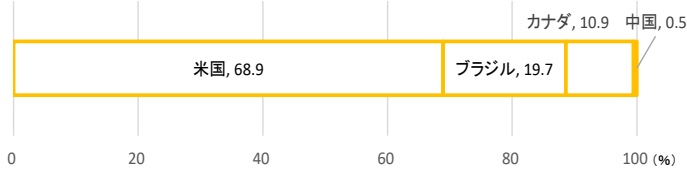
2026/27年度の世界の大豆輸出量(189.2百万トン)



2026/27年度の世界の大豆輸入量(188.0百万トン)



2025年の日本の大豆輸入量(3.3百万トン)



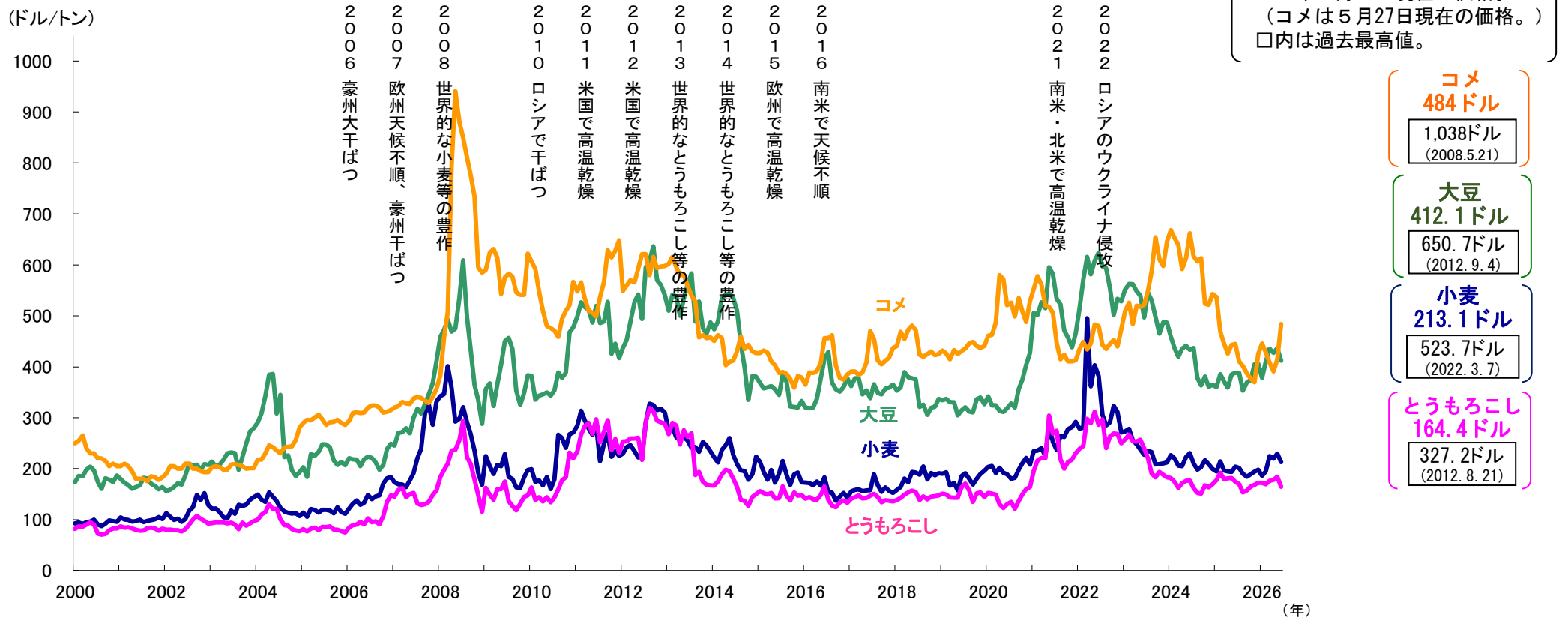
○ 2024年度の日本の大豆輸入量は309万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(359万トン、うち大豆油などの加工用は256万トン、食用は88万トン)の86.2%を占める。
○ 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は58kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,248kcal)の2.6%を占める(2024年度)。

出典: USDA「PS&D」(2026.6)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和6年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1-4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等価格は、とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥、2022年のロシアのウクライナ侵攻等により上昇も、侵攻前の水準まで下落。
 - とうもろこし、大豆は、ウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。直近では、中東情勢の緊迫化等により上昇傾向。
 - 小麦は、2022年、ウクライナ侵攻により史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。
 - コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落し、直近では、中東情勢の影響に加え、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受け大きく上昇。

□ 穀物等の国際価格の動向



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、今月のコメは5月27日現在の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料 1-5 サプライチェーン等に関する状況

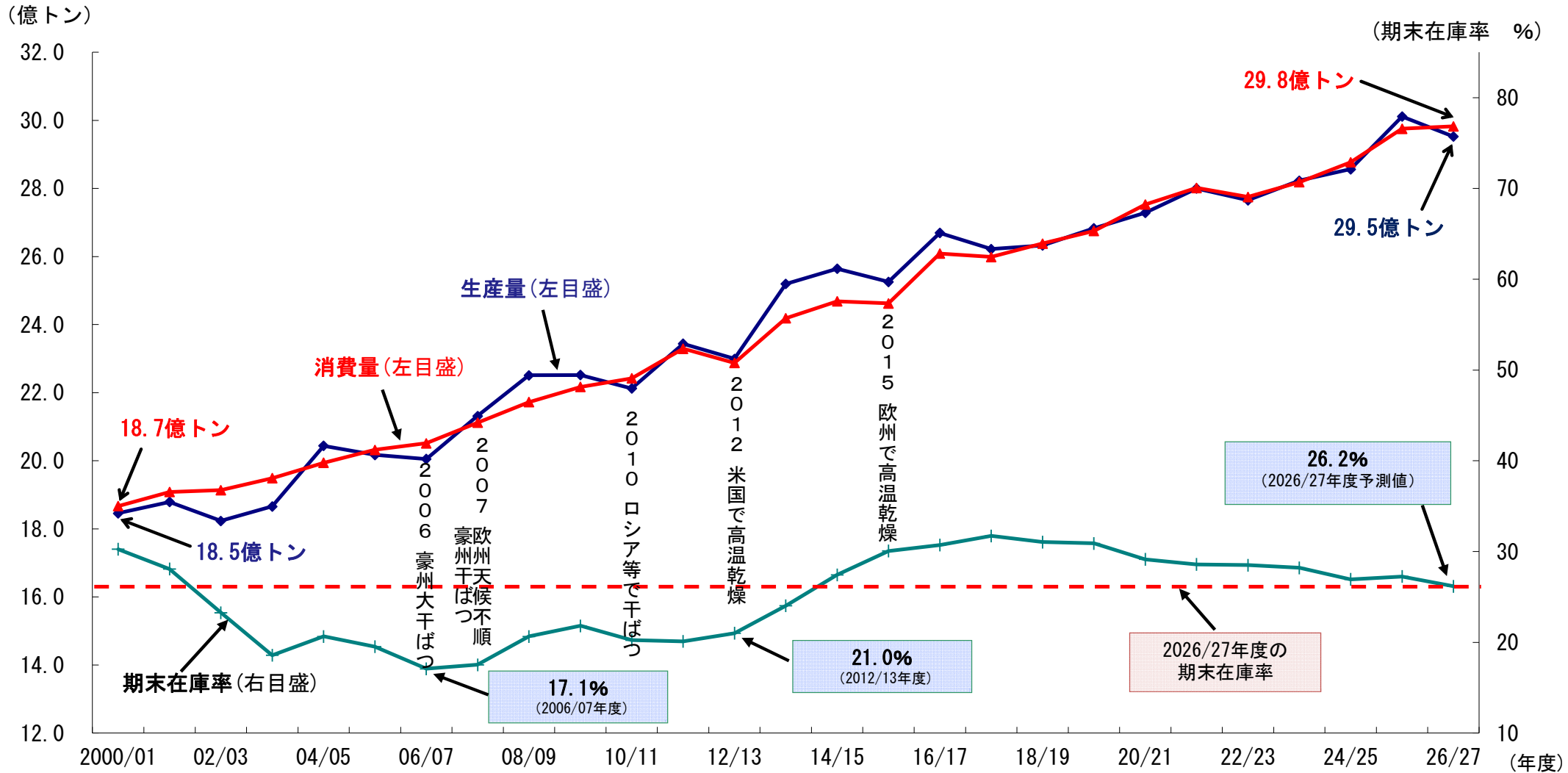
○パナマ運河で通航枠の削減（6月9～17日）と最大許容喫水引下げ（7月3日～）を実施（2026年6月17日時点）

生産国の情報	チョークポイント情報	その他
<p>○米国</p> <p>①USDA「Grain Exports Dashboard」によれば、5月のメキシコ湾から日本向け穀物の海上運賃は、4月の65.80ドル/トンから上昇し、70.81ドル/トン。太平洋岸北西部(PNW)から日本向けは、4月の35.00ドル/トンから上昇し、37.00ドル/トン。両ルートとも2月から上昇傾向。</p> <p>②USDA「Transportation Updates and Regulatory News」によれば、6月からクラス I 鉄道各社の走行距離ベース燃料サーチャージが引き上げ。5～6月の加重平均燃料サーチャージは1車両マイル当たり0.13ドル上昇し、0.54ドル。これは昨年6月と比べ0.41ドル上昇し、2022年8月以降最高値。さらに、6月5日からCSXトランスポートーション(CSX)は、一般運賃表に基づく輸送に対して燃料サーチャージを再開。同輸送に燃料サーチャージが適用されるのは、2021年12月以来初めてで、6月の燃料サーチャージは、1車両マイル当たり0.44ドル。</p> <p>○カナダ</p> <p>Quorum Corporation「Grain Monitoring Program Report for: April 2026」によれば、4月のカナダ西部の鉄道による穀物輸送量は、3月の560万トンと比べ10.4%増と620万トン近くまで増加。年度初め(2025年8月)からの輸送量は前年同期と比べ5.8%増の4,860万トン。4月の港湾出荷量はセントローレンス水路システムの航行再開により、3月の340万トンと比べ46.6%増、前年同月と比べ13.9%増の500万トン。年度初めからの出荷量は3,492万トンで、前年同期と比べ5.6%増。4月の船舶の港での待機日数は9.6日。年度初めからの平均待機日数は前年同期と比べ26.5%減の8.6日。4月の港別の待機日数は、プリンス・ルパート港が3月から減少、バンクーバー港が増加、サンダーベイ港が横ばい。</p>	<p>○パナマ運河</p> <p>①5月のパナマ運河通航数は、1日平均37.06隻と通常通航水準で推移。なお、6～9月に複数の閘門保守工事が予定されている。</p> <p>②パナマ運河のガトゥン湖の水位は、6月18日現在、85.3フィートで同月過去5年平均(83.7フィート)を上回っている。</p> <p>③USDA「Transportation Updates and Regulatory News」によれば、パナマ運河では、6月9～17日まで定期的な閘門保守工事のため、パナマックス閘門の1日当たりの通航枠を26から16に削減。また、エルニーニョ現象の発生を見越し、7月3日からネオパナマックス閘門を通航する船舶の最大許容喫水を50フィートから49.5フィートに引き下げ。2023年から2024年にかけて発生した前回のエルニーニョ現象の際にも、喫水と通過枠を制限しており、アジア向け米国産穀物輸出において迂回輸送が発生。パナマ運河の喫水及び通行枠制限は、米国の石油・天然ガス輸出の急増により混雑が続いている状況で実施されたものであり、6月11日朝時点で、64隻の船舶(うち15隻は予約なし)が通航を待機。予約なしで到着した南行きの船舶の平均待機期間は8.6日、最長で29日。</p>	<p>○肥料価格</p> <p>農業市場情報システム(AMIS)「Market Monitor No. 139」によれば、5月末の週時点のAMIS肥料コスト指数(AMIS対象作物の1ヘクタール当たりの肥料費の週次推移を把握する指標。2019年の平均価格を100として計算。)は、4月から下降傾向となった。</p> <p>フランスの小麦の肥料コスト指数は236.9となり前月比1.3ポイント減、前年同月比71.0ポイント増で3年ぶりの高水準を継続。</p> <p>米国のとうもろこしの同指標は4月中旬のピーク(258.7)から窒素肥料価格の下落により下降し、5月末では208.6となり前月比26.0ポイント減、前年同月比36.4ポイント増。</p> <p>ブラジルの大豆の同指標は197.3となり前月比5.1ポイント減、前年同月比36.3ポイント増。</p> <p>中国のコメの同指標は123.4となり前月比2.2ポイント減、前年同月比7.1ポイント増と比較的に安定。</p>

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.2%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

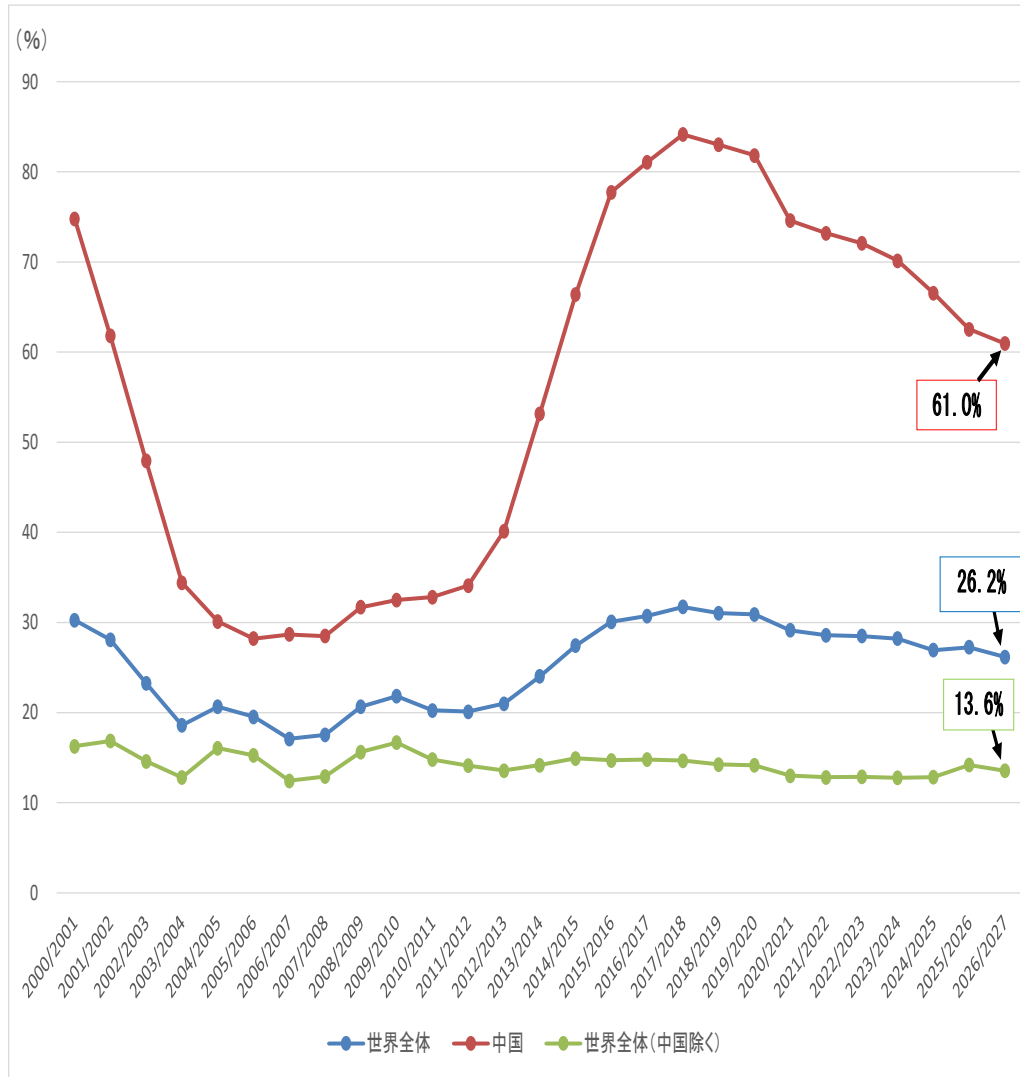
□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



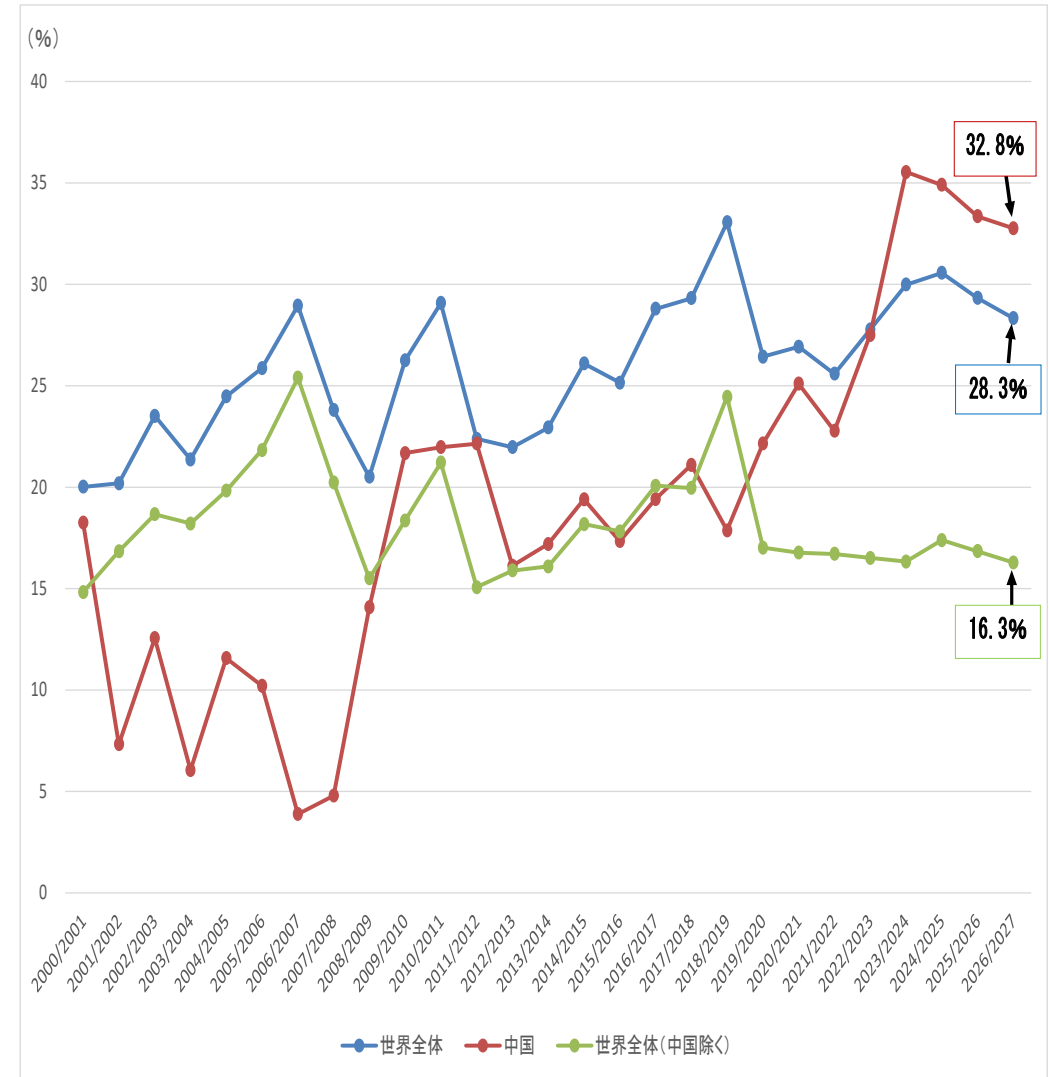
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 2026)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(June 11, 2026)

注：1)穀物はとうもろこし、小麦、コメ等（大豆除く）。

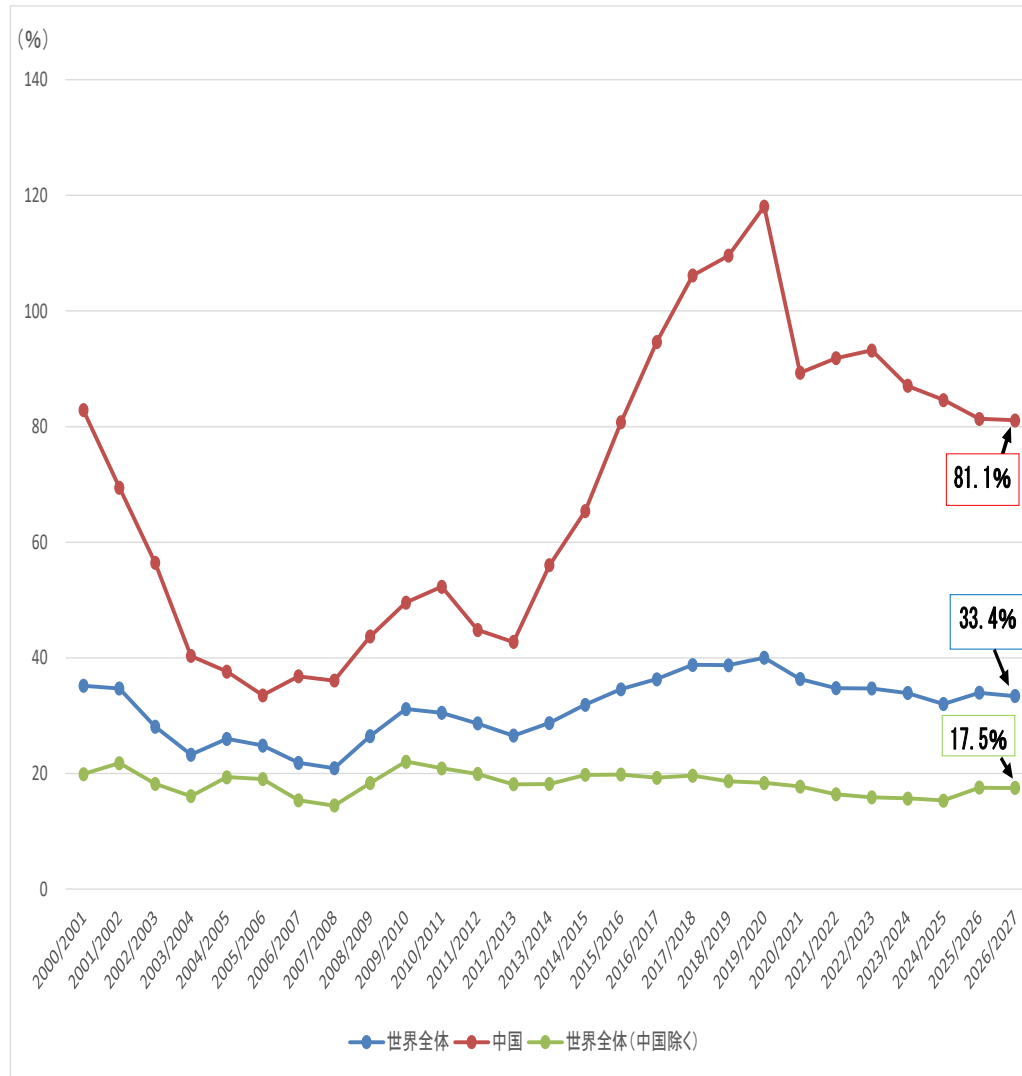
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

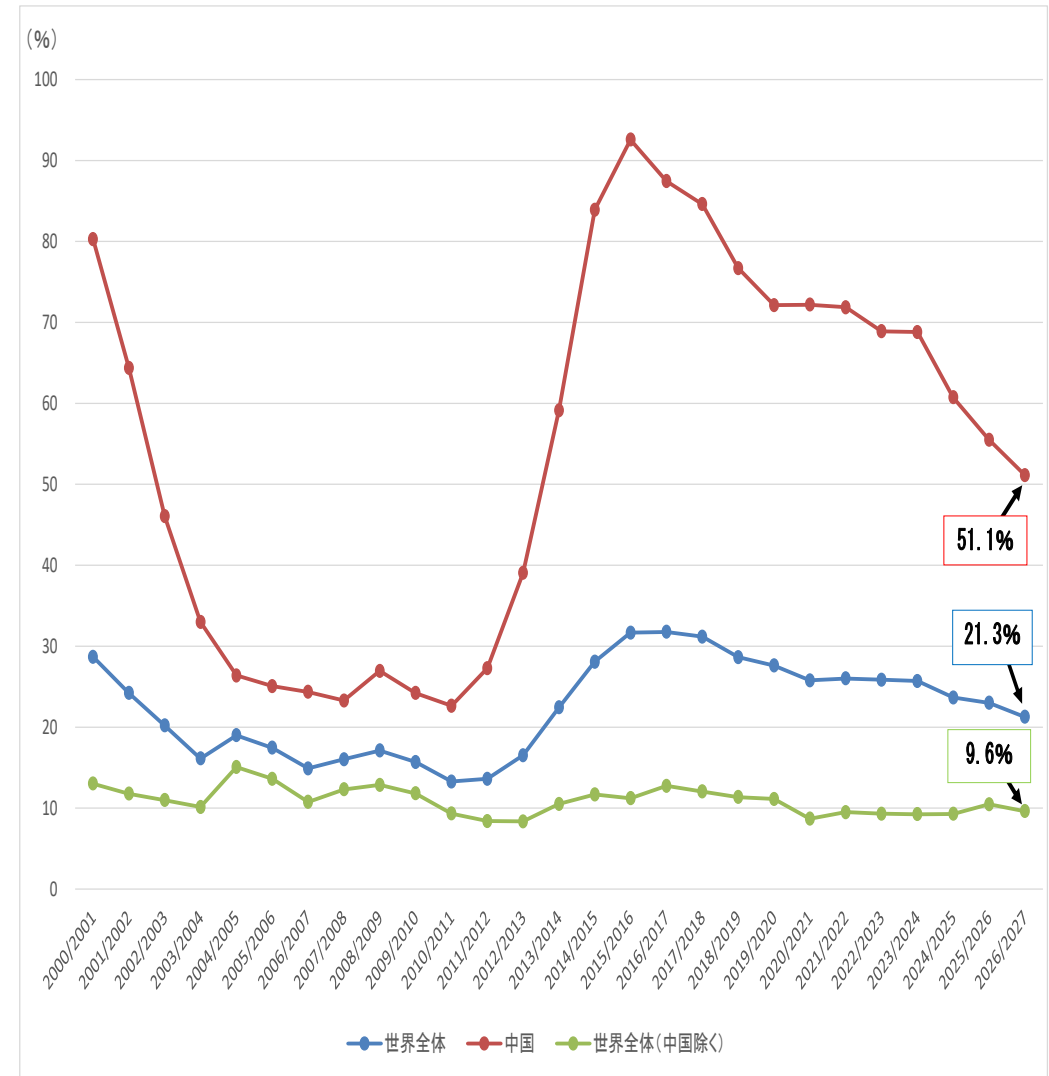
4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料：米国農務省「P S & D」(June 11, 2026)

注：1) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

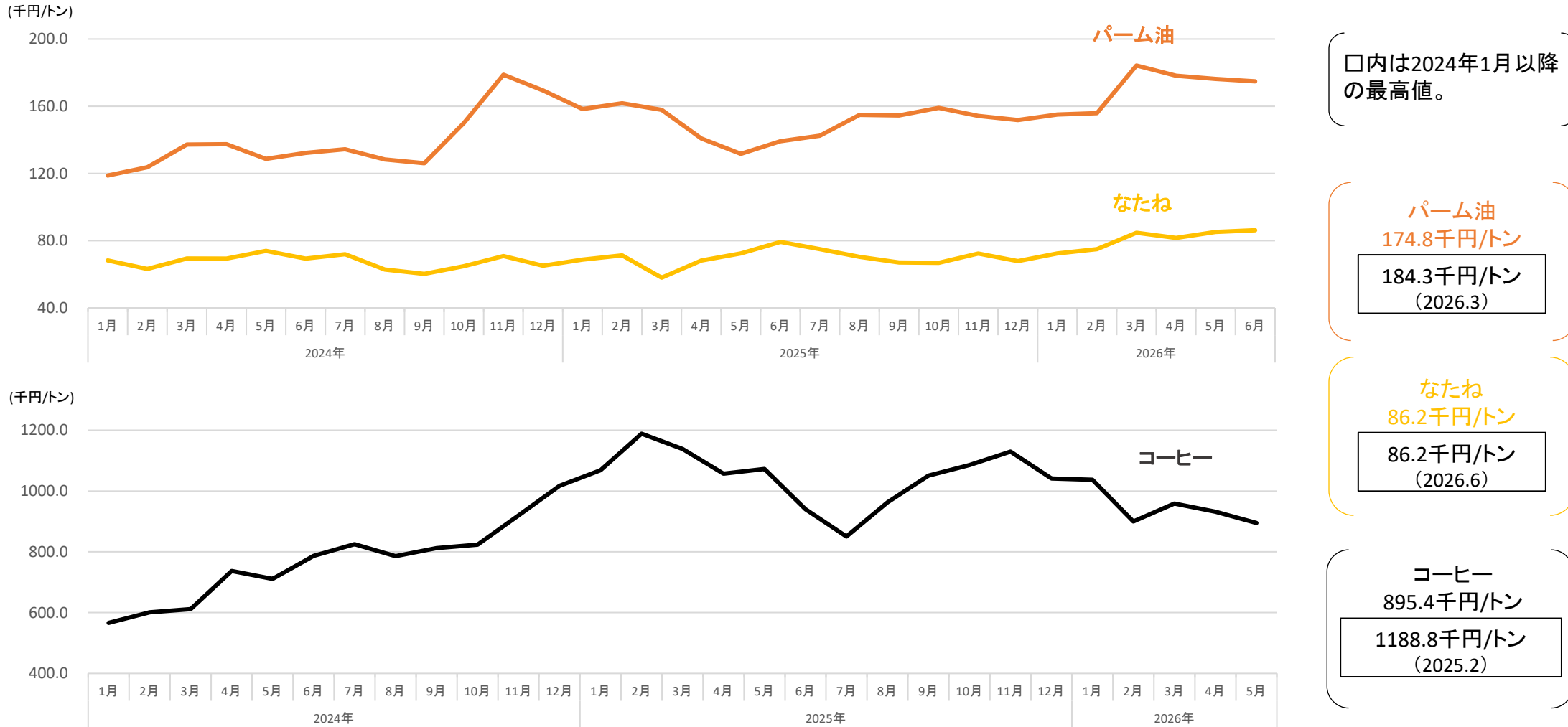
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 4 - 1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油の直近の動きとして、中東情勢の影響による原油価格相場の高騰等から上昇している。6月の月央値は174.8千円/トンとなり、前月の月央値をやや下回ったが、依然として高い水準で推移している。
- なたねの直近の動きとして、中東情勢の影響による原油価格相場の高騰等から上昇している。6月の月央値は86.2千円/トンとなり、2024年1月以降の最高値だった2026年5月の85.2千円を1.0千円上回る高値になった。
- コーヒーについては、2025年11月以降、供給見通しの改善を背景に下落傾向で推移している。2026年3月には、中東情勢の緊迫化によるコストの高騰を受けて一時的に上昇したが、5月を通じて、今年度の大幅な供給過剰の可能性に対する見方が強まり、価格に下押し圧力がかかった。



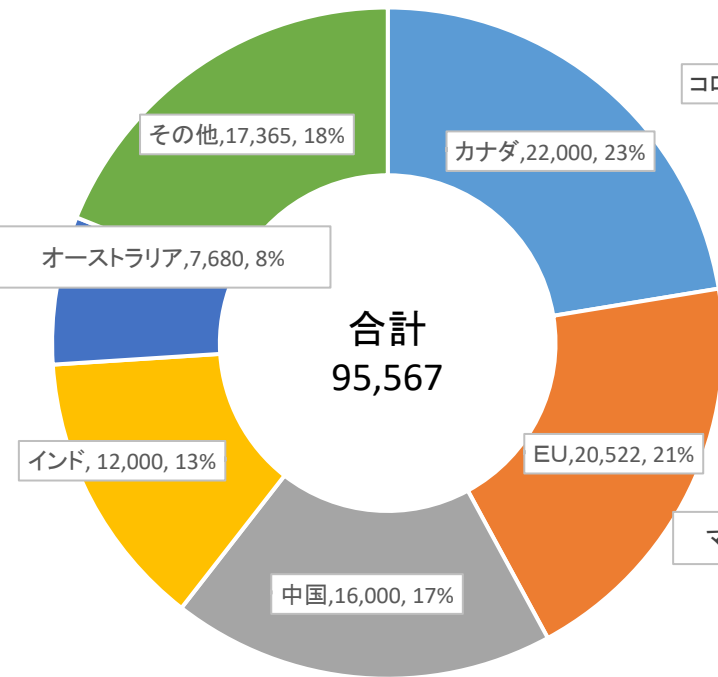
※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグなたね市場の先物価格(期近物)の月央値を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格(期近物)の月央値を使用し、為替レートから円に換算して算出。コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関(ICO)の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況

(単位:千トン)

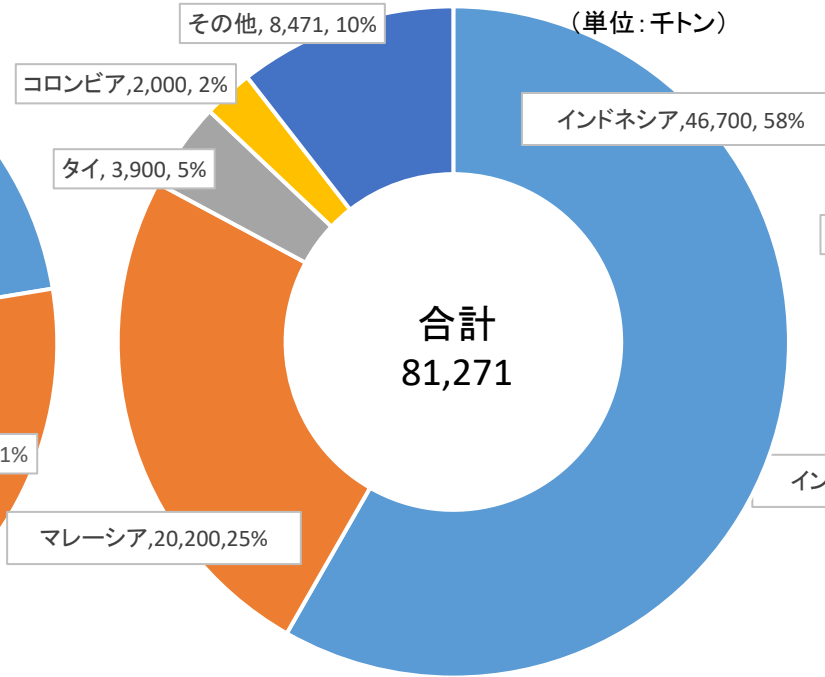
なたね生産量(2025/26)



※米国農務省(PS&D)
2026年6月時点

パーム油生産量(2025/26)

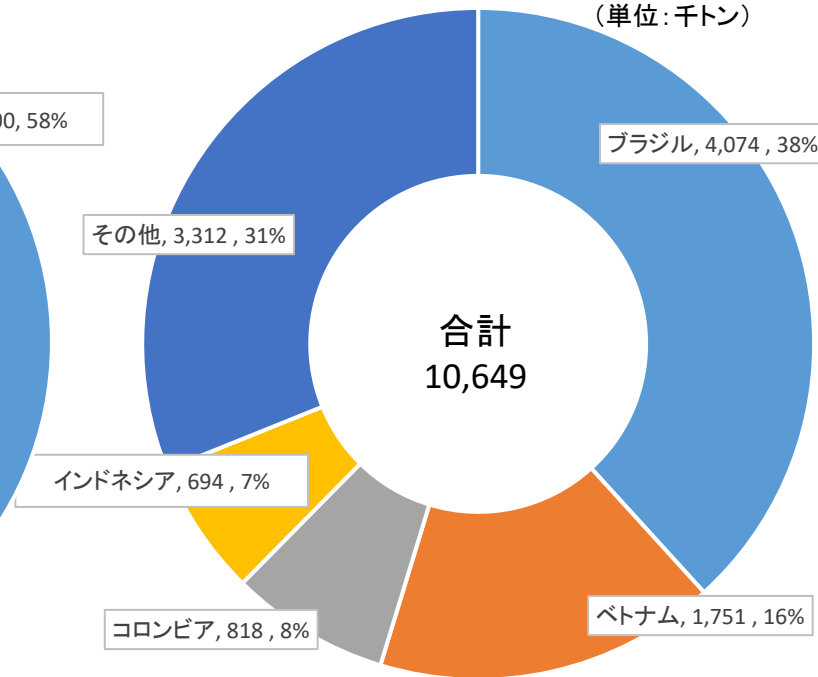
(単位:千トン)



※米国農務省(PS&D)
2026年6月時点

コーヒー生産量(2024/25)

(単位:千トン)



※国際コーヒー機関(ICO)統計資料
2025年7月時点

○我が国の主な輸入先の状況(単位:千トン(2025年))

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,722	80.1%
オーストラリア	429	19.9%
その他	0	0.0%
合計	2,151	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード:1205)

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	568	87.6%
インドネシア	79	12.2%
その他	1	0.2%
合計	648	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード:1511)

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	147	40.9%
ベトナム	90	25.1%
コロンビア	38	10.6%
その他	84	23.4%
合計	359	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード:0901.11~0901.12)

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和8年5月の国内の主な加工食品の消費者物価指数は123.5～162.8(前年同月比は-1.6%～11.4%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)

【参考】

食品価格動向調査(農林水産省)

品目	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	直近6か月							上昇率 (前年 同月比)
	年平均	年平均	年平均	R7 12月	R8 1月	2月	3月	4月	5月		
食パン	118.7	122.0	126.8	126.6	126.8	126.4	126.8	125.7	125.4	-1.6%	
即席めん	119.7	122.4	119.4	114.4	120.3	116.7	117.6	122.5	123.6	2.2%	
豆腐	114.6	118.2	121.4	123.6	122.8	123.2	123.5	123.5	123.5	2.4%	
食用油 (キャノーラ油)	160.2	148.6	149.2	151.9	154.0	157.0	153.8	155.6	156.6	4.8%	
みそ	108.1	113.6	119.5	128.3	129.3	128.8	130.2	130.4	129.3	9.6%	
マヨネーズ	149.5	153.1	155.8	162.0	163.3	163.1	162.2	161.9	162.8	5.9%	
チーズ	131.1	133.0	139.1	134.5	140.3	143.4	142.4	146.5	136.9	-1.2%	
バター	108.6	119.7	130.4	138.1	139.1	137.6	138.6	139.1	140.3	11.4%	
生鮮食品を 除く食料	112.6	116.9	125.2	128.2	128.4	128.5	128.9	128.7	129.0	3.5%	

品目	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	直近7か月									上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
	年平均	年平均	年平均	R7 12月	R8 1月	2月	3月	4月	5月	6月				
食パン	114.5	117.9	124.3	124.5	124.5	124.5	124.2	123.8	125.1	123.2	-1.5%	-0.8%		
即席めん	117.5	118.8	117.0	114.9	117.9	117.3	117.9	122.2	123.4	123.4	0.0%	6.3%		
豆腐	113.0	116.4	119.3	119.8	120.7	120.2	119.3	121.1	120.7	121.5	0.7%	1.4%		
食用油 (キャノーラ油)	159.4	145.8	142.0	144.1	144.1	145.4	146.7	146.4	144.5	147.0	1.7%	3.8%		
みそ	105.9	109.5	114.9	125.2	126.5	126.9	128.6	128.1	127.7	128.6	0.7%	15.1%		
マヨネーズ	139.8	141.2	142.5	148.9	150.3	151.3	149.6	150.9	152.0	150.9	-0.7%	8.1%		
チーズ	126.5	127.0	133.8	129.8	133.7	139.7	140.2	140.7	131.7	137.2	4.2%	5.3%		
バター	108.0	119.3	131.4	137.4	138.9	137.4	138.9	139.4	139.8	139.6	-0.1%	9.7%		

資料：農林水産省「食品価格動向調査」
 注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。
 注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。

資料：総務省「消費者物価指数」
 注：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料6 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を『月報 畜産の情報』（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000168.html）で公表

○2026年7月号（6月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

◆牛肉

（米国）26年4月の牛肉生産量は前年同月比6.5%減、26年予測は前年比1.8%減

（豪州）26年第1四半期の牛肉生産量は過去最高、中韓セーフガードの発動を懸念

（中国）26年第1四半期の牛肉生産量はわずかに減少、価格は引き続き上昇傾向

◆豚肉

（EU）26年の豚肉生産量は前年比1.0%減と予測

（チリ）26年1～3月の豚肉生産量は前年同期並みの推移ながら、輸出量は減少

◆牛乳・乳製品

（米国）26年3月の乳製品輸出量、チーズやバターが前年同月を上回る

（EU）26年3月の生乳出荷量は4.9%増と増加傾向が継続

（NZ）生乳生産量12カ月連続で前年同月を上回る

（中国）26年第1四半期の生乳生産量は増加、チーズとバターの輸入量は大幅増加

◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）26/27年度の期末在庫はかなりの程度減少

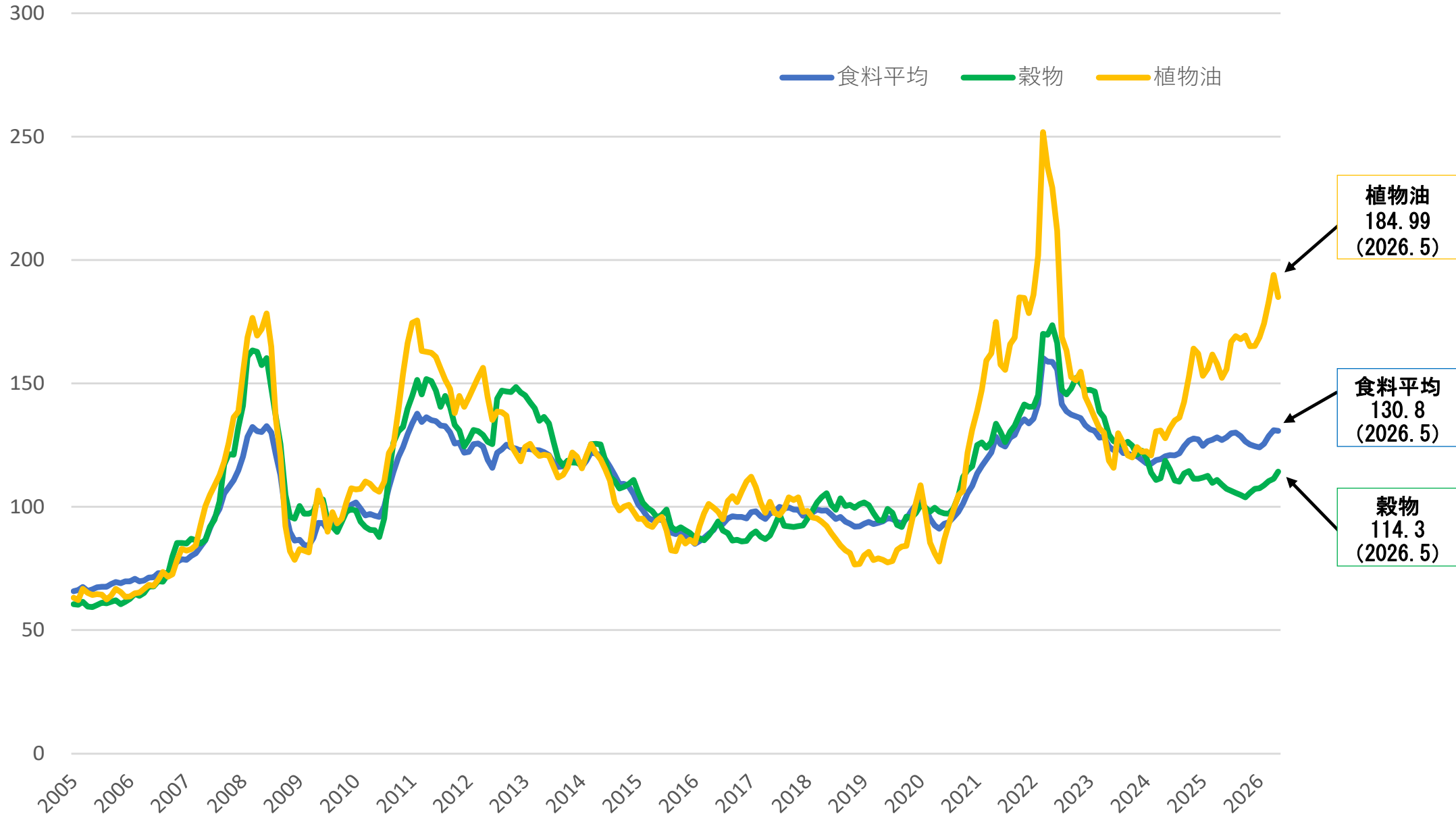
（世界・大豆）26/27年度は主要国の生産増などから生産量、輸出量ともに増加見込み

（米国）生産量の減少などから期末在庫はかなりの程度減少

（中国）26/27年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-2016平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2026.5)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コム等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

南米・チリの食事情①:アサードという食文化

1. はじめにーチリについてー

チリは南米大陸の南西部に位置し、南北に細長く伸びる独特の地形を持つ国です。北には乾燥したアタカマ砂漠、中部には地中海性気候の農業地帯、南には豊かな森林と水産資源が広がり、地域ごとに大きく異なる自然環境を有しています(図1)。人口は約 2,000 万人と比較的少ない一方で、政治・経済は安定しており、農林水産物の輸出国として国際市場でも一定の存在感を示しています。こうした条件に支えられて、チリでは豊かな食文化が育まれてきましたが、その中でも特徴的なのが、「肉」を中心とした食生活です。



図1:チリの地形と農林水産業の概要

【今月のコラム】

2. アサードという食文化

筆者がチリに赴任して間もなく、現地の人々に招かれて「アサード」と呼ばれる食事会に参加する機会がありました。アサードとは、屋外に設けたグリルで肉を焼き、それを皆で囲んで食べるチリを代表する食文化です(写真1)。炭火の上に大きな肉の塊が並べられ、時間をかけてじっくりと焼かれていきます。牛肉やソーセージが次々に焼き上がり、その都度切り分けられて参加者に配られます。調理は一人または数人が担い、他の人々は会話を楽しみながら焼き上がりを待つという光景が広がります。アサードは単なる食事ではなく、家族や友人との交流を深める社交の場としても重要な意味を持っています。



写真1: アサードの様子

このアサードの特徴の一つが、その極めてシンプルな味付けです。基本的には粗塩のみが用いられ、特別なタレや下味をつけることはほとんどありません。肉そのものの味を活かすという考え方が強く、素材の良さを前提とした食文化であることがうかがえます。また、肉は薄切りではなく大きな塊のまま焼かれ、時間をかけて火を通すことで旨味を引き出します。このように、調理方法も味付けと同様にシンプルでありながら、肉そのもののポテンシャルを最大限に引き出す工夫がなされています。

アサードにおける食べ方にも特徴があります。焼き上がった肉は細かく切り分けられ、参加者全員で分け合って食べます。誰かが自分の分だけを焼くということではなく、一つの肉を皆で共有するスタイルが基本です。食事は個々人のものというよりも、場に集まった人々全体で共有する体験として位置づけられています。このような共同体的な食文化は、チリ社会において人と人とのつながりを重視する価値観とも密接に結びついていると感じられます。

3. アサードと日本の「焼き肉」の対比

この点は、日本の焼き肉文化と比較すると非常に対照的です。日本の焼き肉では、薄く切られた肉を各自がそれぞれのタイミングで焼き、好みのタレで味を変えながら楽しめます。部位ごとの違いや味付けのバリエーションを楽しむ個別的・多様な食体験であるのに対し、チリのアサードは一つの肉を皆で分かち合う共有型の食文化であり、同じ「肉を焼く」料理であっても、その構造や意味合いは大きく異なっているといえます。

【今月のコラム】

4. おわりに

こうしたアサードを中心とする食文化は、チリにおける肉の需要の大きさを支える重要な要因となっています。肉は単なる栄養源にとどまらず、人々の生活やコミュニケーションに密接に結びついた存在です。家庭でも日常的に肉料理が食卓に並び、香ばしい香りとともに、週末や祝日にはアサードが行われることが少なくありません。このように、肉を中心とした食文化が社会の中に深く根付いていることが、チリにおける高い肉消費の背景にあると考えられます。

チリの食文化を紹介する第1回をお読みいただき、ありがとうございました。次回は、こうした肉中心の食生活を前提として、チリの食料安全保障の観点から、特に肉の需給事情に焦点を当ててご紹介します。肉を多く消費する国であるチリが、その供給をどのように確保しているのか、その実態を見ていきたいと思っておりますので、ぜひお楽しみに。

※原稿に含まれる見解は個人の見解であり、所属組織の見解を示すものではありません。

文責：吉川 隆史（在チリ日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介します。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・豪州、パキスタン等で下方修正されたものの、ロシア、トルコ等で上方修正され、前月から上方修正された。

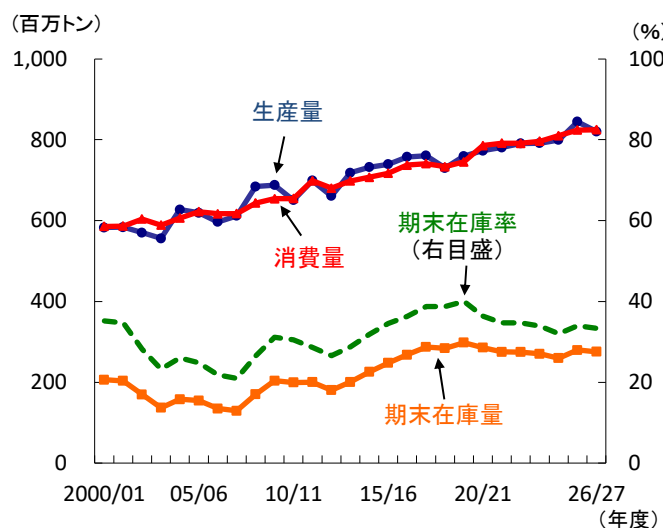
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン等で下方修正されたものの、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・豪州で下方修正されたものの、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省にて作成

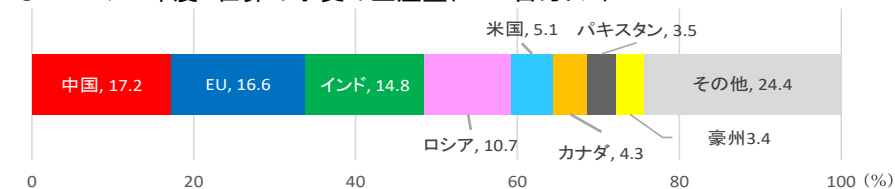
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

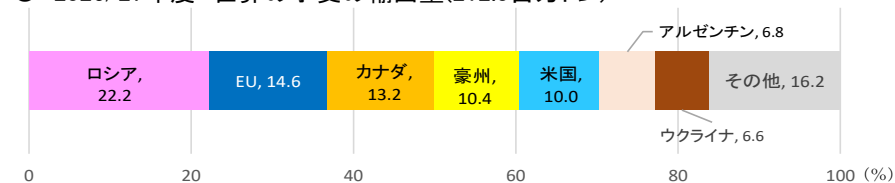
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	799.3	844.4	820.1	1.0	▲ 2.9
消費量	809.9	823.9	824.6	1.4	0.1
うち飼料用	157.4	168.4	162.2	1.3	▲ 3.7
輸出量	210.5	226.7	212.0	0.3	▲ 6.5
輸入量	201.2	220.9	207.3	▲ 0.02	▲ 6.2
期末在庫量	259.5	280.0	275.4	0.4	▲ 1.6
期末在庫率	32.0%	34.0%	33.4%	▲ 0.01	▲ 0.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2026)

○ 2026/27年度 世界の小麦の生産量(820.1百万トン)



○ 2026/27年度 世界の小麦の輸出量(212.0百万トン)



○ 2026/27年度 世界の小麦の輸入量(207.3百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 22.2%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、単収の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、収穫面積及び単収が大きく減少することから前年度から 22.2%減、過去5年平均(49.3 百万トン)から 14.8%減の 42.0 百万トンとなる見込み。

同「Wheat Outlook」(2026.6.15)によれば、2026/27 年度の実産量は 42.0 百万トンと、1970/71 年度(36.8 百万トン)以来の低水準となる見込み。グレートプレーンズの主要小麦生産州では深刻な乾燥に見舞われ、単収が減少するとともに、作付け放棄地が増加した。また、米国において小麦作付面積が長期的に減少傾向であることも生産量減少の要因の1つとなっている。銘柄別の生産量は、冬小麦では Hard Red Winter が 13.5 百万トンと 1957/58 年度以来の低水準となる見込み。Soft Red Winter が 8.2 百万トン、White Winter が 6.3 百万トン。デュラム小麦及びその他の春小麦が 14.0 百万トンと前年度から 12%減となる見込み。

同「Crop Progress」(2026.6.15)によれば、6月14日現在、2026/27 年度の冬小麦の作柄評価は、「良～優良」の割合が 27%と、乾燥により前年同期 52%を大きく下回っている。一方、春小麦の作柄評価は、55%と、前年同期 57%と同水準となっている(図)。また、冬小麦の収穫進捗率は 25%と、前年同期9%、過去5年平均 13%を上回るペースで進捗している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 14.9%減、過去5年平均(21.8 百万トン)から 3.1%減の 21.1 百万トンとなる見込み。

同「Wheat Outlook」(2026.6.15)によれば、2026/27 年度の輸出量は、米国産小麦の輸出価格が、他の主要な輸出国と比べて高く、競争力を欠くことから 1971/72 年度以降で3番目の低水準となる見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 24.8 百万トンとなる見込み。

同「Global Agricultural Trade System」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年6月～2026 年4月の輸出量は、前年同期(1,977.5 万トン)に比べ 14.2%増の 2,258.2 万トン。輸出先国別には、メキシコ 396.4 万トン(17.6%)、フィリピン 234.8 万トン(10.4%)、日本 195.8 万トン(8.7%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度から 20.4%減の 20.3 百万トンとなる見込み。

小麦—米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

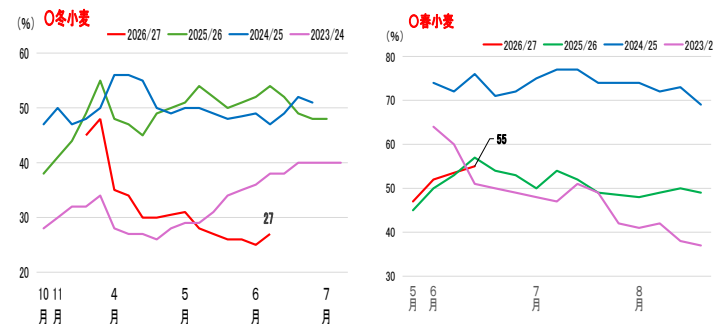
(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年6月～27年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	53.9	54.0	42.0	▲ 0.5	▲ 22.2
消費量	31.1	30.5	29.9	-	▲ 1.8
うち飼料用	3.1	2.7	2.2	-	▲ 19.9
輸出量	22.5	24.8	21.1	-	▲ 14.9
輸入量	4.1	3.4	3.8	-	12.1
期末在庫量	23.3	25.4	20.3	▲ 0.5	▲ 20.4
期末在庫率	43.4%	46.1%	39.7%	▲ 1.0	▲ 6.3

(参考)
 収穫面積(百万ha) 15.63 15.07 13.30 - ▲ 11.7
 単収(t/ha) 3.44 3.58 3.16 ▲ 0.03 ▲ 11.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(11 June 2026)

図 米国の小麦の作柄評価(良～優良)の割合の推移



資料:USDA「Crop Progress」(2022.10.31～2026.6.15)をもとに農林水産省で作成

表 米国の小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年6月～2025年5月)			2024/25年度 (2024年6月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年6月～2026年4月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	400.8	18.3	メキシコ	361.8	18.3	メキシコ	396.4	17.6
フィリピン	245.0	11.2	フィリピン	227.4	11.5	フィリピン	234.8	10.4
韓国	238.7	10.9	韓国	207.3	10.5	日本	195.8	8.7
日本	215.1	9.8	日本	195.5	9.9	韓国	167.5	7.4
台湾	103.5	4.7	台湾	95.5	4.8	ナイジェリア	164.1	7.3
タイ	93.2	4.2	タイ	86.9	4.4	インドネシア	114.2	5.1
その他	897.2	40.9	その他	803.0	40.6	その他	985.4	43.6
計	2,193.5	100.0	計	1,977.5	100.0	計	2,258.2	100.0

資料:USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2026/27 年度の生産量は前年度から 13.4%減少する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.6.19)によれば、2026/27 年度の実産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、収穫面積及び単収が減少することを受け史上最高の前年度から 13.4%減となるものの、過去5年平均(33.3 百万トン)から 3.8%増の 34.6 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、史上最高の前年度(32.8 百万トン)から 12.2%減となるものの、過去5年平均(28.0 百万トン)から 2.8%増の 28.8 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度(7.1 百万トン)から 18.8%減となるものの、過去5年平均(5.3 百万トン)から 9.0%増の 5.8 百万トンとなる見込み。2026/27 年度の作付面積は、前年度から 1.1%減の 10.82 百万ヘクタールとなる見込み。種類別には、普通小麦は、前年度から 0.7%減の 8.24 百万ヘクタール。デュラム小麦は、前年度から 2.3%減の 2.58 百万ヘクタール。

主要生産州政府によれば、サスカチュワン州では、6月15日現在、降雨により作付けが遅れていたものの、作付進捗率は春小麦 99%、デュラム小麦 98%とほぼ終了。アルバータ州では、6月16日現在、春小麦及びデュラム小麦の作付けは終了しており、作柄評価は「良～優良」の割合が春小麦は 72.4%(前年同期 50.7%)、デュラム小麦 77.9%(同 56.3%)となっている。マニトバ州では、6月9日現在、春小麦の作付けはほぼ終了。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2026/27 年度の輸出量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.05 百万トン下方修正され、前年度から 1.7%減の 28.5 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は前年度から 0.9%減の 23.2 百万トン。デュラム小麦は同 5.4%減の 5.3 百万トン。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年4月の輸出量は、前年同期(2,149.8 万トン)に比べ 0.3%増の 2,157.0 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期(1,704.0 万トン)に比べ 1.1%増の 1,722.7 万トンで、輸出先国別には、中国 216.6 万トン(12.6%)、インドネシア 177.9 万トン(10.3%)、日本 155.1 万トン(9.0%)の順。デュラム小麦は前年同期(445.8 万トン)に比べ 2.6%減の 434.3 万トンで、輸出先国別には、アルジェリア 121.8 万トン(28.0%)、イタリア 82.2 万トン(18.9%)、モロッコ 74.4 万トン(17.1%)の順となっている(表)。AAFC によれば、2025 年8月～2026 年4月の輸出量増加は、普通小麦が中国、バングラデシュ、エクアドル、南アフリカ等への輸出増、デュラム小麦がトルコ、ナイジェリア等への輸出増による。

AAFC によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、前年度から 17.6%減の 5.6 百万トンとなる見込み。

小麦—カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25		2025/26		2026/27(26年8月～27年7月)				
	2024/25	(見込み)	2025/26	(見込み)	予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)		
生産量	35.9	40.0	(40.0)	35.0	(34.6)	-	(▲0.4)	▲12.4	(▲13.4)
消費量	8.3	8.9	(8.4)	8.9	(7.4)	-	(▲0.7)	-	(▲12.1)
うち飼料用	3.0	3.5	(3.9)	3.5	(2.9)	-	(▲0.7)	-	(▲23.7)
輸出量	29.4	30.0	(29.0)	28.0	(28.5)	-	(▲0.05)	▲6.7	(▲1.7)
輸入量	0.6	0.6	(0.2)	0.6	(0.1)	-	(-)	-	(▲33.5)
期末在庫量	4.2	5.9	(6.8)	4.6	(5.6)	-	(▲0.3)	▲21.3	(▲17.6)
期末在庫率	11.1%	15.1%	(18.2%)	12.6%	(15.6%)	-	(▲0.4)	▲2.6	(▲2.6)
参考)									
収穫面積(百万ha)	10.65	10.62	(10.62)	10.30	(10.49)	-	(▲0.11)	▲3.0	(▲1.2)
単収(t/ha)	3.37	3.76	(3.76)	3.40	(3.30)	-	(-)	▲9.6	(▲12.2)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(11 June 2026)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops(19 June 2026)」※()書き。

表 カナダの小麦の輸出先国と輸出量

○普通小麦

国 名	2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年4月)		2025/26年度 (2025年8月～2026年4月)			
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		
インドネシア	243.2	10.3	180.8	10.6	中国	216.6	12.6	
中国	206.1	8.7	147.6	8.7	インドネシア	177.9	10.3	
日本	191.0	8.1	120.1	7.0	日本	155.1	9.0	
ペルー	164.2	6.9	117.8	6.9	バングラデシュ	122.1	7.1	
コロンビア	143.1	6.0	114.6	6.7	コロンビア	99.6	5.8	
その他	1,419.1	60.0	その他	1,023.1	60.0	その他	951.6	55.2
計	2,366.5	100.0	計	1,704.0	100.0	計	1,722.7	100.0

○デュラム小麦

国 名	2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年4月)		2025/26年度 (2025年8月～2026年4月)			
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		
アルジェリア	156.8	27.2	116.6	26.2	アルジェリア	121.8	28.0	
モロッコ	124.2	21.5	88.5	19.9	イタリア	82.2	18.9	
イタリア	83.8	14.5	77.9	17.5	モロッコ	74.4	17.1	
米国	51.0	8.8	43.2	9.7	米国	31.7	7.3	
日本	22.7	3.9	18.4	4.1	日本	16.3	3.7	
その他	138.2	24.0	その他	101.2	22.7	その他	108.1	24.9
計	576.7	100.0	計	445.8	100.0	計	434.3	100.0

資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 25.7%減少する見込み(ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2026.6.2)によれば、2026/27 年度の実生産量は、史上3番目の前年度から 25.7%減、過去5年平均(34.6 百万トン)から 22.6%減の 26.7 百万トンとなる見込み。州別には、ウエスタンオーストラリア州(WA)は前年度から 29.3%減の 9.5 百万トン。ニューサウスウェールズ州(NSW)は同 37.5%減の 7.0 百万トン。サウスオーストラリア州(SA)は同 1.6%減の 4.7 百万トン。ビクトリア州(VIC)は同 0.8%減の 4.2 百万トン。クイーンズランド州(QLD)は同 42.9%減の 1.3 百万トン(図)。2026/27 年度の実生産量は、小麦と他作物の収益性格差の拡大と豪州北部の乾燥した気象条件により、前年度から 12%減の 10.9 百万ヘクタールとなり 2019/20 年度以来の低水準となる見込み。

USDA「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、2026/27 年度の実生産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度から 22.2%減、過去5年平均から 19.0%減の 28.0 百万トンとなる見込み。NSW 州及び QLD 州南部では、5月中旬から下旬にかけて降雨があったものの、土壌水分を改善するには不十分であり、広範囲の乾燥により作付けが遅れ、作付面積が減少した。両州では、さらなる降雨が必要となっている。

西豪州穀物産業協会(GIWA)「Crop Report」(2026.6.12)によれば、6月11日に WA 州の穀物地帯の大半で降雨があり、直近の降雨不足を補い、十分な降雨量があった地域では生育が改善する見込み。今後の予測では、平年以下の降雨量と、高温の春が続く見込みであるが、現在の生育状況は良好であり、この時期としては平年以上に生育が進んでいる。2026/27 年度の実生産量は、前月予測から5万ヘクタール下方修正され、367.5 万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2026/27 年度の実輸出量は、生産量の減少を受け前年度から 30.8%減、過去5年平均(26.1 百万トン)から 26.1%減の 19.3 百万トンとなる見込み。USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、生産量の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度から 12.0%減、過去5年平均(25.6 百万トン)から 13.9%減の 22.0 百万トンとなる見込み。ABARES「Trade dashboard」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年 4 月の輸出量は、前年同期(1,256.0 万トン)に比べ 5.9%増の 1,329.8 万トン。輸出先国別には、インドネシア 272.6 万トン(20.5%)、フィリピン 251.3 万トン(18.9%)、イエメン 98.7 万トン(7.4%)の順(表)。

ABARES によれば、2026/27 年度の実在庫量は、生産量の減少等を受け前年度から 36.2%減の 2.5 百万トンとなる見込み。

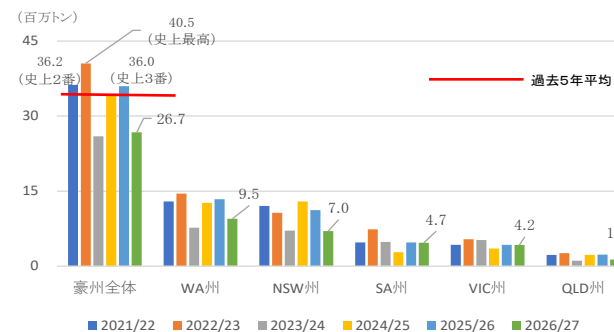
小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年10月～27年9月)		
			予測値	前月(前回)予測 からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	34.1	36.0 (36.0)	28.0 (26.7)	▲2.0 (-)	▲22.2 (▲25.7)
消費量	9.1	9.6 (8.8)	8.7 (8.9)	- (-)	▲9.9 (1.3)
うち飼料用	5.6	6.0	5.0	-	▲16.7
輸出量	23.7	25.0 (27.8)	22.0 (19.3)	▲1.0 (-)	▲12.0 (▲30.8)
輸入量	0.2	0.2	0.2	-	4.3
期末在庫量	4.0	5.6 (3.9)	3.2 (2.5)	▲0.5 (-)	▲43.1 (▲36.2)
期末在庫率	12.2%	16.2% (10.5%)	10.4% (8.7%)	▲1.3 (-)	▲5.8 (▲1.8)
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.06	12.41 (12.41)	11.00 (10.93)	▲0.80 (-)	▲11.4 (▲12.0)
単収(t/ha)	2.61	2.90 (2.90)	2.55 (2.45)	0.01 (-)	▲12.1 (▲15.6)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(11 June 2026)
ABARES「Australian Crop Report」(2 June 2026) ※(-)番き。

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料:ABARES「Australian Crop Report」(2026.6.2)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦の輸出先国と輸出量

国名	2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)		2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)		2025/26年度 (2025年10月～2026年4月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)
インドネシア	449.6	19.0	212.9	16.9	272.6	20.5
フィリピン	352.7	14.9	185.4	14.8	251.3	18.9
タイ	170.9	7.2	115.4	9.2	98.7	7.4
ベトナム	157.4	6.7	89.4	7.1	91.1	6.9
韓国	146.5	6.2	81.0	6.4	69.4	5.2
イエメン	137.6	5.8	79.4	6.3	68.1	5.1
その他	946.6	40.1	492.6	39.2	478.5	36.0
計	2,361.3	100.0	1,256.0	100.0	1,329.8	100.0

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 5.8%減少する見込み(EC)

【生育・生産状況】欧州委員会(EC)「EU Cereals Balance Sheets」(2026.5.26)によれば、2026/27 年度の実生産量は、単収の引下げを受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、生育に好ましい気象条件により増産となった前年度から 5.8%減、過去5年平均(132.9 百万トン)から 1.4%増の 134.7 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、前年度から 6.0%減、過去5年平均(125.2 百万トン)から 1.4%増の 126.9 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、前月予測からわずかに上方修正されたものの、前年度から 2.5%減、過去5年平均(7.7 百万トン)から 1.5%増の 7.9 百万トンとなる見込み。

USDA「World Agricultural Production」(2026.5.12)によれば、2026/27 年度の実生産量について、欧州の中央及び南東部では 2025 年秋の豪雨により作付けが遅延し作付面積が減少した。また、農家は小麦よりも利益率の高いひまわりや果樹へ作付けをシフトしている。3月、4月の乾燥により土壌水分が減少したものの、5月上旬の降雨により、特に乾燥が深刻であった東部諸国で恵みの雨となった。EU 全体で小麦の生育状況は良好となっている。

EC「JRC MARS Bulletin - Crop monitoring in Europe」(2026.5.18)によれば、欧州全域で 2026/27 年度の作物の生育環境は概ね良好で、冬作物は順調に生育している。春播き作物は多くの地域で作付作業はほぼ完了しているが、欧州南東では気温が低く、降雨量が多いため圃場作業と初期生育が遅れている。

【貿易情報・その他】EC によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からわずかに下方修正され、前年度と同水準の 112.5 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の輸入量は、前月予測からわずかに上方修正され、前年度から 3.0%増の 5.9 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.6.15)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年4月の輸入量は、前年同期(905.7 万トン)に比べ 38.8%減の 553.9 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 47.0%減の 387.1 万トン。デュラム小麦は同 4.5%減の 166.8 万トン(表)。ロシアのウクライナ侵攻以降、ウクライナからの輸入割合が大きく増加していたが、関税割当制度の再開等により同国からの輸入割合は大きく減少している。

2026/27 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度から 9.1%増の 30.7 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.6.15)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年4月の輸出量は、前年同期(2,239.9 万トン)に比べ 13.9%増の 2,552.4 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期に比べ 13.9%増の 2,463.8 万トン。デュラム小麦が同 14.4%増の 88.5 万トン(表)。2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.7 百万トン下方修正され、前年度から 15.1%減の 14.5 百万トンとなる見込み。

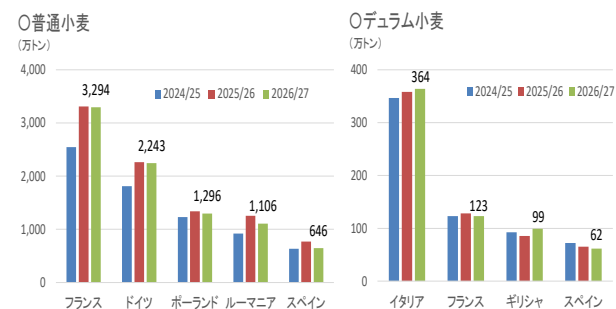
小麦—EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2024/25		2025/26 (見込み)		2026/27 (26年7月～27年6月)		
	生産量	消費量	生産量	消費量	予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	121.1	145.1 (143.1)	136.0 (134.7)	134.7 (132.9)	134.7	- (▲0.4)	▲6.3 (▲5.8)
消費量	108.5	115.5 (112.5)	113.8 (112.5)	112.5 (112.5)	112.5	- (▲0.003)	▲1.5 (0.04)
うち飼料用	44.5	51.0 (47.1)	49.0 (47.1)	47.1 (47.1)	47.1	- (-)	▲3.9 (-)
輸出量	27.9	31.0 (28.1)	31.0 (30.7)	30.7 (28.1)	30.7	- (0.1)	- (9.1)
輸入量	10.7	7.0 (5.7)	6.5 (5.9)	5.7 (5.7)	5.7	- (0.03)	▲7.1 (3.0)
期末在庫量	11.3	16.9 (17.0)	14.6 (14.5)	14.5 (14.5)	14.5	- (▲0.7)	▲13.3 (▲15.1)
期末在庫率	8.3%	11.5% (12.1%)	10.1% (10.1%)	10.1% (10.1%)	10.1%	- (▲0.5)	▲1.4 (▲2.0)

(参考)
 収穫面積(百万ha) 22.71 23.96 (23.70) 23.60 (23.62) - (0.04) ▲1.5 (▲0.3)
 単収(t/ha) 5.33 6.06 (6.04) 5.76 (5.70) - (▲0.03) ▲5.0 (▲5.5)
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(11 June 2026)
 EC「EU Cereals Balance Sheets」(26 May 2026) ※()書き

図 主要小麦生産国の生産量の推移



資料:EC「EU cereals production (usable), area and yield」(2026.5.26)をもとに農林水産省で作成

表 EUの小麦の輸出量及び輸入量

	2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)				2025/26年度 (2025年7月～2026年4月)				2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)				2025/26年度 (2025年7月～2026年4月)			
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	
普通小麦	モロッコ	342.2	13.5	モロッコ	362.1	14.7	ウクライナ	450.4	56.0	カナダ	126.0	32.5	カナダ	126.0	32.5	
	アルジェリア	324.4	12.8	アルジェリア	244.6	9.9	カナダ	134.4	16.7	ウクライナ	89.8	23.2	ウクライナ	89.8	23.2	
	ナイジェリア	281.5	11.1	エジプト	214.5	8.7	モルドバ	63.1	7.8	セルビア	56.5	14.6	セルビア	56.5	14.6	
	その他	1,593.8	62.7	その他	1,642.5	66.7	その他	155.7	19.4	その他	114.9	29.7	その他	114.9	29.7	
	小計	2,541.8	100	小計	2,463.8	100	小計	803.6	100	小計	387.1	100	小計	387.1	100	
デュラム小麦	チェルノブイ	21.4	25.5	チェルノブイ	20.4	23.0	カナダ	108.2	52.4	カナダ	90.2	54.0	カナダ	90.2	54.0	
	アルジェリア	11.3	13.5	ウズベキスタン	19.5	22.0	トルコ	34.3	16.6	ウズベキスタン	37.3	22.3	ウズベキスタン	37.3	22.3	
	モルドバ	10.0	11.9	モルドバ	6.9	7.8	ウズベキスタン	29.6	14.3	米国	22.2	13.3	米国	22.2	13.3	
	その他	41.2	49.0	その他	41.7	47.1	その他	34.4	16.7	その他	17.2	10.3	その他	17.2	10.3	
	小計	83.9	100	小計	88.5	100	小計	206.5	100	小計	166.8	100	小計	166.8	100	
小麦計	2,625.8		小麦計	2,552.4		小麦計	1,010.1		小麦計	553.9		小麦計	553.9			

資料:EC「Cereals exports and imports」(2026.6.15)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2026/27 年度の生産量は前年度から 2.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量(クリミア地域分を含まず)は、単収の引上げを受け前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、収穫面積及び単収が減少することを受け前年度から 2.5%減となるものの、過去5年平均(86.1 百万トン)から 2.2%増の 88.0 百万トンと史上4番目の生産量となる見込み(図)。種類別には、冬小麦は、前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、前年度(63.0 百万トン)から 1.6%増の 64.0 百万トン。春小麦は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度(27.3 百万トン)から 12.1%減の 24.0 百万トンとなる見込み。

同「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、2026/27 年度の冬小麦は、休眠明けからの降雨量が平年を概ね上回り、十分な水分が供給されたことから、平年を大きく上回る生育となっている。一方、春小麦は、湿潤な春の気象条件により作付けが遅延しており、6月頭時点で 11.1 百万ヘクタールの作付計画に対して 8.0 百万ヘクタールの作付けにとどまっている。現在、春小麦の作付けシーズン終盤を迎えているが、最適な成育期間が確保できなくなりつつある。このため、農家は作付時期が遅い油糧種子などの夏作物への転換を検討し始めている。

ロシア農業省によれば、6月9日現在、2026/27 年度の春小麦の作付面積は、前年同期と比べ 163 万ヘクタール減の 943 万ヘクタールで、作付進捗率は 85%となっている。悪天候による作付遅延により、最終的な作付面積は 1,000 万ヘクタールを割り込む可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.1%減、過去5年平均(45.9 百万トン)から 2.4%増の 47.0 百万トンとなり、史上4番目の輸出量となる見込み(図)。

報道情報によれば、5月8日、ロシア動植物衛生監督庁は、中国当局とロシア産冬小麦の輸入解禁に向けた協議を行い、双方は6月末までに合意文書に署名する可能性がある。

ロシア連邦政府は、2025/26 年度後半(2026 年2月 15 日～6月 30 日)の穀物(小麦・メスリン、大麦及びとうもろこし)に設定される輸出枠を 2,500 万トン(前年度は小麦・メスリンのみ 1,060 万トン)としている。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年7月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(4,193.5 万トン)に比べ 3.4%増の 4,334.2 万トン。輸出先国別には、エジプト 869.3 万トン(国別シェア 20.1%)、トルコ 645.3 万トン(同 14.9%)、スーダン 212.4 万トン(同 4.9%)の順。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、消費量の引上げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正されたものの、前年度から 0.8%増の 12.1 百万トンとなる見込み。

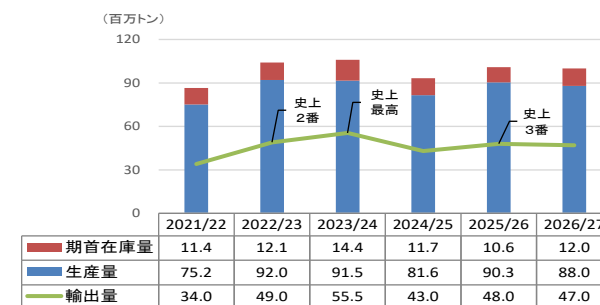
小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	81.6	90.3	88.0 (87.9)	2.0	▲ 2.5
消費量	40.0	41.2	41.2 (41.5)	1.0	-
うち飼料用	17.0	18.0	18.0 (17.8)	1.0	-
輸出量	43.0	48.0	47.0 (46.9)	-	▲ 2.1
輸入量	0.3	0.3	0.3 (1.0)	-	-
期末在庫量	10.6	12.0	12.1 (14.0)	▲ 0.5	0.8
期末在庫率	12.8%	13.4%	13.7% (15.9%)	▲ 0.7	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.80	26.30	25.80 (25.60)	▲ 0.50	▲ 1.9
単収(t/ha)	2.94	3.43	3.41 (3.43)	0.14	▲ 0.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(J11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

写真 登熟期を迎えた冬小麦(6月10日撮影)



ヨーロッパ部南部のクラスノダール地方の登熟期を迎えた冬小麦。土壌水分も十分に生育は良好。

<ウクライナ> 2026/27年度の生産量は前年度から2.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2026/27年度の実産量(クリミア地域分を含む)は、単収の引上げを受け前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、収穫面積が減少することから前年度から2.5%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)から15.9%減の23.5百万トンとなる見込み(図)。

同「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、小麦は、単収に重要な影響を与える生育期間が5月上旬から中旬であり、6月中旬から下旬にかけて成熟期を迎える。5月の降雨量が良好だったため、重要な生育期現地情報会社によれば、5月末現在、2026/27年度の冬小麦の作柄は概ね良好となっている。また、6月15日現在、2026/27年度の春小麦の作付面積は、当初の作付予定面積(18.6万ヘクタール)を上回り18.9万ヘクタールとなっている。

ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.12)によれば、2026/27年度の実産量は、22～23百万トンとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2026/27年度の実輸出量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度同となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(18.1百万トン)から22.7%減の14.0百万トンとなる見込み(図)。

EUは、ウクライナ産品の輸入に関し、2025年6月5日に「深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)」に基づき、関税割当制度等の適用を再開した。その後、新たな貿易措置についてウクライナと合意し、同年10月29日に発効となった。これにより、小麦及びメスリン等に対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンに見直された。

現地情報会社によれば、2025/26年度のうち2025年7月～2026年5月の輸出量は、前年同期(1,479.7万トン)に比べ16.1%減の1,242.0万トン。輸出先国別には、エジプト375.4万トン(30.2%)、アルジェリア227.3万トン(18.3%)、インドネシア159.4万トン(12.8%)の順(表)。前年度からの減少は、輸出先第1位であったスペインへの輸出が大きく減少したことや、主要輸出先である北アフリカや中東におけるロシア産小麦等との競合が要因。6月下旬以降、小麦の収穫が開始され、輸出量の増加が見込まれるものの、ロシアによる生産拠点や輸送インフラへの攻撃による被害が輸出の抑制要因になるおそれがあるとしている。

USDAによれば、2026/27年度の期末在庫量は、輸出量の引上げ等を受け前月予測から2.0百万トン下方修正されたものの、前年度から18.8%増の2.5百万トンとなる見込み。

小麦－ウクライナ(主に冬小麦を栽培)

(単位:百万トン)

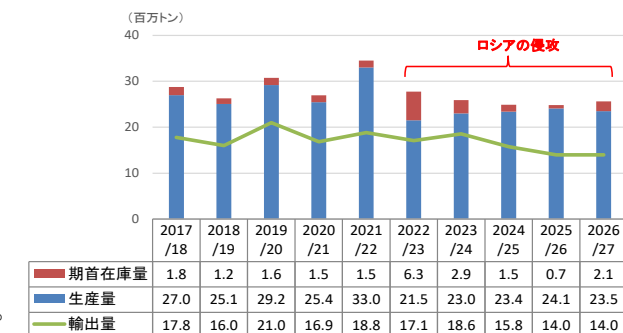
年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	23.4	24.1	23.5 (25.0)	0.5	▲ 2.5
消費量	8.5	8.8	9.2 (10.1)	-	4.5
うち飼料用	3.6	3.8	4.2 (2.9)	-	10.5
輸出量	15.8	14.0	14.0 (16.0)	1.0	-
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	0.7	2.1	2.5 (1.9)	▲ 2.0	18.8
期末在庫率	3.0%	9.3%	10.9% (7.4%)	▲ 9.5	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.20	5.65	5.20 (6.20)	-	▲ 8.0
単収(t/ha)	4.50	4.27	4.52 (4.03)	0.10	5.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナの小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年5月)		2025/26年度 (2025年7月～2026年5月)	
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
スペイン	326.1	20.9	スペイン	326.1	22.0
エジプト	211.1	13.5	エジプト	190.1	12.8
アルジェリア	195.1	12.5	アルジェリア	176.0	11.9
インドネシア	158.8	10.2	インドネシア	157.6	10.7
ベトナム	104.7	6.7	ベトナム	93.4	6.3
その他	566.5	36.3	その他	536.5	36.3
合計	1,562.2	100.0	合計	1,479.7	100.0

資料:APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27年度の輸入量は前年度同の見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2026/27年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から0.7%増、過去5年平均(138.3百万トン)から2.0%増の141.0百万トンとなり、史上最高となる見込み(図)。

中国糧油信息中心(2026.6.9)によれば、6月8日現在、夏季の小麦の収穫面積は約1,460.7万ヘクタールで、収穫進捗率は64.6%となっている。安徽省では収穫がほぼ完了しており、河南省95%超、江蘇省70%超、山東省35%超、陝西省約30%、河北省及び山西省10%超となっている。

中国中央気象台「全国農業気象週報」(2026.6.15)によれば、6月7～13日の週の2026/27年度冬小麦は、河南省、山東省、安徽省、河北省、江蘇省、湖北省、陝西省、山西省、新疆ウイグル自治区及び甘粛省において、主に乳熟期から成熟期を迎えており、一部開花期の圃場も残っている。河北省、山東省、山西省などでは成熟期を迎えた割合が高く、収穫が進展している。気象条件は、河北省西部・北部及び北京市、天津市周辺で降雨が多く、収穫、乾燥及び品質に悪影響が確認される一方、河南省南部、山東省、陝西省関中などでは降雨が少なく、日照と気温が概ね平年並みで推移し、収穫及び乾燥に良好な気象条件となった。全国的には、成熟期から収穫期に移行しており、多くの省では収穫が順調である一方、河北省周辺など降雨の多い地域では収穫遅延や品質低下に注意が必要となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2026/27年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度及び過去5年平均(149.9百万トン)から1.3%減の148.0百万トンとなる見込み。

2026/27年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度同となるものの、過去5年平均(9.3百万トン)から35.7%減の6.0百万トンとなる見込み(図)。

2026年5月14日の米中首脳会談後、ホワイトハウスは、5月17日付のファクトシートで、中国が2026年から2028年の各年に少なくとも170億ドルの米国農産物を購入すると発表した。なお、具体的な品目は公表されていない。

中国商務部「米中経済貿易協議の暫定的な成果解説」(2026.5.21)によれば、米中双方が農産物の貿易拡大に向けて努力していく考えを示した。中国海関統計によれば、2025/26年度のうち2025年7月～2026年4月の輸入量は、前年同期(295.6万トン)に比べ50.5%増の445.0万トン。輸入先国別には、カナダ253.6万トン(57.0%)、豪州107.5万トン(24.2%)、アルゼンチン35.0万トン(7.9%)の順(表)。

USDAによれば、2026/27年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から1.6%減の120.8百万トンとなる見込み(図)。

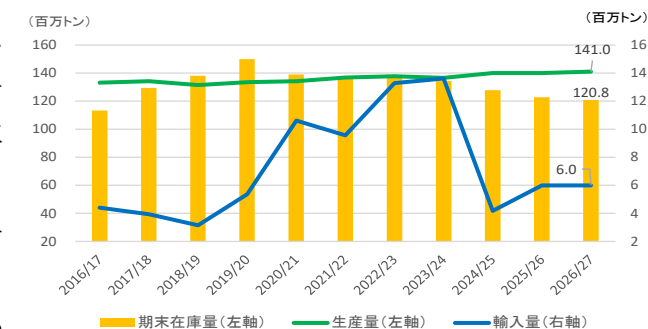
小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変	対前年度増減率(%)
生産量	140.1	140.1	141.0 (140.5)	-	0.7
消費量	150.0	150.0	148.0 (146.9)	-	▲1.3
うち飼料用	33.0	33.0	31.0 (28.0)	-	▲6.1
輸出入量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-
輸入量	4.2	6.0	6.0 (6.3)	-	-
期末在庫量	127.8	122.8	120.8 (134.3)	-	▲1.6
期末在庫率	84.6%	81.4%	81.1% (90.7%)	-	▲0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.59	23.58	23.60 (23.59)	-	0.1
単収(t/ha)	5.94	5.94	5.97 (5.96)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

図 中国の小麦の生産量・輸入量・期末在庫量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦の輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年4月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
カナダ	185.9	48.2	カナダ	126.0	42.6	カナダ	253.6	57.0
豪州	86.9	22.5	豪州	60.0	20.3	豪州	107.5	24.2
米国	46.2	12.0	米国	46.2	15.6	アルゼンチン	35.0	7.9
カザフスタン	30.8	8.0	カザフスタン	29.4	9.9	米国	26.8	6.0
ロシア	29.7	7.7	ロシア	28.7	9.7	ロシア	12.1	2.7
日本	4.9	1.3	日本	4.1	1.4	カザフスタン	5.2	1.2
その他	1.5	0.4	その他	1.2	0.4	その他	4.8	1.1
合計	385.9	100.0	合計	295.6	100.0	合計	445.0	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・インドで上方修正され、前月から上方修正された。

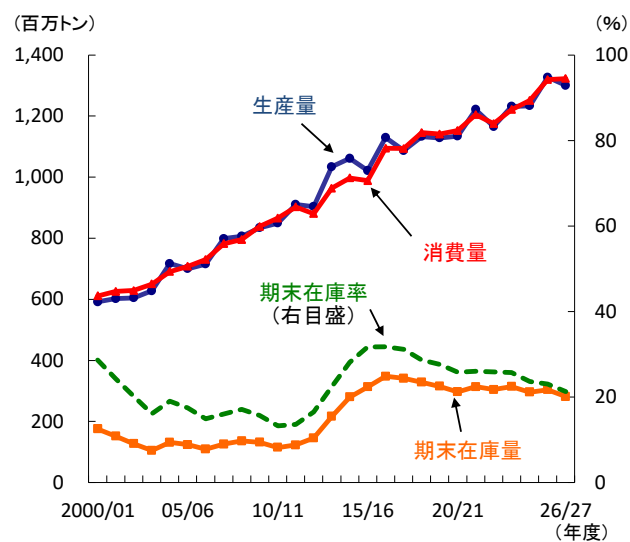
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・トルコ等で下方修正されたものの、インド、ブラジル、エジプト、メキシコ、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

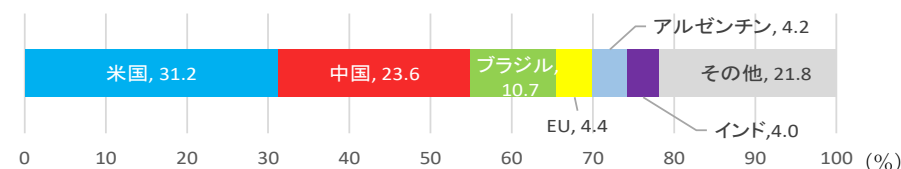
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

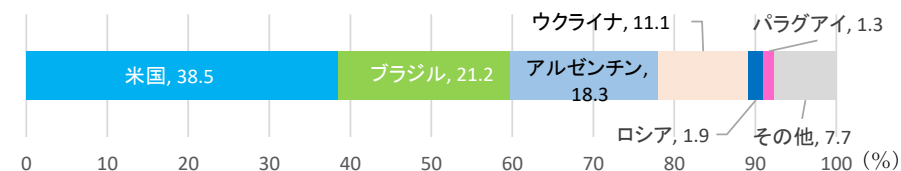
年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,233.2	1,326.7	1,300.4	5.0	▲ 2.0
消費量	1,251.1	1,319.3	1,322.5	7.7	0.2
うち飼料用	784.0	823.3	832.6	3.3	1.1
輸出量	187.1	217.0	207.6	0.7	▲ 4.3
輸入量	186.1	197.6	199.6	1.0	1.0
期末在庫量	296.0	303.4	281.2	3.7	▲ 7.3
期末在庫率	23.7%	23.0%	21.3%	0.2	▲ 1.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2026)

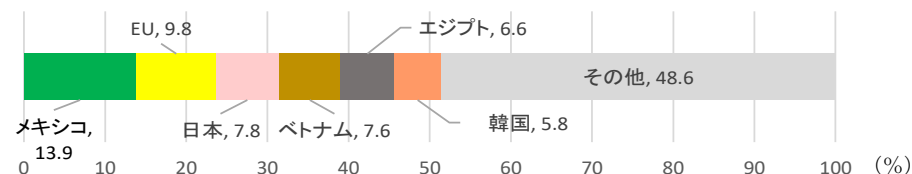
○ 2026/27年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,300.4 百万トン)



○ 2026/27年度 世界のとうもろこしの輸出量 (207.6 百万トン)



○ 2026/27年度 世界のとうもろこしの輸入量 (199.6 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 6.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から 6.0%減少するものの、過去5年平均(385.7 百万トン)から 5.3%増の 406.3 百万トンと史上2番目の見込み。同「Grain: World Markets and Trade」(2026.5.12)によれば、肥料コストの上昇を背景として、より高い収益性が見込まれる大豆に作付けがシフトし、とうもろこしの生産量は減少する見込み。

同「Crop Progress」(2026.6.15)によれば、6月14日現在、出芽進捗率は94%と、前年同期(93%)、過去5年平均(93%)を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が68%と、前年同期(72%)を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用等需要は増加するものの、飼料用消費の減少等を受け、前年度から 0.6%減の 331.6 百万トンと史上2番目の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、他の輸出国との競争や輸入需要の縮小を受け前年度から 5.3%減の 80.0 百万トンとなるものの史上2番目となる見込み。

また、2025/26 年度の輸出量は、84.5 百万トンと史上最高の見込み。同「Grain Transportation Report」(2026.6.11)によれば、この輸出量は、記録的な生産量、主要輸入国からの強い需要、競争力のある価格に支えられている。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年9月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(4,905.8 万トン)に比べ 28.1%増の 6,283.0 万トン。輸出先国別には、メキシコ 1,825.1 万トン(29.0%)、日本 1,134.4 万トン(18.1%)、韓国 669.8 万トン(10.7%)の順となっている(表)。

同「Grain: World Markets and Trade」(2026.6.11)によれば、6月8日現在の輸出価格は、米国は好調な生育期の開始により前月から 20ドル/トン下落し 205ドル/トン。記録的な生産量を受け、アルゼンチンは 17ドル/トン下落し 196ドル/トン、ブラジルは 23ドル/トン下落し 208ドル/トンとなった(図)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、生産量の減少を受け前年度から 8.6%減となるものの、過去5年平均(41.6 百万トン)からは 19.6%増の 49.8 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 0.9ポイント減の 12.1%となる見込み。

とうもろこしー米国

(4～5月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年9月～27年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	378.3	432.3	406.3	-	▲ 6.0
消費量	311.6	333.5	331.6	-	▲ 0.6
うち飼料用	138.5	157.5	155.0	-	▲ 1.6
エタノール用等	138.1	141.6	142.2	-	▲ 0.4
輸出量	72.6	84.5	80.0	-	▲ 5.3
輸入量	0.6	0.7	0.6	-	▲ 9.9
期末在庫量	39.4	54.5	49.8	0.1	▲ 8.6
期末在庫率	10.3%	13.0%	12.1%	0.02	▲ 0.9

(単位:百万トン)

(参考)
 収穫面積(百万ha) 33.61 36.93 35.37 - ▲ 4.2
 単収(t/ha) 11.26 11.71 11.49 - ▲ 1.9

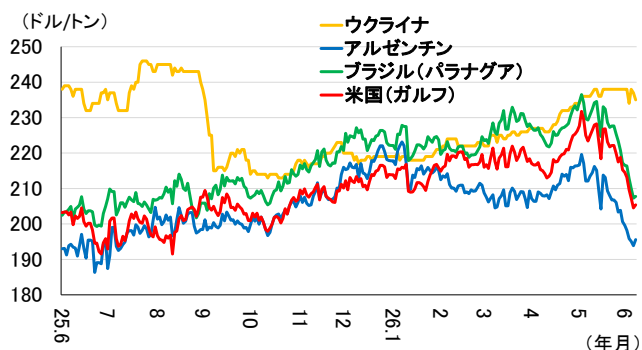
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
 「World Agricultural Production」(11 June 2026)

表 米国のとうもろこしの輸出先国と輸出量

国名	2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)		2024/25年度 (2024年9月～2025年5月)		2025/26年度 (2025年9月～2026年5月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	2,212.2	32.6	1,612.0	32.9	1,825.1	29.0
日本	1,344.0	19.8	970.6	19.8	1,134.4	18.1
コロンビア	743.7	11.0	549.0	11.2	669.8	10.7
韓国	617.4	9.1	434.6	8.9	625.8	10.0
台湾	241.7	3.6	202.7	4.1	342.4	5.4
その他	1,617.3	23.9	1,137.0	23.2	1,685.4	26.8
合計	6,776.2	100.0	4,905.8	100.0	6,283.0	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 各国のとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料:IGCのデータをもとに農林水産省で作成

< ブラジル > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受け前年度から 0.7%増、過去5年平均(129.2 百万トン)から 7.6%増の 139.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.6.11)によれば、2025/26 年度の実生産量は、単収の減少を受け前年度から 0.5%減の 140.5 百万トンとなる見込み。作期別には、第1期作(南部が主産地)の実生産量は、前年度から 17.7%増の 29.3 百万トンとなる見込み。良好な気象条件、適期の作付け、生産者の投資により、単収は史上最高となる見込み。収穫進捗率は 87.7%に達した。第2期作(中西部が主産地)の実生産量は、前年度から 4.7%減の 107.9 百万トンとなる見込み。5月はブラジル中部の大部分で降雨不足となったことにより、適期を過ぎて作付けされた作物に影響が及び、特にゴイアス州、ミナスジェライス州で影響が顕著であった。第3期作(北東部が主産地)の実生産量は、前年度から 8.9%増の 3.3 百万トンとなる見込み(図)。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、エタノール用需要の増加を受け前年度から 2.1%増の 98.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Feed Outlook」(2026.5.14)によれば、ブラジル政府は、国内で販売されるガソリンに義務付けているエタノール混合比率を 30%から 32%に引き上げることを検討している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け前年度から 2.3%増の 44.0 百万トンとなる見込み。また、2025/26 年度の実輸出量は、前年度から 2.4%増の 43.0 百万トンとなる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3~5月の輸出量は、前年同期(108.5 万トン)に比べ 56.8%増の 170.1 万トン。輸出先国別には、エジプト 97.1 万トン(57.1%)、ベトナム 20.0 万トン(11.7%)、マレーシア 15.5 万トン(9.1%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、消費量及び輸出量の増加を受け前年度から 9.8%減となるものの、過去5年平均(9.1 百万トン)から 22.3%増の 11.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 1.0 ポイント減の 7.8%となる見込み。

とうもろこしーブラジル

(第1期作は、10~12月に作付けされ、2~6月に収穫される。第2期作は、大豆収穫後の1~2月に作付けされ、6~9月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年3月~28年2月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.0	138.0 (140.5)	139.0 (-)	- (-)	0.7 (-)
消費量	91.5	96.0 (94.9)	98.0 (-)	1.0 (-)	2.1 (-)
うち飼料用	64.0	64.0 ...	65.0 ...	- ...	1.6 ...
輸出入量	42.0	43.0 (46.5)	44.0 (-)	- (-)	2.3 (-)
輸出入量	1.8	1.7 (1.7)	1.8 (-)	- (-)	5.9 (-)
期末在庫量	11.6	12.3 (13.2)	11.1 (-)	▲0.3 (-)	▲9.8 (-)
期末在庫率	8.7%	8.8% (9.4%)	7.8% (-)	▲0.3 (-)	▲1.0 (-)

(参考)

収穫面積(百万ha)	22.30	22.80 (22.58)	23.20 (-)	- (-)	1.8 (-)
単収(t/ha)	6.10	6.05 (6.22)	5.99 (-)	- (-)	▲1.0 (-)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(11 June 2026)

CONAB「Graos」(11 June 2026) ※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

図 ブラジルのクロップカレンダー

2025/26年度	2025年				2026年									
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
とうもろこし 第1期作	作付け 4.1百万ha				収穫 29.3百万トン									
とうもろこし 第2期作					作付け 17.8百万ha			収穫 107.9百万トン						
とうもろこし 第3期作					大豆収穫後の一部圃場で第2期作とうもろこし作付け				作付け 0.7百万ha		収穫 3.3百万トン			
大豆	作付け 48.6百万ha				収穫 180.3百万トン									

資料:CONAB「Graos」(2026.6.11)等をもとに農林水産省で作成。

なお、作付け及び収穫の時期は目安である。

表 ブラジルのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年3月~2026年2月)			2024/25年度 (2025年3~5月)			2025/26年度 (2026年3~5月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
イラン	871.3	20.9	イラン	47.8	44.1	エジプト	97.1	57.1
エジプト	724.2	17.4	サウジアラビア	27.5	25.3	ベトナム	20.0	11.7
ベトナム	527.6	12.7	ヨルダン	8.1	7.5	マレーシア	15.5	9.1
サウジアラビア	219.6	5.3	エジプト	8.0	7.3	イラン	13.6	8.0
中国	192.9	4.6	アルジェリア	4.4	4.0	サウジアラビア	5.7	3.3
その他	1,634.1	39.2	その他	12.8	11.8	その他	18.3	10.8
合計	4,169.7	100.0	合計	108.5	100.0	合計	170.1	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 9.8%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から 9.8%減となるものの、過去5年平均(50.1 百万トン)から 9.7%増の 55.0 百万トンとなる見込み(図)。同「Grain and Feed Annual」(2026.4.20)によれば、早植えとうもろこしの作付けは8月下旬に開始される見込み。肥料価格等の生産コストの上昇が懸念されており、肥料投入量が少ない大豆に作付けがシフトする可能性がある。

USDA によれば、2025/26 年度の実績は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度から 24.5%増の 61.0 百万トンと史上最高の見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.6.4)によれば、6月4日現在の 2025/26 年度のとうもろこしの収穫進捗率は 53%と前年同期(48%)を上回っており、主要生産州では、ブエノス・アイレス州 60%(前年同期 51%)、コルドバ州 58%(同 52%)、サンタフェ州 80%(同 76%)、ラ・パンパ州 4%(同 17%)となっている。ブエノス・アイレス州では全体として単収は良好であるものの、12 月下旬から 1 月初旬にかけて水分不足の影響を受けた一部圃場では単収が低い。また、サンタフェ州では一部地域の遅植えとうもろこしで病害虫ヨコバイの被害がみられており、影響の程度は収穫時に評価される。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実績は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正されたものの、飼料用消費の減少を受け前年度から 4.8%減の 17.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 11.6%減の 38.0 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3~4月の輸出量は、前年同期(670.6 万トン)に比べ 47.5%増の 989.5 万トン。輸出先国別には、ベトナム 177.6 万トン(17.9%)、エジプト 157.4 万トン(15.9%)、アルジェリア 123.8 万トン(12.5%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の実績は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、生産量の減少を受け前年度から 14.9%減、過去5年平均(3.9 百万トン)からは 2.8%増の 4.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 0.4 ポイント減の 7.2%となる見込み。

とうもろこし-アルゼンチン

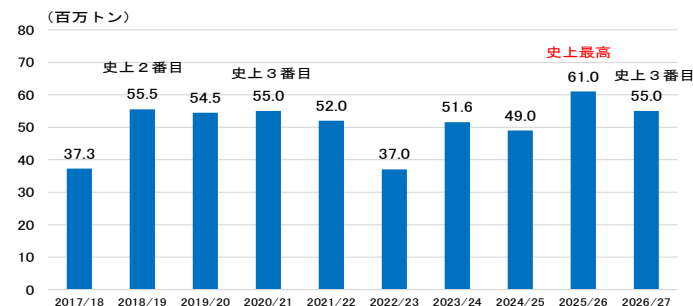
(早植えとうもろこしは、9 月後半~12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、12 月前半~翌年2月前半に作付けされる。3~8月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年3月~28年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.0	61.0	55.0 (59.0)	-	▲ 9.8
消費量	17.1	18.6	17.7 (21.6)	0.4	▲ 4.8
うち飼料用	12.7	14.0	13.0 (16.5)	0.2	▲ 7.1
輸 出 量	29.1	43.0	38.0 (39.0)	-	▲ 11.6
輸入量	0.01	0.01	0.01 (0.001)	-	-
期末在庫量	5.3	4.7	4.0 (4.4)	0.5	▲ 14.9
期末在庫率	11.5%	7.6%	7.2% (7.3%)	0.9	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.83	8.20	7.90 (8.50)	-	▲ 3.7
単収(t/ha)	7.18	7.44	6.96 (6.94)	-	▲ 6.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

図 アルゼンチンのとうもろこしの生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

表 アルゼンチンのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年3月~2026年2月)			2024/25年度 (2025年3~4月)			2025/26年度 (2026年3~4月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
ベトナム	534.1	18.4	ベトナム	122.0	18.2	ベトナム	177.6	17.9
ペルー	462.8	15.9	ペルー	89.3	13.3	エジプト	157.4	15.9
マレーシア	309.5	10.6	アルジェリア	67.8	10.1	アルジェリア	123.8	12.5
アルジェリア	259.0	8.9	マレーシア	65.0	9.7	サウジアラビア	87.4	8.8
サウジアラビア	214.9	7.4	サウジアラビア	58.8	8.8	ペルー	87.2	8.8
その他	1,125.7	38.7	その他	267.8	39.9	その他	356.0	36.0
合計	2,905.9	100.0	合計	670.6	100.0	合計	989.5	100.0

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省で作成。なお、その他には秘匿「Confidential」の数量を含む。

< ウクライナ > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け前年度から 2.9%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン)から 10.8%減の 30.0 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、6月 15 日現在、2026/27 年度の作付面積は 4.38 百万ヘクタールで、作付進捗率は 99%となっている。ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.12)によれば、2026/27 年度のとうもろこしの生産量は 32.0 百万トン超の見込み。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用需要の増加等を受け前年度から 2.9%増の 7.2 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、ウクライナでは7月1日からガソリンへのバイオエタノールの混合率を、EU の E10 基準に準拠して少なくとも7%以上にすることが義務付けられる。経済・環境・農業省高官は、これによりとうもろこしの供給が不足することはないと説明している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 4.5%増の 23.0 百万トンとなる見込み。同「Grain: World Markets and Trade」(2026.5.12)によれば、当該増加は、在庫量が高水準であり、また、生産量の減少がわずかであったことによる。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(1,772.0 万トン)に比べ 3.5%増の 1,834.7 万トン。輸出先国別には、トルコ 559.3 万トン(30.5%)、イタリア 325.2 万トン(17.7%)、スペイン 173.1 万トン(9.4%)の順となっている(表)。ブラジル産とうもろこしが国際市場に大量に出回り出す8月までは、総じて輸出需要は堅調に推移するとみられる。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.6.11)によれば、6月8日現在のウクライナの輸出価格は、前月からほぼ横ばいで、1ドル/トン下落し 235ドル/トンとなった(<米国>図参照)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸出量の増加等を受け前年度から 6.9%減となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均(2.5 百万トン)からは 1.8%増の 2.6 百万トンとなる見込み。2026/27 年度の期末在庫率は、前年度から 1.0 ポイント減の 8.5%となる見込み。

とうもろこし-ウクライナ

(4～5月に作付けされ、8～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	26.8	30.9	30.0 (30.0)	-	▲ 2.9
消費量	6.5	7.0	7.2 (6.4)	-	2.9
うち飼料用	5.3	5.5	5.5 (4.7)	-	-
輸出量	20.0	22.0	23.0 (24.5)	-	4.5
輸入量	0.02	0.01	0.01 (0.002)	-	-
期末在庫量	0.8	2.8	2.6 (2.0)	-	▲ 6.9
期末在庫率	3.2%	9.5%	8.5% (6.6%)	-	▲ 1.0

(参考)
 収穫面積(百万ha) 4.10 4.40 4.20 (4.00) - ▲ 4.5
 単収(t/ha) 6.54 7.02 7.14 (7.50) - 1.7
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(11 June 2026)
 IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

写真 中部ポルタヴァ州の圃場の様子(2026.6.8撮影)



当圃場では4～6葉期を迎えている。
 今春は、気温が低かったため、とうもろこしの作付開始がやや遅れた。

表 ウクライナのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年5月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
トルコ	568.8	28.4	トルコ	471.3	26.6	トルコ	559.3	30.5
イタリア	273.6	13.7	イタリア	247.7	14.0	イタリア	325.2	17.7
スペイン	240.7	12.0	スペイン	240.7	13.6	スペイン	173.1	9.4
オランダ	199.1	10.0	オランダ	173.4	9.8	オランダ	134.5	7.3
エジプト	162.5	8.1	エジプト	157.5	8.9	チュニジア	91.0	5.0
その他	556.1	27.8	その他	481.5	27.2	その他	551.6	30.1
合計	2,000.8	100.0	合計	1,772.0	100.0	合計	1,834.7	100.0

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 1.9%増、過去5年平均(287.0 百万トン)から 7.0%増の 307.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Grain and Feed Annual」(2026.3.19)によれば、農家は大豆よりとうもろこしのほうが収益性が高いと見込んでおり、とうもろこしの作付面積は安定的に推移すると予測される。

中国中央气象台「全国農業気象週報」(2026.6.15)によれば、6月7～13 日の期間、春とうもろこしは、黒龍江省、吉林省、遼寧省等では主に3～7葉期を迎えており、一部で節間伸長期に移行。黒龍江省南部、吉林省、遼寧省北部等では降水が多く、土壌水分が補給された一方、低温と日照不足が重なり生育が抑制され、局地的には過湿による生育不良が見られた。夏とうもろこしは、河南省、山東省、河北省、陝西省、山西省等で作付期～3葉期、雲南省や四川省では出芽期～節間伸長期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.2%増の 325.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Grain: World Markets and Trade」(2026.5.12)によれば、家禽肉生産の堅調な伸び、養豚部門及び国内加工業界からの安定した需要により消費量は増加すると見込まれる。

一方、中国農業農村部「中国農業展望報告(2026-2035)」(2026.4)によれば、2026 年のとうもろこしの飼料用消費は、豚の飼養頭数の減少を受け前年から 0.2%減少し 2.23 億トンとなる見込み。中長期的には、人口減少と食生活の変化により豚肉消費はさらに減少するものの、牛・羊・家禽肉、鶏卵、乳製品の消費は引き続き堅調に推移するため飼料用消費の減少幅は限定的とみられ、2030 年は 2.22 億トン、2035 年は 2.20 億トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度同の 6.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年4月の輸入量は、前年同期(133.0 万トン)に比べ 90.4%増の 253.1 万トン。輸入先国別には、ブラジル 192.9 万トン(76.2%)、ロシア 30.2 万トン(11.9%)、ミャンマー19.5 万トン(7.7%)の順となっている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年4月号」によれば、4月の国内価格は前月(2,500 元/トン)から下落し 2,480 元/トンとなった。農家の手持ち在庫が減少している一方、生体豚の飼養頭数の減少に伴い飼料向け需要もやや減少しており、今後国内のとうもろこし価格は概ね安定を保つと見込まれる。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加を受け前年度から 6.7%減、過去5年平均(199.3 百万トン)から 16.6%減の 166.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 4.4 ポイント減の 51.1%となる見込み。

とうもろこし—中国

(春とうもろこしは、2～4月に作付けされ、7～9月に収穫される。夏とうもろこしは、4～6月に作付けされ、9～10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()はIGC			
生産量	294.9	301.2	307.0 (306.0)		-	1.9
消費量	316.0	321.0	325.0 (314.4)		-	1.2
うち飼料用	234.0	239.0	243.0 (212.0)		-	1.7
輸 出 量	0.00	0.02	0.02 (0.0)		-	-
輸 入 量	1.8	6.0	6.0 (6.0)		-	-
期末在庫量	191.9	178.2	166.1 (175.7)		-	▲ 6.7
期末在庫率	60.7%	55.5%	51.1% (55.9%)		-	▲ 4.4

(参考)
 収穫面積(百万ha) 44.74 44.96 45.40 (45.13) - 1.0
 単収(t/ha) 6.59 6.70 6.76 (6.78) - 0.9
 資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(11 June 2026)
 IGC 「Grain Market Report」(21 May 2026)

表 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

2024/25 年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年4月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ブラジル	72.4	39.7	ブラジル	72.4	54.5	ブラジル	192.9	76.2
ウクライナ	37.6	20.6	ウクライナ	20.4	15.3	ロシア	30.2	11.9
ロシア	36.8	20.2	ミャンマー	18.4	13.8	ミャンマー	19.5	7.7
ミャンマー	22.8	12.5	ロシア	11.1	8.3	ウクライナ	6.2	2.4
ラオス	6.4	3.5	ラオス	6.2	4.7	ラオス	4.3	1.7
米国	3.9	2.1	米国	2.7	2.0	ペルー	0.0	0.0
その他	2.3	1.3	その他	1.8	1.4	その他	0.0	0.0
計	182.3	100.0	計	133.0	100.0	計	253.1	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 —

・前月からの変更はなかった。

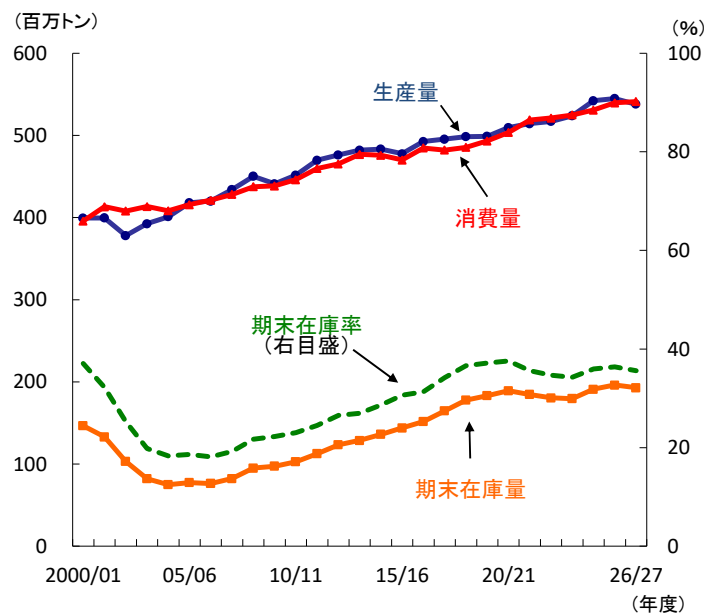
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・コンゴ民主共和国で上方修正されたものの、ベトナム、イラク、シンガポール、シリア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・前月からの変更はなかった。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省にて作成

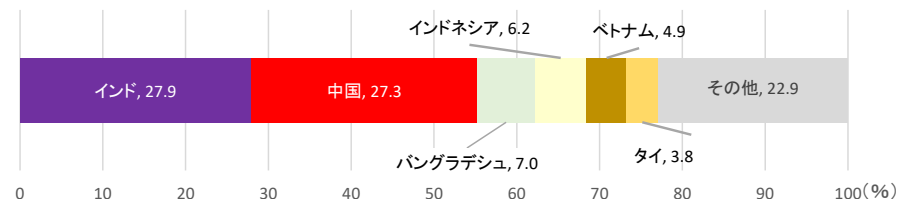
◎世界のコメ需給

(単位:百万精米トン)

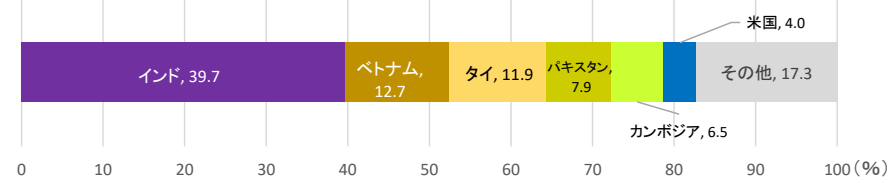
年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	542.0	544.7	537.8	-	▲ 1.3
消費量	530.8	539.5	541.2	▲ 0.2	0.3
輸出量	61.5	60.4	63.0	-	4.4
輸入量	58.0	57.1	59.7	▲ 0.1	4.6
期末在庫量	191.0	196.2	192.8	0.1	▲ 1.7
期末在庫率	36.0%	36.4%	35.6%	0.03	▲ 0.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2026)

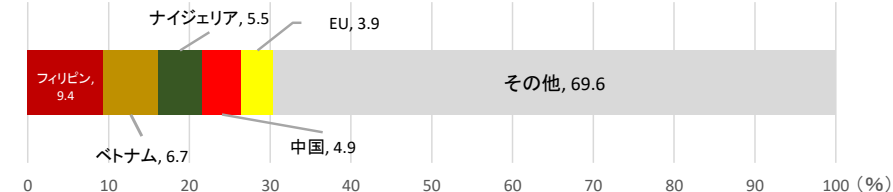
○ 2026/27年度 世界のコメの生産量(537.8百万トン)



○ 2026/27年度 世界のコメの輸出量(63.0百万トン)



○ 2026/27年度 世界のコメの輸入量(59.7百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度から 0.1 百万ヘクタール減少(前年度比 0.9%減)することから、前年度から 1.9%減の 20.3 百万トンの見込み。単収は、前年度から 1.1%減の 2.82 トン/ヘクタールとなる見込み。同「Grain and Feed Annual」(2026.3.31)によれば、この生産量減少は、2026 年半ばのエルニーニョ現象の影響による乾燥した天候で、水の供給不足が発生し、北部及び中部各県の冬期乾季作の作付面積縮小を要因としている。

タイ農業協同組合省農業経済局(2026.5)によれば、2025/26 年度の乾季米の作付面積は、前月予測から 0.1 百万ヘクタール下方修正され、前年度に比べ 3.2%減の 1.96 百万ヘクタールと予測されている。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.5)によれば、2025/26 年度の乾季米の収穫はほぼ完了し、生産量は、主に作付面積の減少により、前年度に比べ約 2.6%減が見込まれている。しかし生育期間中の好天に支えられ、単収はわずかな増加が見込まれている。一方、2026/27 年度の雨季米は、現在、作付準備段階であり、一部地域では作付けが始まっている。米価の下落や、肥料、農薬、燃料等の投入資材費の上昇により、作付面積は減少が予測されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、アフリカや東南アジアの主要市場からの需要拡大を受け、前年度から 7.1%増加し、7.5 百万トンの見込み。同「Grain and Feed Monthly」(2026.4.29)によれば、2026 年3月、ホルムズ海峡の封鎖に伴う物流上の制約や運賃の急騰を受け、中東向け輸出は減速し、2026 年3月 24 日、タイ商務省対外貿易局は記者会見にて、タイの中東向け年間輸出量のほぼ全てが失われる可能性があるかと警告した。そのため、タイのコメ輸出にとって、東南アジア向けの需要はますます重要性を増している。

タイ関税局によれば、2025/26 年度の輸出量のうち 2026 年1月～4月の輸出量は、前年同期(241.5 万トン)に比べ 9.9%減の 217.4 万トンで、輸出先国別には、南アフリカ 28.8 万トン(11.0%)、米国 23.7 万トン(10.8%)、マレーシア 18.2 万トン(8.2%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.3%増の 3.9 百万トンとここ5年間で最高水準となる見込み。

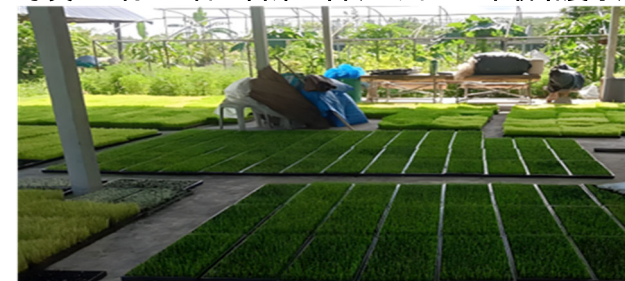
コメタイプ

夏期の雨季作(5～10月作付け、同年7月～翌年5月収穫)と冬期の乾季作(11月～翌年4月作付け、翌年2～10月収穫)で行われる。主にインディカ米を栽培。

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(27年1月～27年12月)		
			予測値、0はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.8	20.7	20.3	(20.7)	- ▲ 1.9
消費量	12.5	12.7	12.8	(12.7)	- 0.8
輸出量	7.9	7.0	7.5	(7.0)	- 7.1
輸入量	0.1	0.1	0.1	(0.02)	- -
期末在庫量	2.8	3.8	3.9	(3.9)	- 1.3
期末在庫率	13.5%	19.3%	19.0%	(19.8%)	- ▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.08	11.00	10.90	(11.00)	- ▲ 0.9
単収(割t/ha)	2.85	2.85	2.82	(1.87)	- ▲ 1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026) (単収は精米t/ha)

写真 生育7日目の苗床の苗(ジャポニカ米栽培農家)



6月1日に苗の育成を開始し、20日に田植えを行う予定(タイ東北部ウドンタニ県で6月7日撮影)。

表 タイのコメの輸出先国と輸出量

国名	2024/25年度 (2025年1～12月)		2024/25年度 (2025年1～4月)		2025/26年度 (2026年1～4月)			
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		
イラク	100.1	12.7	イラク	37.4	16.6	南アフリカ	28.8	11.0
南アフリカ	87.6	11.1	米国	28.6	12.4	米国	23.7	10.8
米国	81.8	10.4	中国	20.3	8.4	マレーシア	18.2	8.2
中国	65.5	8.3	南アフリカ	19.9	6.5	フィリピン	12.7	5.9
セネガル	28.7	3.6	セネガル	12.1	5.3	中国	11.6	5.6
マレーシア	27.8	3.5	フィリピン	8.6	3.6	セネガル	10.7	5.6
その他	398.6	50.4	その他	114.6	47.2	その他	111.8	52.9
計	790.1	100.0	計	241.5	100.0	計	217.4	100.0

資料:タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 15.2%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2026/27年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が0.92百万ヘクタールと前年度から17.1%減少することを受け、前年度から15.2%減の5.6百万トンの見込み。2025/26年度の収穫面積は、前年度に比べ4.3%減の1.11百万ヘクタールの見込み。2026/27年度の予測単収は、前年度(8.45トン/ヘクタール)から2.6%増の8.67トン/ヘクタールとなり、収穫面積の減少分を一部相殺している。

同「Crop Progress」(2026.6.15)によれば、6月14日現在、2026/27年度の南部主要生産6州の出芽進捗率は98%と、前年同期(96%)及び過去5年平均(96%)よりもやや進んでいる。中・短粒種の主要生産州であるカリフォルニア州の出芽進捗率は90%と、前年同期(89%)、過去5年平均(85%)に比べ進捗は早い。南部主要生産6州の作柄評価は「良～優良」が70%と、前年同期(74%)を下回る。カリフォルニア州の作柄評価は「良～優良」が80%となっている。同「Rice Outlook: June 2026」(2026.6.15)によれば、2026/27年度のカリフォルニア産米は主にカリフォルニア州セントラルバレー北部の灌漑水田で栽培され、ほぼ全てが灌漑栽培である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2026/27年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から5.8%増の1.5百万トンの見込み。2000/01年度以降、米国の長粒種米の輸入量は増加しており、約0.3百万トンから、2024/25年度には過去最高の約1.4百万トンに達した。

2026/27年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から1.2%減の2.5百万トンの見込み。この内、長粒種米の輸出量は、南米の主要コメ輸出国との競争激化、国内生産量の減少及び比較的高い米国長粒種米価格により、3年連続の減少となる見込み。同「Rice Outlook: June 2026」(2026.6.15)によれば、2025/26年度の米国からメキシコへの輸出減の要因として、第一にメキシコのコメ輸入総量が前年度比で約20%減少していること、第二に2026年に入り、メキシコが価格競争力と品質に基づき、ブラジル及びウルグアイから粳米と精米を輸入していることが挙げられている。

同「Exports Sales Query System」によれば、2025/26年度のうち2025年8月～2026年5月の輸出量は196.8万トンで、輸出先国別には、日本37.1万トン(18.8%)、メキシコ28.4万トン(14.4%)、ハイチ27.7万トン(14.1%)の順(表)。種類別には、長粒種は、輸出量130.0万トンで、輸出先国別には、ハイチ27.7万トン(国別シェア21.3%)、メキシコ23.8万トン(同18.3%)、コロンビア16.9万トン(同13.0%)。中・短粒種は、輸出量66.8万トンで、輸出先国別には、日本37.1万トン(国別シェア55.5%)、韓国14.4万トン(同21.5%)、メキシコ4.6万トン(同6.9%)。USDAによれば、2026/27年度の期末在庫量は、前月予測から0.02百万トン上方修正されたものの、生産量の減少を受け、前年度から21.8%減の1.4百万トンとなる見込み。

コメ 米国

長粒種の生産量は7割、中・短粒種の生産量は3割を占め、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

(単位:百万精米トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年8月～27年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	6.6	5.6	-	▲15.2
消費量	5.3	5.4	4.9	-	▲8.9
輸出量	2.9	2.5	2.5	-	▲1.2
輸入量	1.6	1.4	1.5	-	5.8
期末在庫量	1.7	1.7	1.4	0.02	▲21.8
期末在庫率	20.9%	22.0%	18.4%	0.3	▲3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.16	1.11	0.92	-	▲17.1
単収(ト/ha)	8.69	8.45	8.67	-	2.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 June 2026)

表 米国のコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年8月～2026年5月)		
国	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	68.6	23.8	メキシコ	61.3	24.4	日本	37.1	18.8
日本	39.4	13.7	日本	31.0	12.4	メキシコ	28.4	14.4
ハイチ	28.6	9.9	ハイチ	25.0	10.0	ハイチ	27.7	14.1
ホンジュラス	27.4	9.5	ホンジュラス	22.6	9.0	コロンビア	17.0	8.6
イラク	22.0	7.6	イラク	17.6	7.0	ホンジュラス	15.8	8.0
韓国	13.4	4.6	韓国	12.3	4.9	韓国	14.4	7.3
その他	89.3	31.0	その他	81.2	32.3	その他	56.4	28.7
合計	288.6	100.0	合計	251.1	100.0	合計	196.8	100.0

資料:USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、農作物の生産性向上との政府計画に沿って、前年度から 0.5%増の 147.0 百万トン(精米ベース)となる見込み。同「Grain and Feed Annual」(2026.3.19)によれば、中国政府は穀物生産を国家戦略上の最優先課題と位置付け、「中央一号文件」において単収向上の取組みを強調し、今後数年間で大規模水田における単収を 7.1 トン/ヘクタールから約 9 トン/ヘクタールに増加するとしている。

中国中央気象台「一期作稲生育段階」及び「二期作早稲生育段階」(2026.6.7~6.13)によれば、二期作早稲は、広東省、コワンシー(広西)壮族自治区、江西省、浙江省、海南省で主に収穫期にあり、一部穂ばらみ期または乳熟期へ進んでいる。福建省で穂ばらみ期、湖南省では節間伸長期から穂ばらみ期にある。一方、一期作は、黒龍江省、吉林省、遼寧省で活着期から3葉期、江蘇省で作付期から3葉期、安徽省、浙江省では活着期、湖北省、四川省、雲南省、重慶市では分けつ期から節間伸長期に進んでいる。

同「全国農業気象週報」(2026.6.15)によれば、総合的にみると二期作早稲は収穫、開花から登熟期へ移行する重要段階にあり、降水過多による受粉障害及び湿害が局地的なリスクとなっている。一期作は活着期から分けつ期を中心に概ね順調で、低温、日照不足の地域では生育停滞への注意が必要である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、人口減少に伴う食用米の消費減を要因として前年度から 1.6%減の 145.1 百万トンとなる見込み。

2026/27年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から5.7%減の3.3百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 7 月～2026 年 4 月の輸入量は、前年同期(181.5 万トン)に比べ 73.6%増の 315.2 万トンとなっている。輸入先国別には、ミャンマー116.2 万トン(36.9%)、ベトナム 75.1 万トン(23.8%)、タイ 47.7 万トン(15.1%)の順となっている(表1)。

USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 15.8%増の 2.2 百万トンの見込み。在庫が豊富であることに加え、中粒種米輸出国(米国等)との競争緩和を受け増加が見込まれている。中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 7 月～2026 年 4 月の輸出量は、前年同期(88.3 万トン)に比べ 91.8%増の 169.4 万トンとなっている。輸出先国別には、コートジボワール 15.9 万トン(9.4%)、トルコ 15.0 万トン(8.9%)、パプアニューギニア 12.9 万トン(7.6%)、カメルーン 12.5 万トン(7.4%)の順となっている(表2)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.9%増の 108.0 百万トンの見込み。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域(華南、華中、西南高原地域)で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

(単位:百万精米トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年7月～27年6月)		
			予測値、0はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.3	146.3	147.0 (146.3)	-	0.5
消費量	145.0	147.4	145.1 (145.7)	-	▲ 1.6
輸出量	1.2	1.9	2.2 (1.9)	-	15.8
輸入量	2.3	3.5	3.3 (2.8)	-	▲ 5.7
期末在庫量	104.5	105.0	108.0 (103.5)	-	2.9
期末在庫率	71.5%	70.3%	73.3% (70.1%)	-	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.01	29.00	29.00 (29.00)	-	-
単収(kg/ha)	7.15	7.21	7.24 (5.06)	-	0.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026) (単収は精米/ha)

表1 中国のコメの輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年4月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ミャンマー	67.4	28.9	ミャンマー	52.8	29.1	ミャンマー	116.2	36.9
タイ	56.1	24.0	タイ	44.1	24.3	ベトナム	75.1	23.8
ベトナム	49.6	21.3	ベトナム	37.7	20.7	タイ	47.7	15.1
インド	24.1	10.3	インド	18.5	10.2	パキスタン	25.4	8.1
パキスタン	20.7	8.9	パキスタン	17.0	9.4	インド	25.1	8.0
カンボジア	11.7	5.0	カンボジア	7.7	4.2	カンボジア	23.0	7.3
その他	3.8	1.6	その他	3.8	2.1	その他	2.7	0.9
合計	233.5	100.0	合計	181.5	100.0	合計	315.2	100.0

表2 中国のコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年4月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
韓国	17.5	15.2	韓国	14.2	16.1	コートジボワール	15.9	9.4
トルコ	10.7	9.3	トルコ	7.2	8.2	トルコ	15.0	8.9
パプアニューギニア	9.9	8.6	パプアニューギニア	6.7	7.5	パプアニューギニア	12.9	7.6
カメルーン	8.1	7.0	カメルーン	5.3	6.0	カメルーン	12.5	7.4
ガーナ	8.0	6.9	ガーナ	5.1	5.7	韓国	11.8	6.9
シエラレオネ	6.3	5.5	エジプト	5.0	5.7	ギニアビサウ	10.5	6.2
その他	54.5	47.4	その他	44.9	50.8	その他	90.9	53.6
合計	114.9	100.0	合計	88.3	100.0	合計	169.4	100.0

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< インド > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.6%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.6%減、過去5年平均(141.5 百万トン)から 6.0%増の 150.0 百万トンとなる見込み。降雨量が平年並みに戻り生産者が作付面積を縮小するため、前年度の記録的な生産量からわずかに減少すると予測されている。

インド農業・農民福祉省「第3次事前予測」(2026.5.27)によれば、2025/26 年度の実生産量は、154.024 百万トンと、前年度を 3.841 百万トン上回り、過去最高が見込まれている。USDA「Rice Outlook: June 2026」(2026.6.15)によれば、インドのコメ生産量は 10 年連続の増加を示し、世界の生産量の約 28%を占めると予測され、3年連続で中国を抜き世界最大のコメ生産国となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.0%増の 128.0 百万トンと予測されている。同「Grain and Feed Annual」(2026.4.2)によれば、当該増加は、主に食料安全保障プログラム向けの政府補助米の供給増、民間取引増及びインド政府が実施するエタノール混合プログラム(EBP)によるエタノール製造者への補助金付きコメ販売によるインド国内市場へのコメ供給量増が要因となっている。また、インド政府は人口増加と食料安全保障を確保するための政府による公的配給制度(PDS)による配給も継続しており、400 万トン増の過去最高の消費量となる見込み。

USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.4%増の 25.0 百万トンとなる見込み。同「Rice Outlook: June 2026」(2026.6.15)によれば、インドの実輸出量は豊富な供給量と価格競争力の高さから、世界貿易の 40%を占めると予測されている。

インド輸出入統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年3月の輸出量は、1,138.0 万トンと前年同期(1,282.2 万トン)に比べ 11.2%減となっている。輸出先国別には、ベナン 109.0 万トン(9.6%)、バングラデシュ 68.0 万トン(6.0%)、サウジアラビア 65.9 万トン(5.8%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、インド政府が在庫を管理しやすい水準まで減らすための措置を講じるとの予測から、前年度から 5.7%減の 50.0 百万トンとなる見込み。

インド食料公社(Food Cooperation India)によれば、2026 年5月時点の実在庫量は、38.96 百万トン(精米)と前年同期(38.15 百万トン)に比べ 2.1%増の見込み。

コメ・インド

カリフ米:雨季/モンスーン期(5～10月)に栽培。
ラビ米:冬季の11月～翌3月に栽培。
夏季米:3～6月に栽培。

(単位:百万精米トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年10月～27年9月)		
			予測値、0はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	150.2	154.0	150.0 (152.8)	-	▲ 2.6
消費量	121.4	125.5	128.0 (125.2)	-	2.0
輸出量	22.8	23.5	25.0 (21.6)	-	6.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	48.0	53.0	50.0 (54.5)	-	▲ 5.7
期末在庫率	33.3%	35.6%	32.7% (37.1%)	-	▲ 2.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	51.27	52.83	51.50 (52.70)	-	▲ 2.5
単収(kg/ha)	4.39	4.37	4.37 (2.93)	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026) (単収は精米/kg/ha)

写真 ハリヤナ州の水稲苗



ハリヤナ州は、夏季米の作付けが完了している。7日齢(手前)と12日齢の水稲苗(後方)(6月5日撮影)。

表 インドのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年3月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年3月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
ベナン	216.7	9.4	ベナン	138.1	10.8	ベナン	109.0	9.6
バングラデシュ	149.9	6.5	バングラデシュ	80.8	6.3	バングラデシュ	68.0	6.0
サウジアラビア	139.8	6.1	サウジアラビア	77.9	6.1	サウジアラビア	65.9	5.8
ギニア	114.5	5.0	ギニア	73.6	5.7	アラブ首長国連邦	63.0	5.5
トーゴ	113.9	5.0	コートジボワール	72.6	5.7	ギニア	62.9	5.5
コートジボワール	111.2	4.8	トーゴ	56.6	4.4	イラン	50.6	4.4
その他	1,454.8	63.2	その他	782.5	61.0	その他	718.6	63.1
計	2,300.8	100.0	計	1,282.2	100.0	計	1,138.0	100.0

資料:インド農業・加工食品輸出振興局(APEDA)「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

< ベトナム > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、コメ農家がより収益性の高い作物等(果物・野菜・養殖)へシフトする傾向が続き、収穫面積が前年度から 1.5%減少し、前年度から 0.4%減の 26.1 百万トンとなる見込み。

ベトナム総統計局(2026.6.3)によれば、2026年(USDA:2025/26年度)の全国の冬春作の作付面積は、5月20日現在、前年同期に比べ3.8万ヘクタール減の293.2万ヘクタールの見込み。内北部では1.4万ヘクタール減の103.6万ヘクタール。南部では2.4万ヘクタール減の189.6万ヘクタールとなっており、この内、メコンデルタ地域では、冬春作の収穫は概ね完了し、収穫面積は約124.7万ヘクタールとなった。雨季米(夏秋作)は、5月20日現在、南部で約82.6万ヘクタールが作付けられ、前年同期の78.7%に相当する。内メコンデルタ地域は、約67.8万ヘクタールに達し、前年同期の75.0%となった。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.5)によれば、北部では乾季米(冬春作)が幼穂形成期から登熟期に入っている。好天に恵まれ、灌漑用水も十分に確保されていることから、生産見通しは良好。南部では乾季米(冬春作)の収穫に入り、2025/26年度の作付面積192万ヘクタールの内、約148万ヘクタールで収穫が完了している。収穫済の平均単収は6.9トン/ヘクタールと予測され、前年度と同水準の見込み。一方、南部の雨季米(夏秋作)は作付期にあり、作付面積は0.4百万ヘクタールに達し、前年同期の作付面積の半分に相当する。作付進捗の遅れは、主に乾季米(冬春作)の収穫遅れによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、生産量の減少を受け前年度から 0.4%減の 22.3 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 8.1%増の 4.0 百万トンと、過去最高を記録すると予測されているが、同「Rice Outlook: June 2026」(2026.6.15)では、カンボジアからの粳米の輸入減(20.0 万トン)が予測されている。2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、アフリカや東南アジアの主要市場からの需要拡大を受け、輸出が増加すると予測され、前年度から 1.3%増の 8.0 百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2025/26 年度のうち 2026 年1~5月の輸出量は、427.5 万トンと前年同期(419.7 万トン)に比べ 1.9%増。輸出先国別には、フィリピン 204.9 万トン(47.9%)、中国 78.5 万トン(18.4%)、ガーナ 34.0 万トン(8.0%)の順(表)。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少及び輸出量の増加を受け、前年度から 8.3%減の 2.2 百万トンとなる見込み。

コメベトナム

北部で二期作、南部で三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。					
年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(27年1月~27年12月)		
			予測値、0はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	26.9	26.2	26.1 (28.2)	-	▲ 0.4
消費量	22.5	22.4	22.3 (23.3)	▲ 0.1	▲ 0.4
輸出量	8.1	7.9	8.0 (8.6)	-	1.3
輸入量	3.5	3.7	4.0 (3.5)	-	8.1
期末在庫量	2.8	2.4	2.2 (2.9)	-	▲ 8.3
期末在庫率	9.2%	7.9%	7.3% (9.0%)	0.02	▲ 0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.02	6.80	6.70 (7.12)	-	▲ 1.5
単収(粒/ha)	6.12	6.16	6.23 (3.98)	-	1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 June 2026)
IGC「Grain Market Report」(21 May 2026) (単収は精米t/ha)

写真 幼穂形成期から穂ばらみ期の稲



カントー市の「100万ヘクタール高品質・低排出米プロジェクト」参加の稲作農家。作付け後45日。草丈はおおよそ45~50cm。生育は順調(6月13日撮影)。

表 ベトナムのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年1~12月)			2024/25年度 (2025年1~5月)			2025/26年度 (2026年1~5月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
フィリピン	320.7	39.8	フィリピン	190.2	45.3	フィリピン	204.9	47.9
コートジボワール	105.5	13.1	コートジボワール	48.6	11.6	中国	78.5	18.4
ガーナ	91.9	11.4	中国	41.2	9.8	ガーナ	34.0	8.0
中国	74.7	9.3	ガーナ	40.0	9.5	コートジボワール	26.3	6.2
マレーシア	51.5	6.4	マレーシア	18.1	4.3	マレーシア	22.2	5.2
セネガル	16.8	2.1	バングラデシュ	10.5	2.5	シンガポール	6.1	1.4
その他	145.1	18.0	その他	71.2	17.0	その他	55.5	13.0
計	806.3	100.0	計	419.7	100.0	計	427.5	100.0

資料:ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27年度

生産量 前年度比 前月比

・ロシアで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

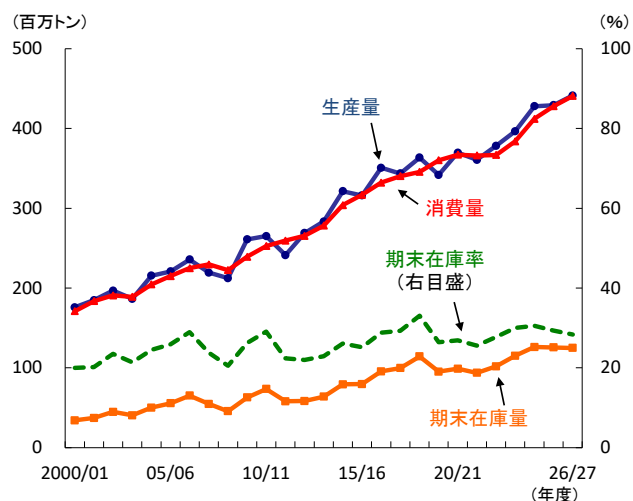
消費量 前年度比 前月比

・ウルグアイ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ロシアで下方修正されたものの、アルゼンチンで上方修正され、前月からの変更はなかった。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

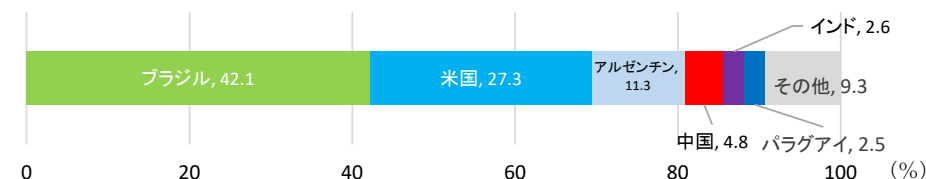
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

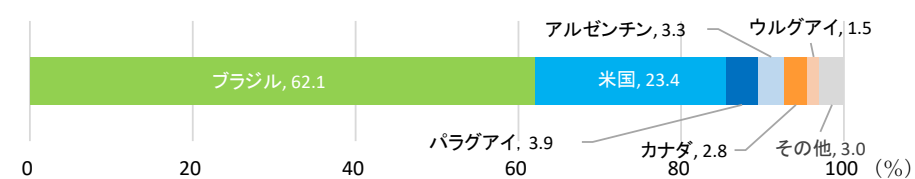
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	427.9	429.2	441.3	▲ 0.2	2.8
消費量	412.2	428.0	440.8	0.1	3.0
うち搾油用	359.1	371.1	383.1	▲ 0.1	3.2
輸出量	184.1	186.8	189.2	-	1.3
輸入量	179.2	185.0	188.0	-	1.6
期末在庫量	126.0	125.5	124.9	0.1	▲ 0.5
期末在庫率	30.6%	29.3%	28.3%	0.02	▲ 1.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2026)

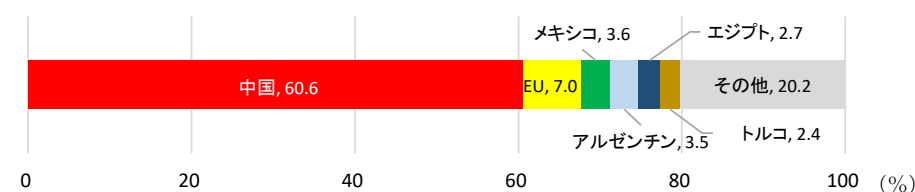
○ 2026/27年度 世界の大豆の生産量(441.3百万トン)



○ 2026/27年度 世界の大豆の輸出量(189.2百万トン)



○ 2026/27年度 世界の大豆の輸入量(188.0百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこしから大豆に作付けがシフトすることを受け前年度から 4.1%増、過去5年平均(117.2 百万トン)から 3.0%増の 120.7 百万トンとなる見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.6.15)によれば、中西部における5月の乾燥した天候により作付けが進捗し、6月初めの降雨が発芽を促進した。同「Crop Progress」(2026.6.15)によれば、6月14日現在の作付進捗率は 95%と、前年同期、過去5年平均(93%)を上回っている。出芽進捗率は 88%と前年同期(83%)、過去5年平均(82%)を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が 66%と、前年同期と同水準。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 3.6%増の 77.8 百万トンと史上最高の見込み。米国環境保護庁(EPA)は 2026 年3月、2026～27 年の再生可能燃料混合義務量を発表し、バイオディーゼルの義務量は 2025 年の 33.5 億ガロンに対して、2026 年は 54.0 億ガロン、2027 年は 57.0 億ガロンと過去最高の数量が設定された。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け前年度から 7.9%増の 44.4 百万トンの見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年9月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(4,484.8 万トン)に比べ 20.0%減の 3,588.7 万トン。輸出先国別には、中国 1,162.5 万トン(32.4%)、エジプト 423.1 万トン(11.8%)、メキシコ 395.6 万トン(11.0%)の順(表)。

国際穀物理事会(IGC)によれば、6月8日現在の輸出価格は、米国は前月(5月7日)から 24 ドル/トン下落し 449 ドル/トン、ブラジルは前月から6ドル/トン下落し 441 ドル/トン、アルゼンチンは前月から 18 ドル/トン下落し 411 ドル/トンとなった(図)。USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2026.6.11)によれば、米国の輸出価格は、主要生産地域での好天候を受け過去1か月で 2026 年2月以来の安値に下落した。ブラジルはほぼ横ばいで推移する一方、アルゼンチンは作柄予測の上方修正を受け下落した。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量及び輸出量の増加を受け前年度から 8.8%減となるものの、過去5年平均(8.4 百万トン)から 0.3%増の 8.4 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 1.0 ポイント減の 6.9%となる見込み。

大豆－米国

(5～6月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年9月～27年8月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	119.1	116.0	120.7	-	4.1
消費量	69.1	75.2	77.8	-	3.6
うち搾油用	66.6	72.1	74.8	-	3.8
輸出量	51.2	41.1	44.4	-	7.9
輸入量	0.8	0.7	0.7	-	-
期末在庫量	8.8	9.3	8.4	-	▲ 8.8
期末在庫率	7.3%	8.0%	6.9%	-	▲ 1.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.89	32.55	33.87	-	4.1
単収(t/ha)	3.41	3.56	3.56	-	-

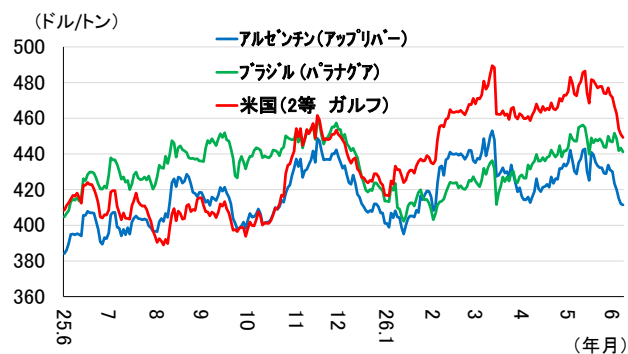
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2026)

表 米国の大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年9月～2026年5月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	2,232.5	44.6	中国	2,232.5	49.8	中国	1,162.5	32.4
メキシコ	498.5	10.0	メキシコ	376.1	8.4	エジプト	423.1	11.8
エジプト	369.2	7.4	エジプト	286.2	6.4	メキシコ	395.6	11.0
ドイツ	273.1	5.5	ドイツ	207.9	4.6	インドネシア	212.2	5.9
イタリア	210.0	4.2	イタリア	195.7	4.4	日本	164.9	4.6
その他	1,418.0	28.4	その他	1,186.5	26.5	その他	1,230.4	34.3
合計	5,001.5	100.0	合計	4,484.8	100.0	合計	3,588.7	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 各国の大豆輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

< ブラジル > 2026/27 年度の生産量は前年度から 3.3%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 3.3%増、過去5年平均(159.9 百万トン)から 16.3%増の 186.0 百万トンと史上最高の見込み(図)。同「Oilseeds and Products Annual」(2026.3.18)によれば、ブラジルでは近年、技術開発や研究に多額の投資を行っており、栽培技術の著しい進歩により収量の向上が期待される。

USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 4.3%増の 180.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.6.11)によれば、2025/26 年度の実生産量は、作付面積及び単収の増加を受け前年度から 5.1%増の 180.3 百万トンの見込み。一部地域では生育に不利な気象条件に見舞われたものの、多くの州で単収は良好となった。収穫進捗率は6月初旬で 99.71%となっているが、ロライマ州、トカンチンス州、アラゴアス州では、8月以降に収穫が開始される圃場もある。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、ブラジル国内の大豆粕及び大豆油の堅調な需要を受け前年度から 5.6%増の 69.6 百万トンと史上最高の見込み。同「Oilseeds and Products Annual」(2026.3.18)によれば、大豆油は、バイオディーゼル混合義務量引き上げによる需要増が見込まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け前年度から 2.2%増の 117.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年5月の輸出量は、前年同期(6,079.5 万トン)に比べ 14.1%増の 6,938.5 万トン。輸出先国別には、中国 5,089.1 万トン(73.3%)、スペイン 258.4 万トン(3.7%)、タイ 238.6 万トン(3.4%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加等を受け前年度から 0.8%減となるものの、過去5年平均(33.9 百万トン)からは 10.4%増の 37.4 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 0.9 ポイント減の 20.0%となる見込み。

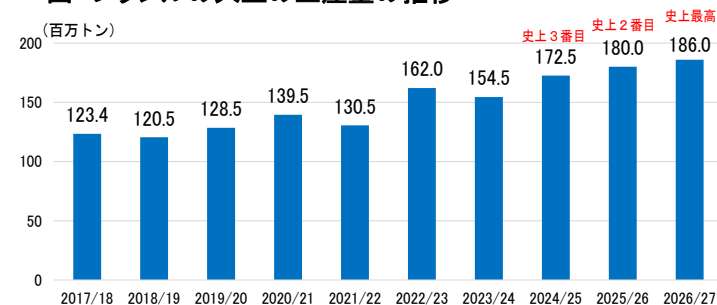
大豆—ブラジル

(9～12 月に作付けされ、1～4月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	172.5	180.0 (180.3)	186.0 (-)	- (-)	3.3 (-)
消費量	62.2	65.9 (65.3)	69.6 (-)	- (-)	5.6 (-)
うち搾油用	58.2	61.5 ...	65.0 ...	- ...	5.7 ...
輸出量	103.1	115.0 (116.1)	117.5 (-)	- (-)	2.2 (-)
輸入量	0.7	0.9 (0.5)	0.8 (-)	- (-)	▲11.1 (-)
期末在庫量	37.7	37.7 (9.3)	37.4 (-)	- (-)	▲0.8 (-)
期末在庫率	22.8%	20.8% (5.1%)	20.0% (-)	- (-)	▲0.9 (-)
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.40	48.50 (48.56)	50.00 (-)	- (-)	3.1 (-)
単収(t/ha)	3.64	3.71 (3.71)	3.72 (-)	- (-)	0.3 (-)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 June 2026)
CONAB「Graos」(11 June 2026)※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

図 ブラジルの大豆の実生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.6.11)をもとに農林水産省で作成

表 ブラジルの大豆の輸出先国と輸出量

国名	2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)		2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)		2025/26年度 (2025年10月～2026年5月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	7,968.8	77.3	4,512.9	74.2	5,089.1	73.3
スペイン	396.3	3.8	242.5	4.0	258.4	3.7
タイ	365.5	3.5	214.6	3.5	238.6	3.4
トルコ	184.8	1.8	129.7	2.1	205.6	3.0
イラン	146.3	1.4	129.5	2.1	147.9	2.1
その他	1,252.1	12.1	850.5	14.0	998.9	14.4
合計	10,313.8	100.0	6,079.5	100.0	6,938.5	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2026/27 年度の輸出量は前年度から 1.8%減少する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.6.19)によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 10.4%増の 7.5 百万トンとなる見込み(図)。2026/27 年度の作付面積は、他作物の投入コスト上昇及び価格下落による収益性低下により作付けが大豆へシフトし、前年度(2.34 百万ヘクタール)から 1.9%増、過去5年平均(2.23 百万ヘクタール)から 6.9%増の 2.38 百万ヘクタールとなる見込み。カナダ東部では作付けが継続しており、オンタリオ州穀物生産者協会(Grain Farmers of Ontario)によれば、6月第1週時点でオンタリオ州の作付進捗率は 80%となっている。ケベック州では作付けはほぼ終了している。西部のマニトバ州では6月第1週時点の作付進捗率は 64%となっている。

【需要状況】AAFCによれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用及び搾油用需要等の増加を受け前年度から 17.9%増の 2.3 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.8%減の 5.4 百万トンとなるものの、生産量の回復により過去の水準と比較すれば堅調な輸出となる見込み(図)。USDA「Oilseeds and Products Annual」(2026.4.23)によれば、EU Deforestation Regulation(森林減少防止に関する規則)が 2026 年 12 月 30 日から適用される。これにより森林減少を伴わない土地で生産されたことを証明する必要があり、EU へ輸出を行う場合、カナダの大豆生産者の負担が増加する。

AAFCによれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度(5.52 百万トン)から 0.4%減の 5.5 百万トンとなるものの、史上3番目の輸出量となる見込み。カナダ統計局によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年4月の輸出量は、前年同期(472.0 万トン)に比べ 1.8%増の 480.5 万トン。輸出先国別には、中国 192.1 万トン(40.0%)、アルジェリア 52.7 万トン(11.0%)、オランダ 52.4 万トン(10.9%)の順となっている(表)。

AAFCによれば、2025/26 年度の期末在庫量は堅調な輸出と安定した搾油により 0.1 百万トンと逼迫した水準となる見込み。2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の増加等を受け前年度から 195.3%増の 0.4 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 3.2 ポイント増の 4.9%となる見込み。

大豆－カナダ

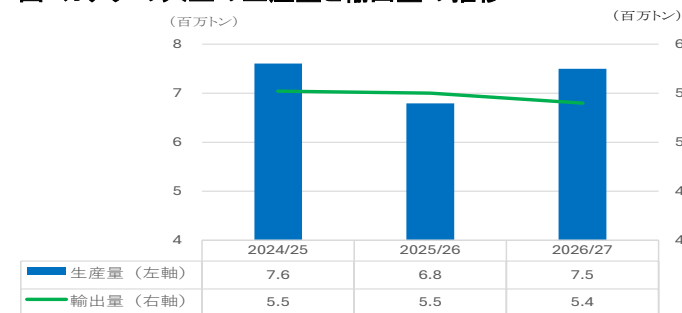
(5～6月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年8月～27年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.6	6.8 (6.8)	7.3 (7.5)	- (-)	7.5 (10.4)
消費量	2.3	2.0 (2.0)	2.2 (2.3)	▲0.05 (-)	10.0 (17.9)
うち搾油用	1.7	1.4 (1.7)	1.5 (1.8)	- (-)	7.1 (6.1)
輸出量	5.6	5.3 (5.5)	5.3 (5.4)	- (-)	- (▲1.8)
輸入量	0.3	0.4 (0.3)	0.3 (0.5)	- (-)	▲16.7 (50.0)
期末在庫量	0.6	0.5 (0.1)	0.6 (0.4)	▲0.05 (▲0.03)	22.2 (195.3)
期末在庫率	7.7%	6.2% (1.7%)	7.3% (4.9%)	▲0.6 (▲0.3)	1.2 (3.2)

(参考)
 収穫面積(百万ha) 2.29 2.32 (2.32) 2.35 (2.38) - (-) 1.3 (2.5)
 単収(t/ha) 3.32 2.93 (2.93) 3.11 (3.15) - (-) 6.1 (7.5)
 資料:USDA「PS&D」(11 June 2026)
 「World Agricultural Production」(11 June 2026)
 AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 June 2026)※()書き

図 カナダの大豆の生産量と輸出量の推移



資料:AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2026.6.19)をもとに農林水産省にて作成

表 カナダの大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年4月)			2025/26年度 (2025年8月～2026年4月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	104.2	19.0	中国	100.5	21.3	中国	192.1	40.0
イラン	83.9	15.3	イラン	83.9	17.8	アルジェリア	52.7	11.0
アルジェリア	52.1	9.5	アルジェリア	44.3	9.4	オランダ	52.4	10.9
米国	42.2	7.7	米国	29.3	6.2	イラン	43.1	9.0
日本	38.6	7.1	日本	27.0	5.7	日本	24.7	5.1
インドネシア	31.8	5.8	バングラデシュ	26.1	5.5	米国	23.8	4.9
その他	194.4	35.5	その他	161.0	34.1	その他	91.7	19.1
合計	547.2	100.0	合計	472.0	100.0	合計	480.5	100.0

資料:カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、単収増を受け前年度から 0.5%増、過去5年平均(19.8 百万トン)から 6.0%増の 21.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国農業農村部「2026 年5月中国農産物需給動向分析」(2026.5.12)によれば、2026/27 年度の作付面積は、大豆の収益性がとうもろこしを下回り、農家の作付意欲が低下したことを受け、前年度(10.26 百万ヘクタール)から 0.6%減の 10.19 百万ヘクタールとなる見込み。単収は前年度(2.04 トン/ヘクタール)から 0.8%増の 2.06 トン/ヘクタール。

中国糧油信息中心(2026.6.9)によれば、5月末時点で、黒龍江省、吉林省、遼寧省では作付・出芽期から3葉期を迎えている。中国中央气象台「全国農業気象週報」(2026.6.15)によれば、6月7～13日の期間、内モンゴル自治区東部や吉林省など、降水の多い地域で、土壌過湿や低温の影響により出芽後の生育や根系発達の遅れが生じる可能性が示唆されている。また安徽省南部では土壌水分不足も指摘されており、出芽のばらつきや初期生育の不均一化に留意が必要である。総合的にみると作付けから出芽初期の段階にあり、主要産地では概ね順調な生育となっているが、過湿と乾燥の両極端な水分条件が地域ごとのリスク要因となっている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加等を受け前年度から 1.6%増の 135.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.8%増の 114.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国農業農村部「2026 年5月中国農産物需給動向分析」(2026.5.12)によれば、2025/26 年度の実輸入量は、国内生豚・家禽の飼育頭数が過去最高水準を維持し、飼料原料となる大豆粕の需要が当初予測を超えて拡大したことを受け、前月予測から 7.5 百万トン上方修正され 103.3 百万トンとなる見込み。中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年4月の輸入量は、前年同期(4,637.2 万トン)に比べ 9.5%増の 5,078.3 万トン。輸入先国別には、ブラジル 3,134.1 万トン(61.7%)、アルゼンチン 872.1 万トン(17.2%)、米国 671.9 万トン(13.2%)の順(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年4月号」によれば、4月の国際価格は原油価格の上昇等を受け上昇傾向。国内価格は前月(4,980 元/トン)から上昇し 5,000 元/トンとなった。気温上昇に伴う野菜の供給増、肉及び卵価格の低水準での推移が、豆製品市場の需要を圧迫する一方、在庫大豆の競売における最低価格が高めに設定され、落札状況も良好なことから市場価格を下支えした。USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加を受け前年度から 0.2%減となるものの、過去5年平均(37.9 百万トン)から 16.7%増の 44.3 百万トンとなる見込み。

大豆—中国

(4～6月に作付けされ、9～10月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.7	20.9	21.0 (21.0)	-	0.5
消費量	127.4	132.9	135.0 (138.9)	-	1.6
うち搾油用	103.5	108.0	110.0 (114.5)	-	1.9
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 16.7
輸 入 量	108.0	112.0	114.0 (115.8)	-	1.8
期末在庫量	44.5	44.4	44.3 (49.0)	-	▲ 0.2
期末在庫率	34.9%	33.4%	32.8% (35.2%)	-	▲ 0.6

(参考)					
収獲面積(百万ha)	10.33	10.30	10.30 (10.25)	-	-
単収(t/ha)	2.00	2.03	2.04 (-)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 June 2026)

IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

表 中国の大豆の輸入先国と輸入量

国名	2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)		2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)		2025/26年度 (2025年10月～2026年4月)	
	輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ブラジル	7,610.8	69.6	2,154.8	46.5	3,134.1	61.7
米国	2,440.9	22.3	2,053.4	44.3	872.1	17.2
アルゼンチン	476.6	4.4	198.1	4.3	671.9	13.2
ウルグアイ	244.3	2.2	110.6	2.4	179.6	3.5
カナダ	118.6	1.1	94.0	2.0	164.5	3.2
ロシア	45.0	0.4	26.0	0.6	52.4	1.0
その他	2.1	0.0	0.2	0.0	3.7	0.1
合計	10,938.3	100.0	4,637.2	100.0	5,078.3	100.0

資料:中国海関統計のデータをもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2026/27 年度の生産量は前年度同の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度同、過去5年平均(43.6 百万トン)から 14.6%増の 50.0 百万トンとなる見込み。同「Oilseeds and Products Annual」(2026.4.9)によれば、現在高騰する肥料価格がさらに上昇し作付時期を迎えた場合、とうもろこしに比べ肥料投入量が少ない大豆への作付けシフトがさらに進む可能性がある。

USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収は増加するものの収穫面積の減少を受け前年度から 2.2%減の 50.0 百万トンとなる見込み。同「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、早植え大豆、遅植え大豆の両方において、生育期間中に適時の降雨に恵まれた。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.6.4)によれば、6月4日現在の2025/26年度の実産進捗率は96%と前年同期(91%)を上回っており、主要生産州では、ブエノス・アイレス州93%(前年同期82%)、コルドバ州99%(同100%)、サンタフェ州98%(同99%)となっている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から2.0%増の49.9 百万トンと史上最高の見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.6.15)によれば、2025年9月に輸出税が一時的に撤廃され輸出が増加したが、その後再導入されたことを受け搾油用需要が増加する見込み(表)。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測から0.2 百万トン上方修正されたものの、前年度から31.1%減の6.2 百万トンとなる見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.5.14)によれば、2025/26 年度は、上記の輸出税の一時撤廃を受け、輸出業者が特に中国向けに大量の輸出を行った。

USDA によれば、2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の搾油用大豆供給量の増及びパラグアイからの輸入量減少を受け、前年度から7.8%減の6.5 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン政府(2026.6.3)によれば、輸出税について、小麦は翌日から5.5%へ引き下げ、2027年1月から2028年12月にかけて、とうもろこしは5.5%、大豆は15%、大豆油・大豆粕は14%まで段階的な引き下げを発表した(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の実在庫量は、前月予測から0.3 百万トン上方修正され、輸出量の減少を受け前年度から1.7%増、過去5年平均(22.7 百万トン)から6.9%増の24.2 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から2.0ポイント増の43.2%となる見込み。

大豆—アルゼンチン

(10~1月に作付けされ、3~7月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月~27年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.1	50.0	50.0 (50.0)	-	-
消費量	48.9	48.9	49.9 (49.9)	-	2.0
うち搾油用	43.2	42.0	43.0 (43.4)	-	2.4
輸 出 量	7.9	9.0	6.2 (5.8)	0.2	▲ 31.1
輸 入 量	6.3	7.1	6.5 (6.2)	-	▲ 7.8
期末在庫量	24.7	23.8	24.2 (5.4)	0.3	1.7
期末在庫率	43.4%	41.1%	43.2% (9.7%)	0.4	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	17.46	16.30	17.10 (17.15)	-	4.9
単収(t/ha)	2.93	3.07	2.92 (-)	-	▲ 4.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 June 2026)

IGC「Grain Market Report」(21 May 2026)

表 アルゼンチンの輸出税率の推移

(2022年12月30日以降)

(単位:%)

政令	公布日	小麦	とうもろこし	大豆	大豆油 大豆粕
政令851/2021号	2022年12月30日	12	12	33	31
政令38/2025号	2025年1月27日	9.5	9.5	26	24.5
政令439/2025号	6月27日	9.5	12	33	31
政令526/2025号	7月31日	9.5	9.5	26	24.5
政令682/2025号	9月22日	0	0	0	0
政令526/2025号	9月24日(※)	9.5	9.5	26	24.5
政令877/2025号	12月12日	7.5	8.5	24	22.5
政令423/2026号	2026年6月3日	5.5	2027年1月~2028年12月		
			5.5に段階的に引下げ	15に段階的に引下げ	14に段階的に引下げ

※9月に一時的に輸出税を撤廃したものの、設定した輸出額の上限に達したため、以前の輸出税が復活した。

資料:アルゼンチン政府官報をもとに農林水産省で作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2026/27年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	26年6月～27年5月	26年9月～27年8月	26年8月～27年7月	26年9月～27年8月
カナダ	26年8月～27年7月			26年8月～27年7月
豪州	26年10月～27年9月		27年3月～28年2月	
EU	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		
中国	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月
ロシア	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		26年9月～27年8月
ウクライナ	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		
ブラジル		27年3月～28年2月	27年4月～28年3月	26年10月～27年9月
アルゼンチン	26年12月～27年11月	27年3月～28年2月		26年10月～27年9月
タイ			27年1月～12月	
インド	26年4月～27年3月		26年10月～27年9月	
ベトナム			27年1月～12月	

※市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2026/27年度は、米国の小麦では2026年6月～2027年5月、ブラジルのとうもろこしでは2027年3月～2028年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2) 単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216 メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772 メトリックトン	大麦	
	0.025401 メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515 メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359 メトリックトン	コメ	米国等

2 面積








1Acre(エーカー)	0.40469 ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16 ヘクタール	タイ
1 畝(ムー)	0.0667 ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536 リットル	英国	
1ガロン	3.785 リットル	米国	
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏(°F)	摂氏(°C) = (°F - 32) ÷ 1.8		

クロープカレンダー（小麦）







播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
EU 	145.1百万トン (シェア17.2%)	冬小麦																								
		春小麦																								
中国 	140.1百万トン (シェア16.6%)	冬小麦																								
		春小麦																								
インド 	117.9百万トン (シェア14.0%)																									
ロシア 	90.3百万トン (シェア10.7%)	冬小麦																								
		春小麦																								
米国 	54.0百万トン (シェア6.4%)	冬小麦																								
		春小麦																								
カナダ 	40.0百万トン (シェア4.7%)	春小麦																								
		冬小麦																								
豪州 	36.0百万トン (シェア4.3%)																									

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

クロープカレンダー（コメ）







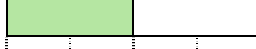

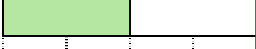



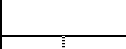






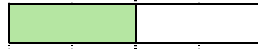

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 インド 152.0百万トン (シェア28.0%)	カリフ(雨期)	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: May-Jun, Harvest: Oct-Nov]												
		ラビ(乾期)	[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												[Sowing: Feb-Mar, Harvest: Jun-Jul]											
 中国 146.3百万トン (シェア27.0%)	一期作	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												
	二期作遅植え	[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												
	二期作早植え	[Sowing: Mar-Apr, Harvest: Sep-Oct]												[Sowing: Mar-Apr, Harvest: Sep-Oct]												
 バングラデシュ 37.7百万トン (シェア6.9%)	ボロ種	[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												
	アマン種	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												
	アウス種	[Sowing: Mar-Apr, Harvest: Sep-Oct]												[Sowing: Mar-Apr, Harvest: Sep-Oct]												
 インドネシア 33.8百万トン (シェア6.2%)	第1期作	[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												
	第2期作	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												
	第3期作	[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												
 ベトナム 26.2百万トン (シェア4.8%)	南部冬春作	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												
	北部冬春作	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												
	南部夏秋作早植え	[Sowing: Mar-Apr, Harvest: Sep-Oct]												[Sowing: Mar-Apr, Harvest: Sep-Oct]												
	北部冬作Lua Mua	[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												
	南部夏秋作遅植え	[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												[Sowing: Jun-Jul, Harvest: Dec-Jan]												
 タイ 20.7百万トン (シェア3.8%)	雨期作	[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												[Sowing: Apr-May, Harvest: Oct-Nov]												
	乾期作	[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												[Sowing: Jan-Feb, Harvest: Jun-Jul]												

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

クロープカレンダー（大豆）








播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ブラジル 	180.0百万トン (シェア42.1%)		   																							
米国 	116.0百万トン (シェア27.1%)		   																							
アルゼンチン 	48.0百万トン (シェア11.2%)	第1期作 第2期作	    																							
中国 	20.9百万トン (シェア4.9%)		   																							

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

クロープカレンダー（なたね）

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	N年												N+1年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カナダ 	22.0百万トン (シェア23.0%)																								
EU 	20.5百万トン (シェア21.5%)																								
中国 	16.0百万トン (シェア16.8%)																								
インド 	12.0百万トン (シェア12.6%)																								
豪州 	7.7百万トン (シェア8.0%)																								
ロシア 	5.5百万トン (シェア5.8%)																								
ウクライナ 	3.5百万トン (シェア3.7%)																								

資料：USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関(各国政府機関、FAO、IGC等)の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2026年6月中旬までに発表した情報を引用しています(最新年度は2026/27年度です)。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

<https://www.usda.gov/about-usda/reports-and-data/agency-reports>

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds:World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

- 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

・食料需給表:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>

・食品の価格動向:<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>

・米に関するマンスリーレポート:<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

・食料需給見通し(農林水産政策研究所):<https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報(ALICの情報サイト):<https://www.alic.go.jp/>

ア 砂糖、でんぷん:<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>

イ 野菜:<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>

ウ 畜産物:<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関(英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関(FAO) : <https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会(IGC) : <https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構(OECD)(農業・水産業分野):
<https://www.oecd.org/en/topics/agriculture-and-fisheries.html>
- ・農業市場情報システム(AMIS) : <http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省(USDA) : <https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社(CONAB) : <https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省(AAFC) :
<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局(ABARES) : <http://www.agriculture.gov.au/abares>

- データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、各国で概ね作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。以下サイトの「Reference Data」を参照ください。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。
- ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。
- 本資料の引用等につきましては、出所(農林水産省発行「食料安全保障月報」)を併記願います。
- 本資料の電子版は下記アドレスでご覧になれます。
農林水産省 食料安全保障月報
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html
- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
TEL:03-6744-2368(直通)

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

